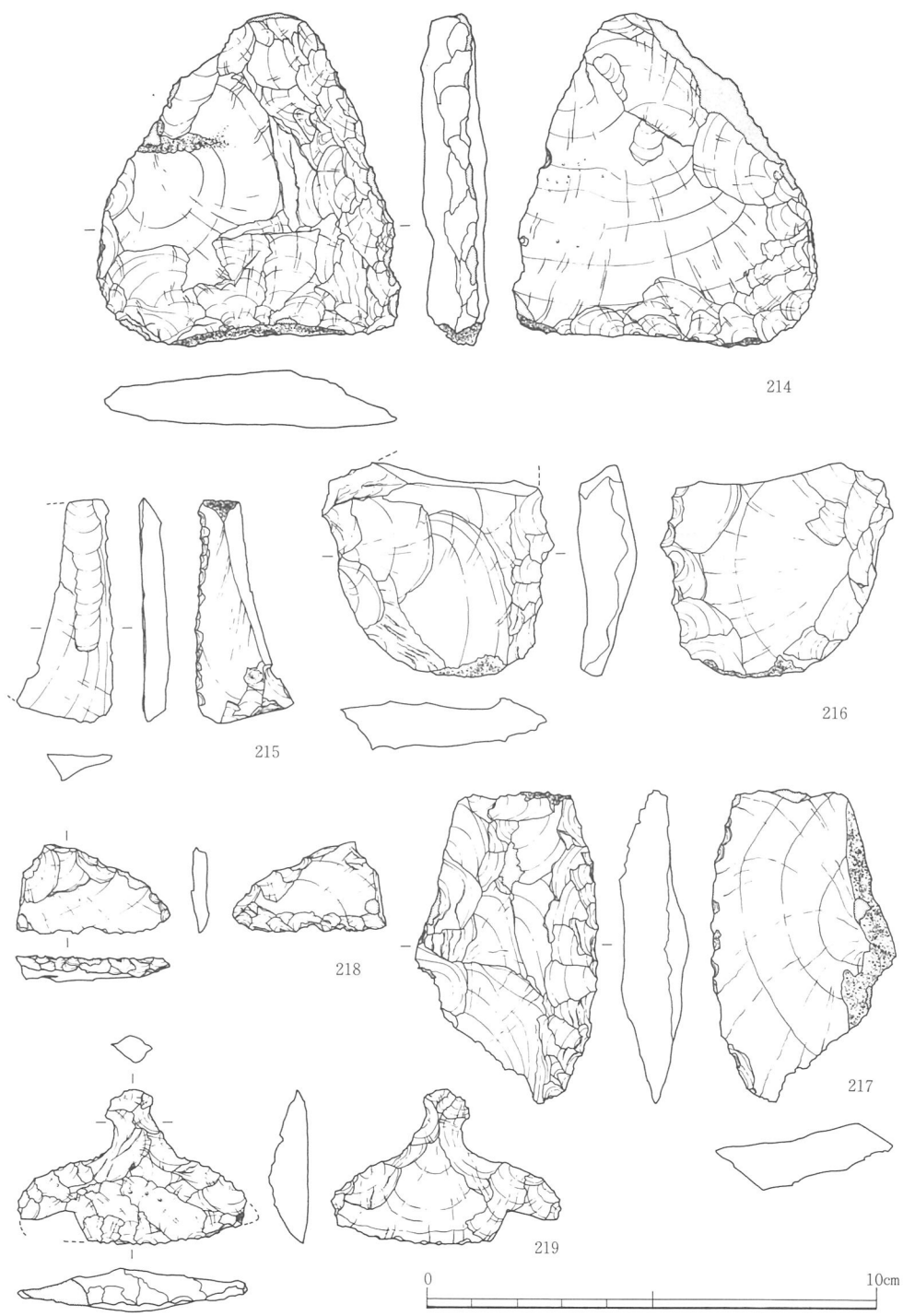
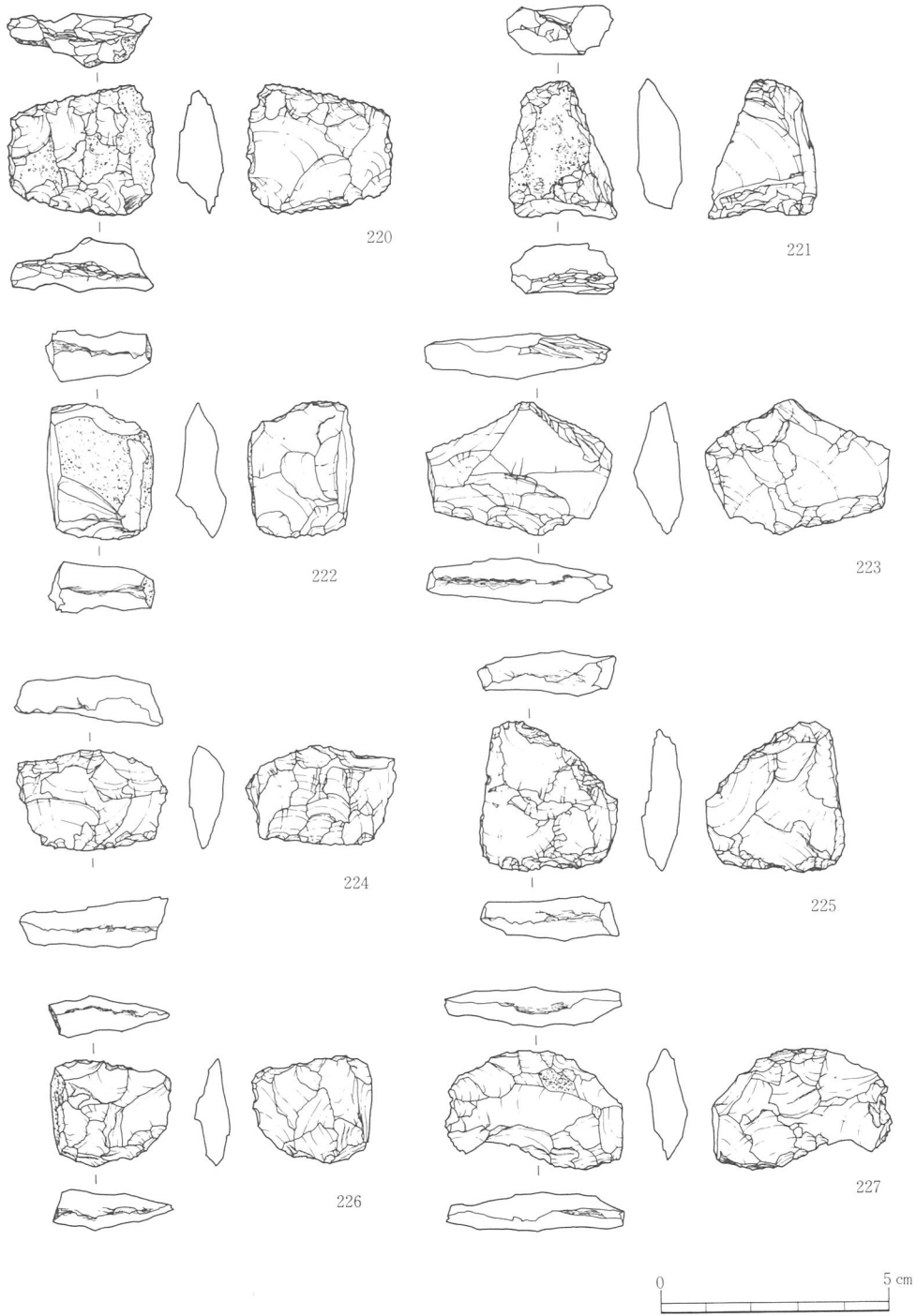


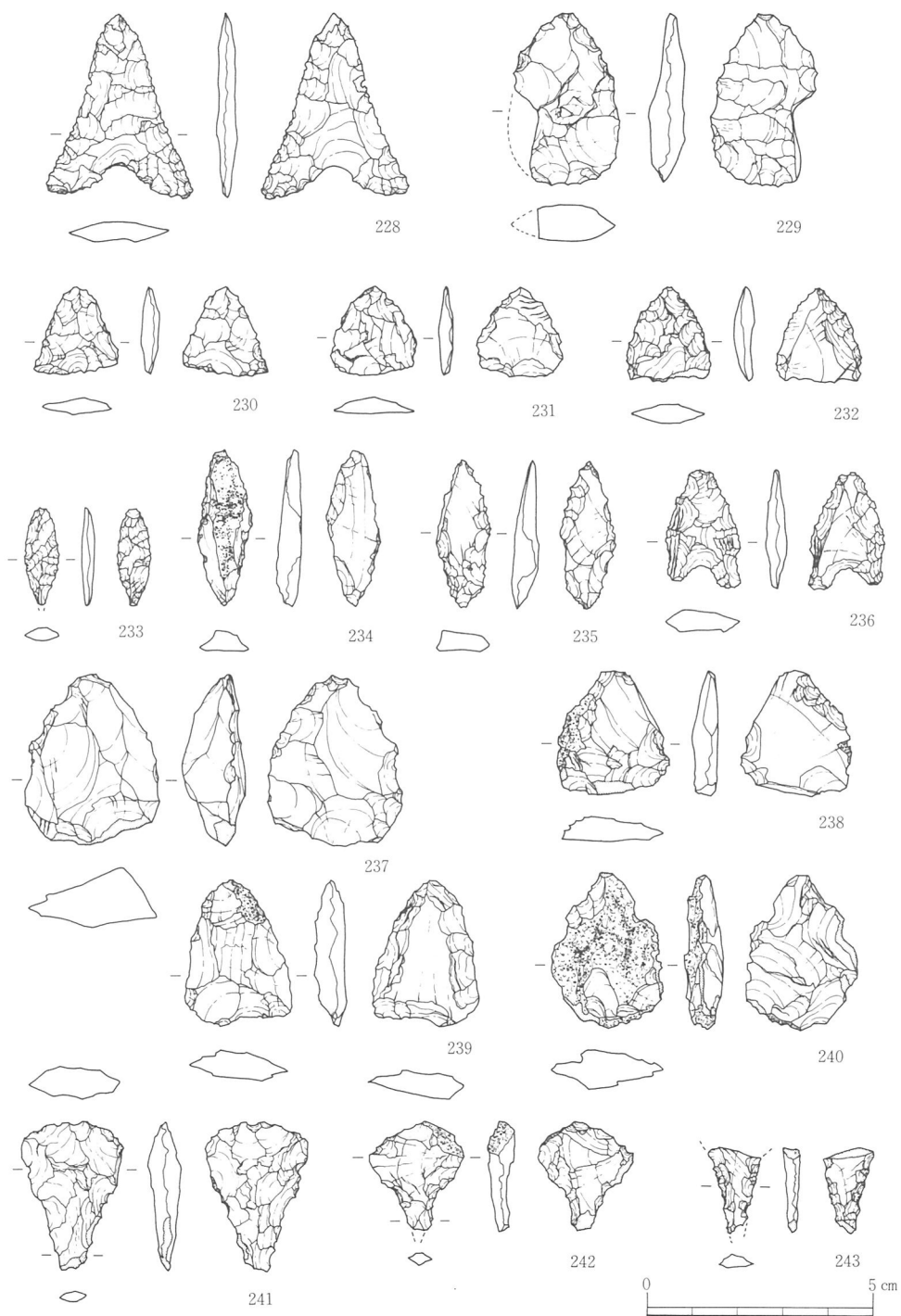
第49图 F区包含層出土遺物実測図(6)



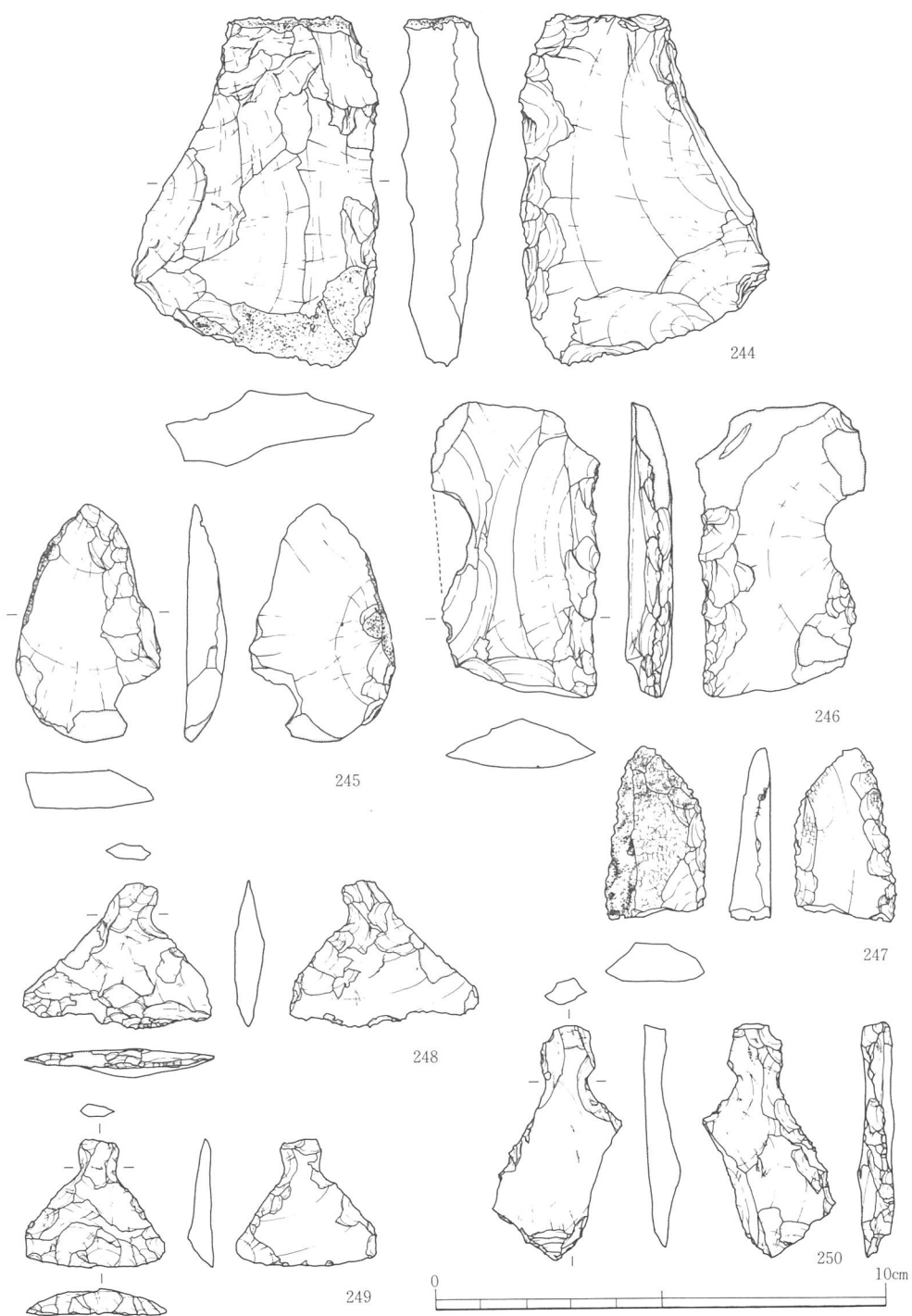
第50图 F区包含层出土遗物实测图(7)



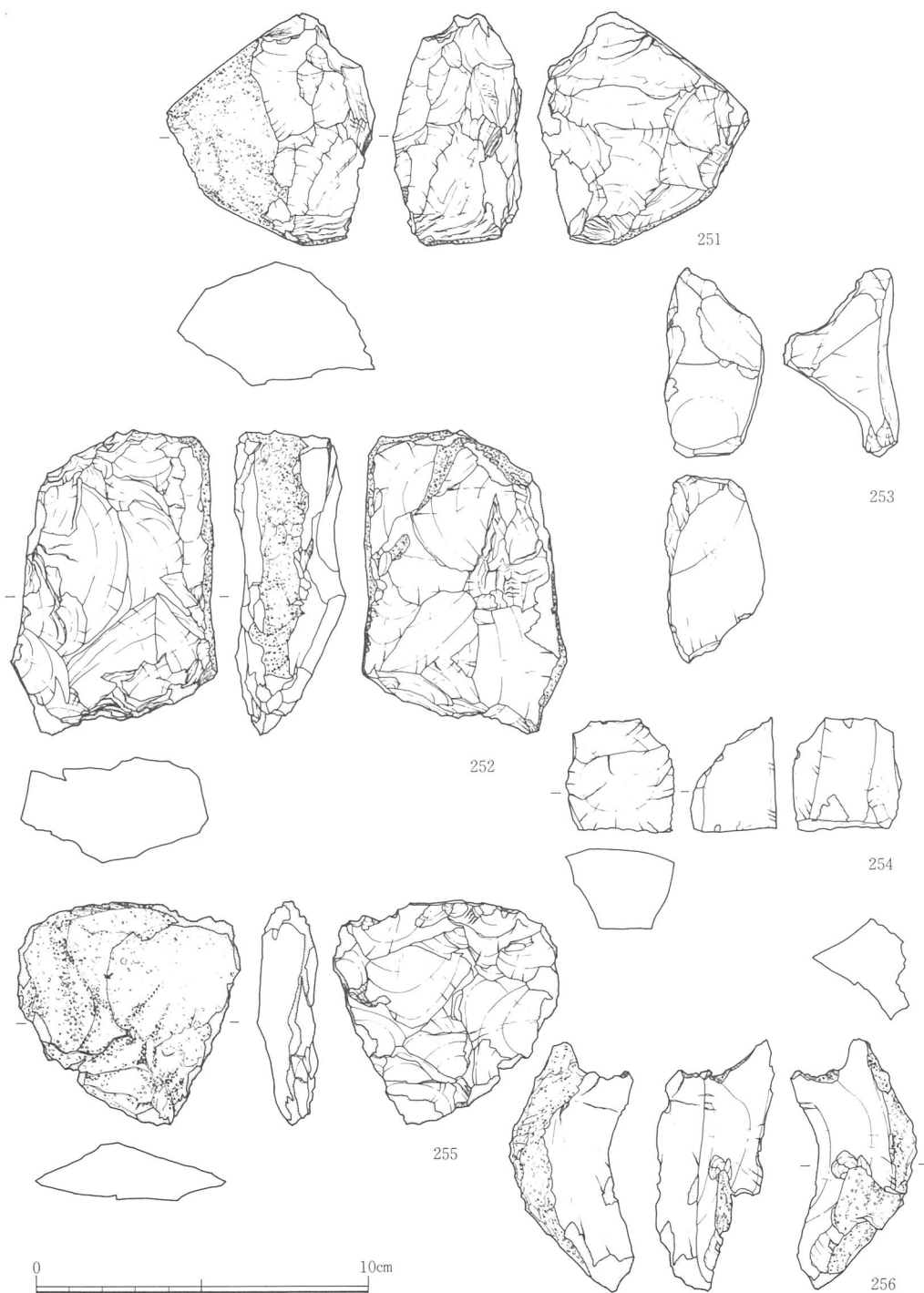
第51图 F区包含層出土遺物実測図(8)



第52图 F区包含层出土遗物实测图(9)



第53图 F区包含層出土遺物実測図(10)



第54图 F区包含层出土遗物实测图(11)

2. 遺構 (第39・55～77図、図版七～一三・四二～四五)

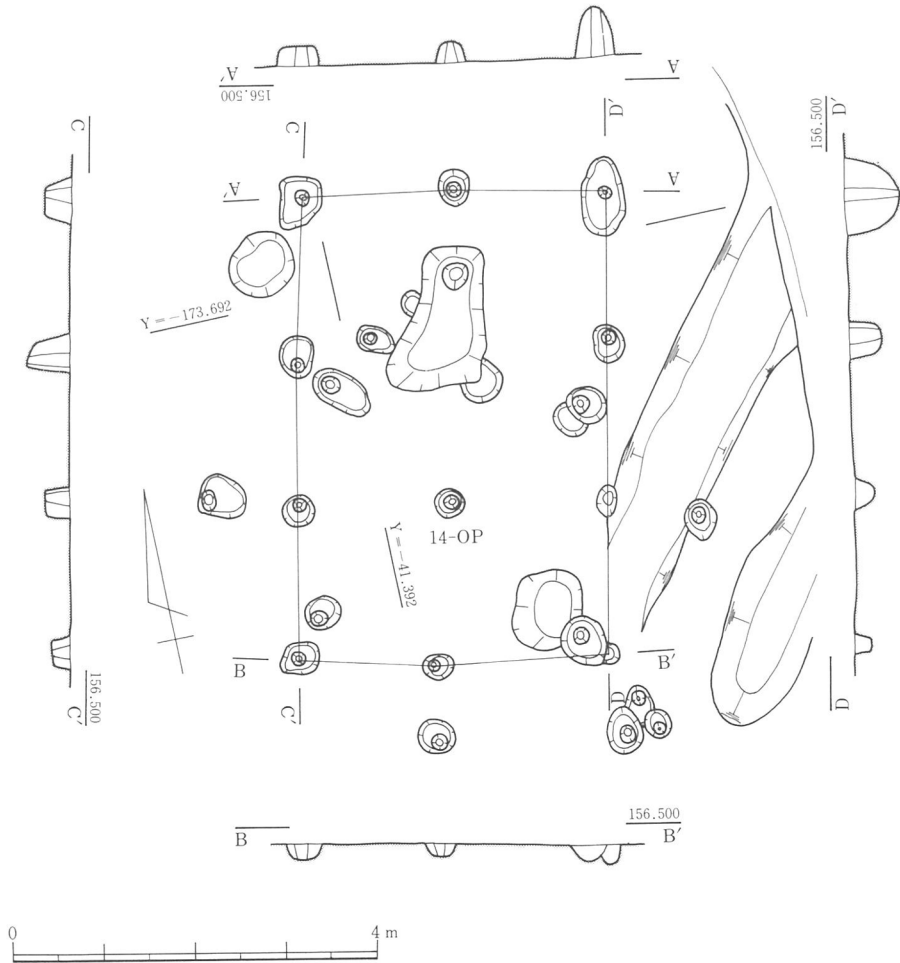
1 古墳時代

調査区北端部で古墳時代の建物跡を2棟検出したが、周辺から当該期の遺構は全く検出されなかった。おそらく調査区外に関連する遺構が存在するものと思われる。柱穴埋土はともに灰黄褐色(10Y R5/2)シルトである。

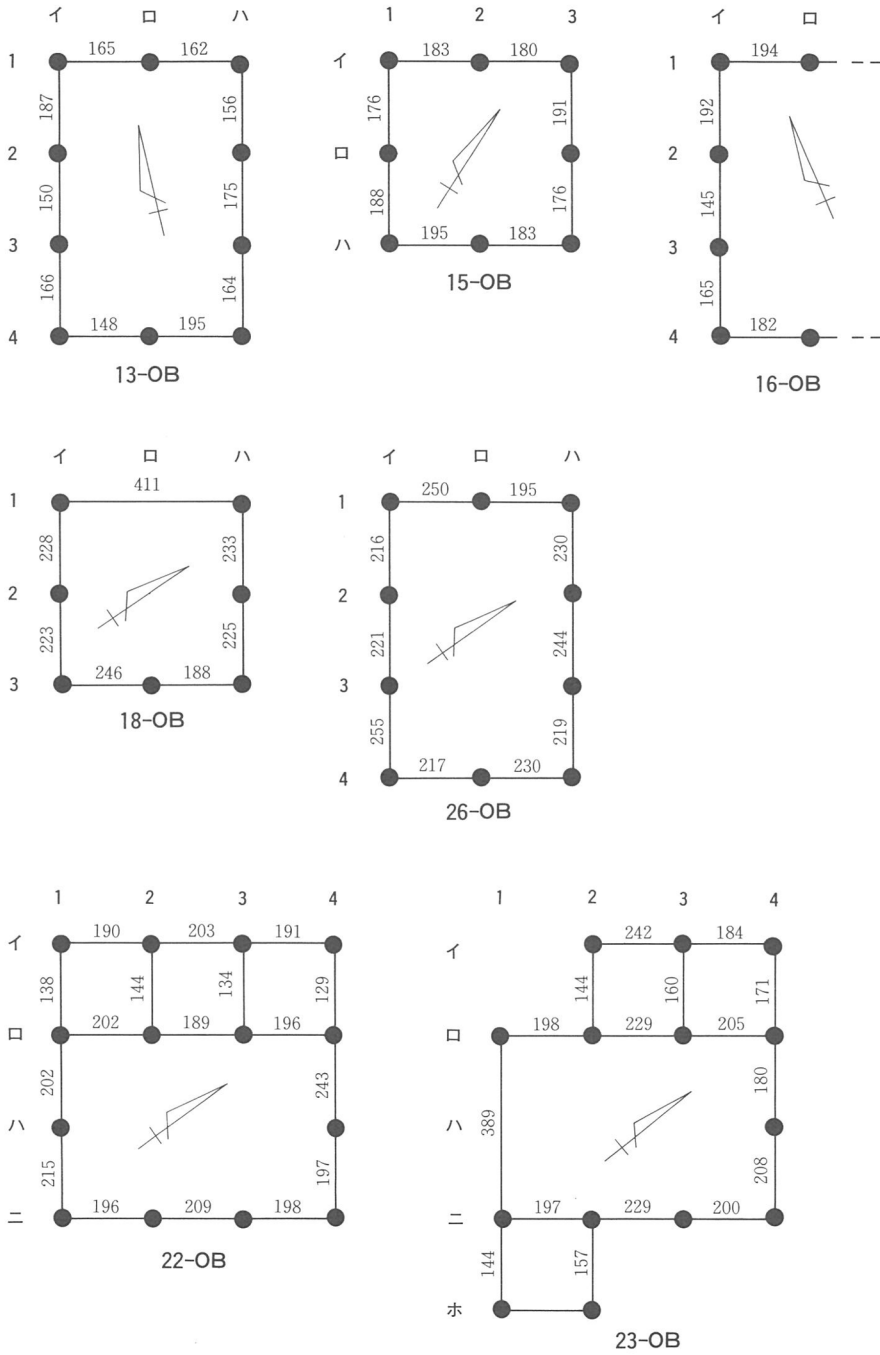
なお柱穴の位置の表記は凡例を参照されたい。

13-OB (第39・55・56図、図版七)

J07XC周辺で検出した2間×3間の建物跡で、柱跡の切合い関係から15-OBに先行

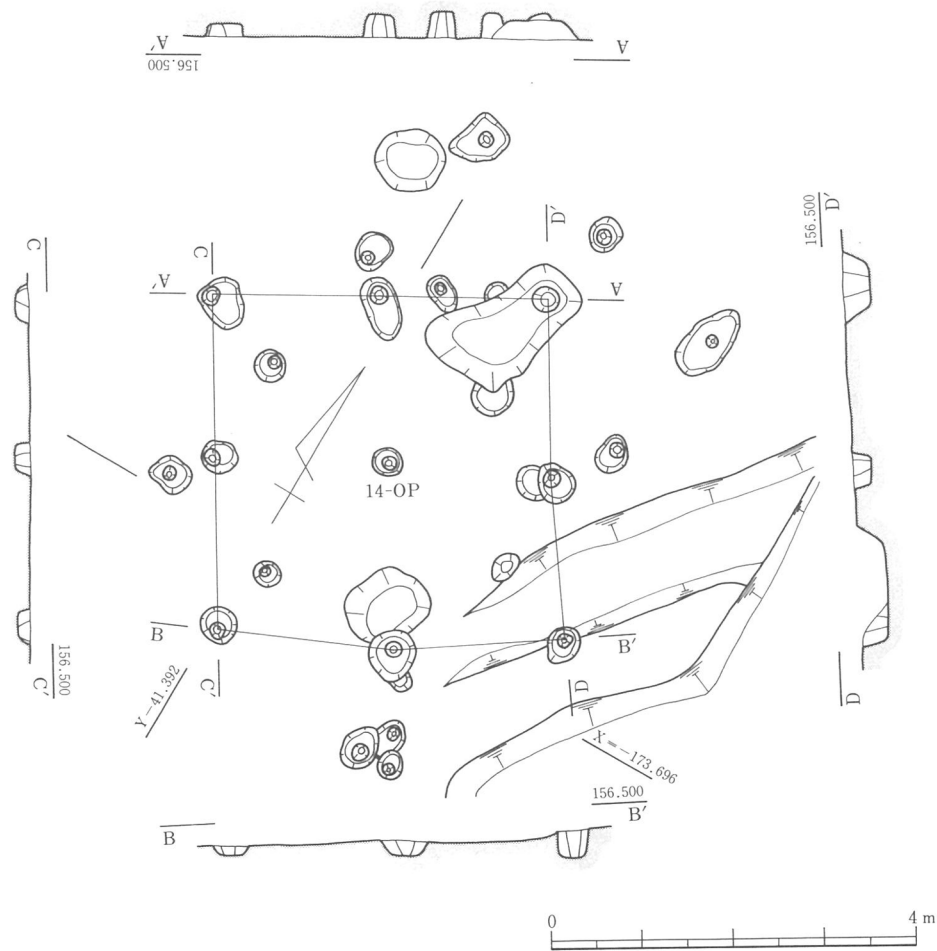


第55図 13-OB平面図・断面図



第56図 F区建物柱間模式図(単位はcm)

する。建物主軸は $N-13^{\circ}-E$ で、平面積は約 $17m^2$ である。柱穴の形状は、基本的に円形であるが（径 $40cm$ 程度）、中には楕円形を呈するものもある。柱根や根石等は確認できなかった。また14-OPはその位置からみて、本建物跡に帰属するものとも15-OBのものとも判断し難い。柱穴掘方から内面の同心円文をナデ消した須恵器甕の破片が数片出土したことから、5世紀代頃の建物跡と考えられる。



第57図 15-OB平面図・断面図

15-OB（第39・56・57図、図版七）

15-OBは13-OBを建て替えたと考えられる2間×2間（平面積約 $14m^2$ ）の建物跡で、主軸を $N-32^{\circ}-W$ にとる。柱穴はやはり不揃いで（径 $40cm$ 程度）、柱根や根石等はなかった。建物を構成する柱穴掘方から出土した遺物は13-OBと同様である。

2 奈良時代

調査区南半で建物跡および溝跡を検出した。確認した建物跡を1棟のみであるが、おそらく調査区東側に続くものと思われる。また包含層出土の円面硯がこの建物跡と関係していた蓋然性も高い。

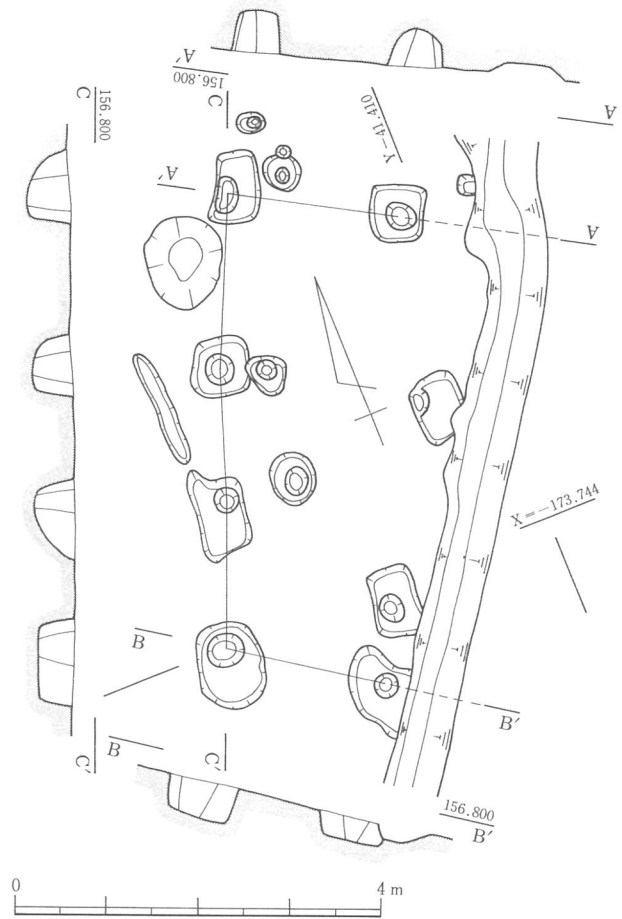
16-O B (第39・56・58図、 図版七)

16-O Bは、調査区南端のJ11KV付近で検出した側柱建物跡で、調査区東側壁で柱穴を確認しているの、建物の東半分は調査区外へ続くものと考えられる。検出部分は2間×3間で、主軸方向はN-23°-Eで、検出部分の平面積は約10m²を測る。柱穴はいずれもほぼ一辺60cmの方形

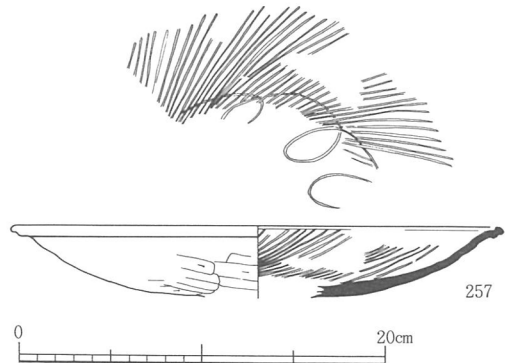
で、柱穴埋土は暗褐色(10Y R3/3)シルトである。うち柱穴イ4掘方から土師器高杯が出土している。

16-O B出土遺物(第59図、図版四二)

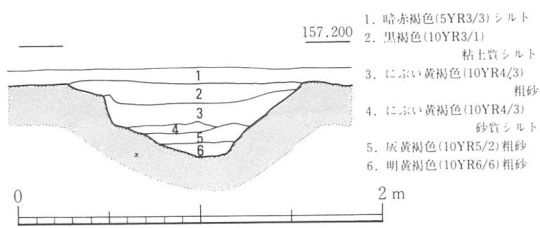
高杯は、内面に放射状暗文、連結輪状暗文が施されているが、脚部以下は欠損している。平城宮編年によると平城宮Ⅲ様式に該当すると考えられ、8世紀中葉に比定される。



第58図 16-O B平面図・断面図



第59図 16-O B出土遺物実測図



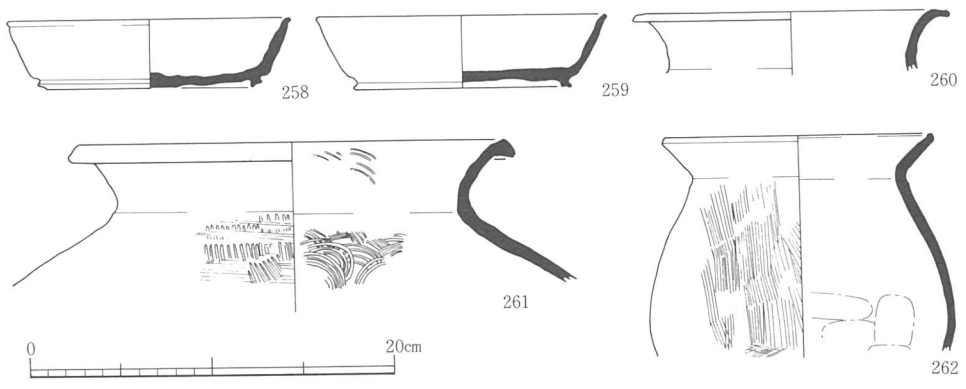
第60図 17-OS断面図

17-OS (第39・60図)

J11DU～J11DVで検出した溝で、東側は後世の開墾で削平されている。検出全長約5m、最大幅1.4m、深さ0.3mを測る。

17-OS出土遺物 (第61図、図版四二)

出土遺物は、須恵器杯B (258・259)・甕 (260・261)、土師器甕 (262) があるが、なかでも土師器甕は、体部下半部が張り出す特異な形態を呈する。これら一群の土器類も、おそらく平城宮III様式に該当すると思われる。



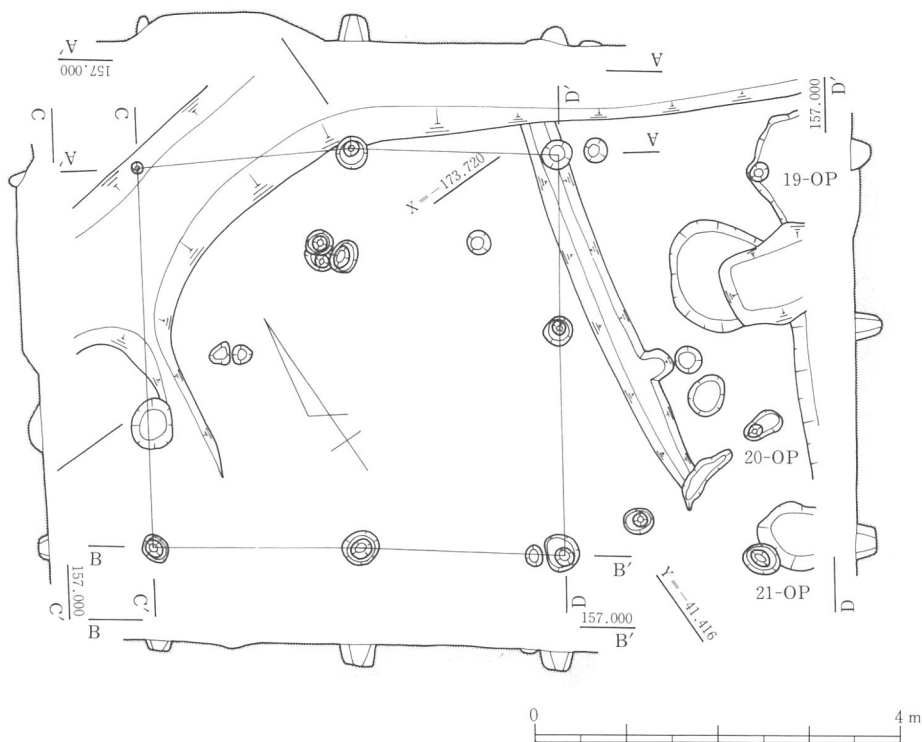
第61図 17-OS出土遺物実測図

3 平安時代

平安時代の建物跡4棟および井戸跡1基を検出した。特に建物群は規則的に配置され、最低2時期にわたって存続したと考えられる。その他、中心建物に伴う溝等も検出した。建物を構成する柱穴埋土は、概ね褐灰色 (10YR4/1) シルトである。

18-OB (第39・56・62図、図版九)

18-OBはJ11FU周辺で検出した2間×2間 (平面積約19㎡、建物主軸N-56°-W) の側柱建物跡である。柱穴径は直径30cm前後で、柱穴口3では根石および柱根を検出したが、一部の柱穴は後世の攪乱等で確認できなかった。また19・20・21-OPとを関連づけると、2間×3間の建物跡となる可能性もある。柱穴内から黒色土器片、瓦器片等が出土



第62図 18-OB平面図・断面図

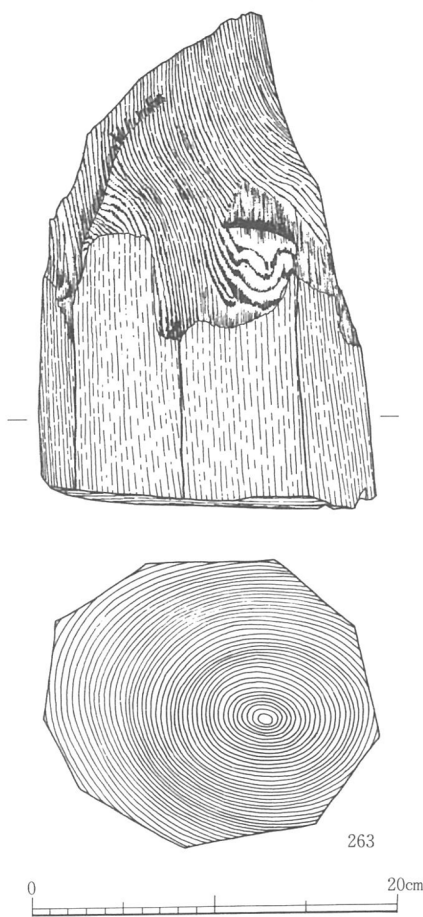
した。このうち瓦器片は外面にヘラミガキが観察できる。また位置、建物主軸からみて、以下に述べる建物群と有機的な関係を持っていたと考えられる。

22-OB (第39・56・63・66図、
図版八～一〇)

F区で検出した平安時代建物跡の中で、中心的な建物と考えられる22-OBは、2間×3間の側柱建物跡(主軸N-36°-E)で、西の平側に底を持つ。底部分を含めた平面積は約33㎡である。柱穴径は30cm前後で、柱穴口2には柱根が残存していた(第63図)。



第63図 22-OB柱根検出状況



第64図 22-O B柱根実測図

22-O B 出土遺物 (第64図、図版四三)

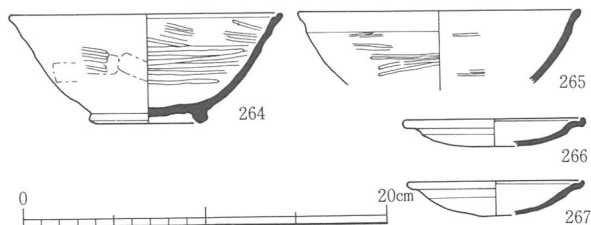
柱根は九面取りで、長径18cm、短径16cm、高さ27cmが残存していた。面取りが観察される部分は底面から14cmまでで、その上は砲弾状にすぼまっている。底面は平らであるが、面取りの部分と同様に表面が磨耗しており、手斧痕等は観察できなかった。木取りは樹木の芯を取り込んでおり、年輪は約50年を数える。樹種は不明である。

23-O B (第39・56・67図、図版八〜一〇)

22-O B とほぼ重複して検出した側柱建物跡で、主軸は22-O B とほぼ同様の $N-38^{\circ}-E$ である。建物規模は2間×3間で、西の平側に2間分、また東の平側には1間分の庇が付く。平面積は約34 m^2 である。柱穴径は22-O B に比べてやや大きく、平均40cmを測る。しかし22-O B との前後関係は不明である。なお、柱穴口3・口4・口1・口2から黒色土器B類碗、瓦器碗、土師質皿が出土している。

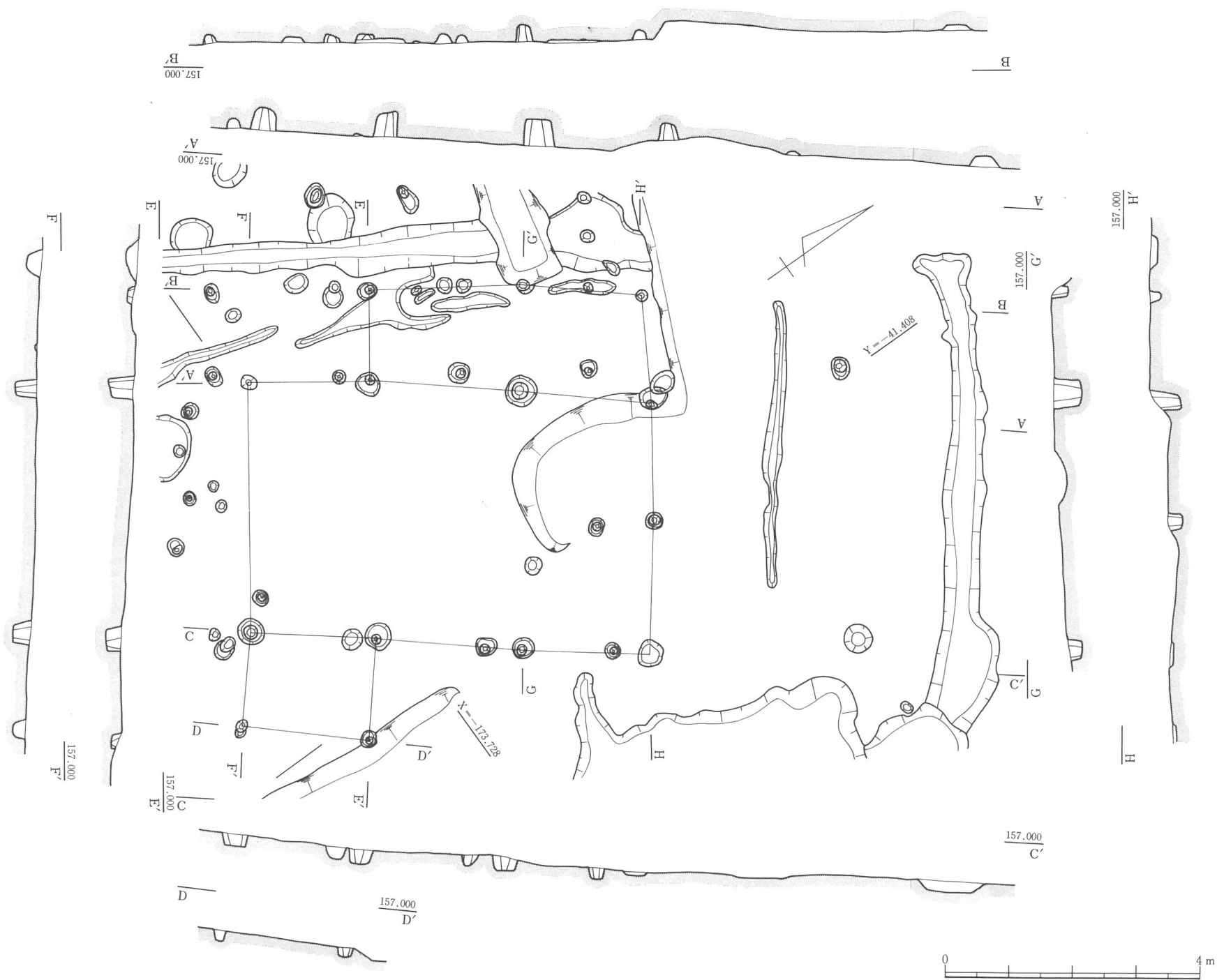
23-O B 出土遺物 (第65図、図版四三)

黒色土器B類碗(264)は、柱穴口3掘方から出土した。内外面ともヘラミガキを施すが、外面には成形時のヘラケズリが部分的に認められる。瓦器碗(265)は柱穴口3柱芯から出土したが、底部付近が欠損している。遺存状態が悪かったので調整を十分観察することができないが、部分的にヘラミガキが認められる。土師質皿は柱根口4掘方(266)と柱穴口1柱芯(267)から出土した。いずれも口縁部が「て」字状を呈する器高の低い皿である。



第65図 23-O B 出土遺物実測図

ことができないが、部分的にヘラミガキが認められる。土師質皿は柱根口4掘方(266)と柱穴口1柱芯(267)から出土した。いずれも口縁部が「て」字状を呈する器高の低い皿である。



第67图 23-O B平面图·断面图

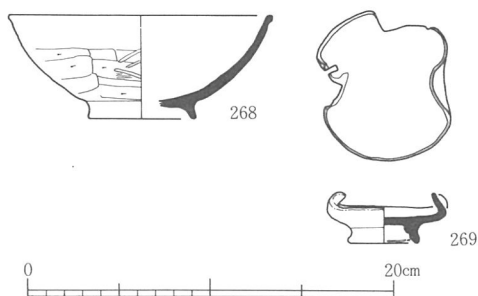


第66图 22-OB平面图·断面图

これらの遺物からこの建物は、11世紀中葉頃と考えられる。

24-O S (第66図、図版八〜一〇)

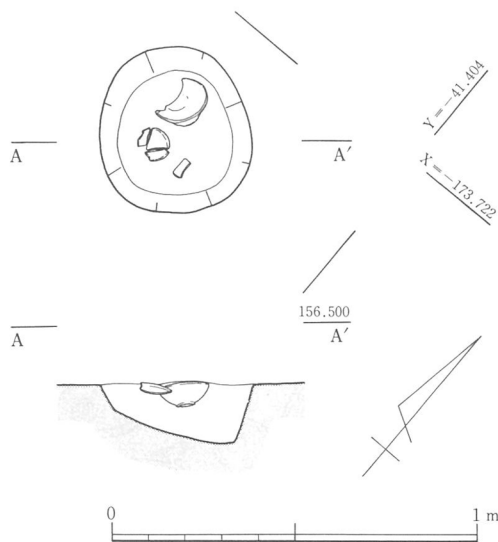
後世の削平を受けているため連続していないが、その位置関係からみると22・23-O Bを取り巻く溝であったと考えられる。検出全長約15m、最大幅1.3m、深さ0.3mを測る。溝内からは瓦器碗、耳皿が出土している。



第68図 24-O S 出土遺物実測図

24-O S 出土遺物 (第68図、図版四三)

瓦器碗 (268) は遺存状態が悪く、細部の調整が不明瞭であるが、体部外面に成形時のヘラケズリ調整と、ヘラミガキの跡が観察できる。また、耳皿 (269) の高台内面には、爪状の圧痕がみられる。



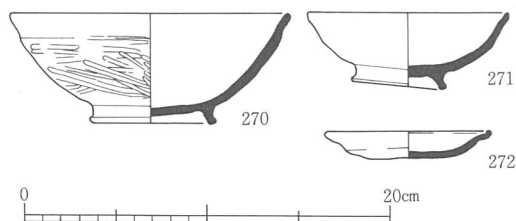
第69図 25-O O 平面図・立面図

25-O O (第66・69図、図版八〜一〇)

22・23-O Bの北東、J11F Xで検出した土壌である。直径0.46m、深さ0.15mの断面皿状を呈した浅い円形土壌から、黒色土器B類碗、同小碗、土師質皿が出土した。この土壌の形状や、22・23-O Bを取り巻く24-O Sの内側に掘られたこと、遺物出土状態等を考え合わせると、地鎮にかかわる遺構とも考えられる。

25-O O 出土遺物 (第70図、図版四三)

黒色土器B類碗 (270) は、内面は摩耗のため調整不明であるが、外面に

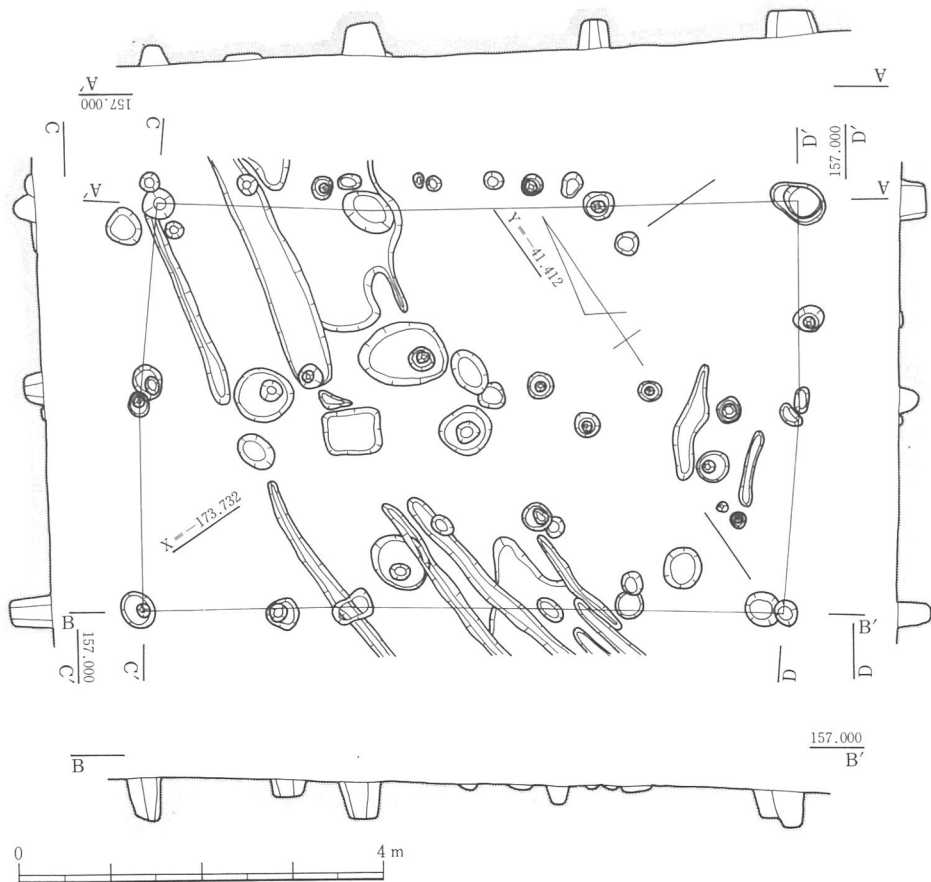


第70図 25-O O 出土遺物実測図

丁寧なヘラミガキが施されている。黒色土器B類小碗（271）は内外面の調整不明。土師質皿（272）は「て」字状口縁をもつ器高の低い皿である。

26-O B（第39・56・71図、図版八・九）

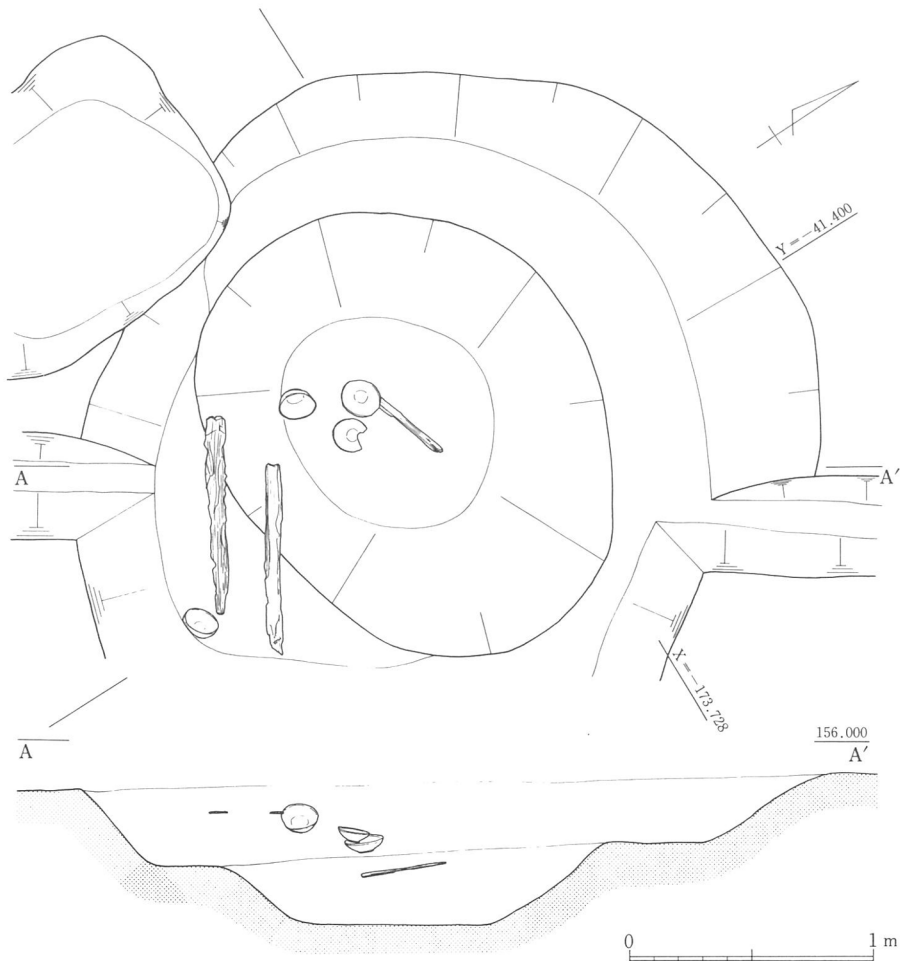
26-O Bは、22・23-O Bの南の妻側に平側を接するよう検出した2間×3間の側柱建物跡（主軸方向N-55°-W）で、平面積は約31㎡である。柱穴規模は径30cm程度で、部分的に柱穴が重複しているものもあることから、柱の差し替え程度の補修が行われたものと考えられる。出土遺物は、柱穴ハ4掘方から出土した土師質碗の高台部分のみである。



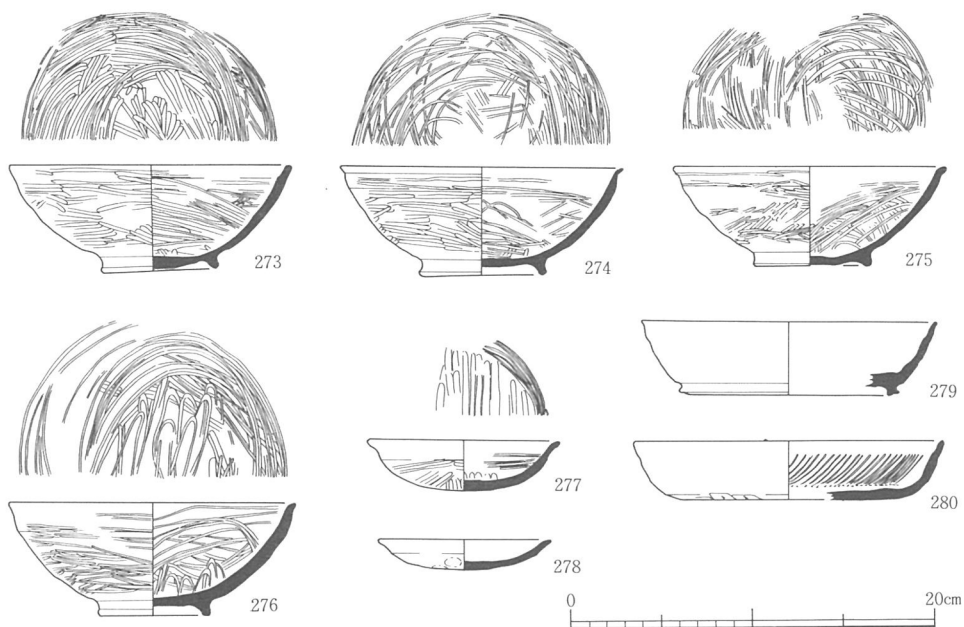
第71図 26-O B平面図・断面図

27-OW (第39・72図、図版八・九・一一)

27-OWは、22・23-OBの東側、J11HY付近で検出した井戸跡で、F区でレベル的に最も低い部分に掘られ、一部は調査区外へ広がる。平面形は円形を呈する2段掘りの井戸で、規模は直径3.1m・深さ0.58mを測る。図中で示したように扁平な木材が数点出土したが、井戸枠等は検出できなかった。埋土は、上半部が黄色系シルトであるのに対し、下半部は灰色系粘土質シルトであった。埋土中から多数の遺物が出土したが、なかでも第72図で示したように瓦器碗4個体が、ほぼ同一レベルでまとまって出土した。



第72図 27-OW平面図・立面図



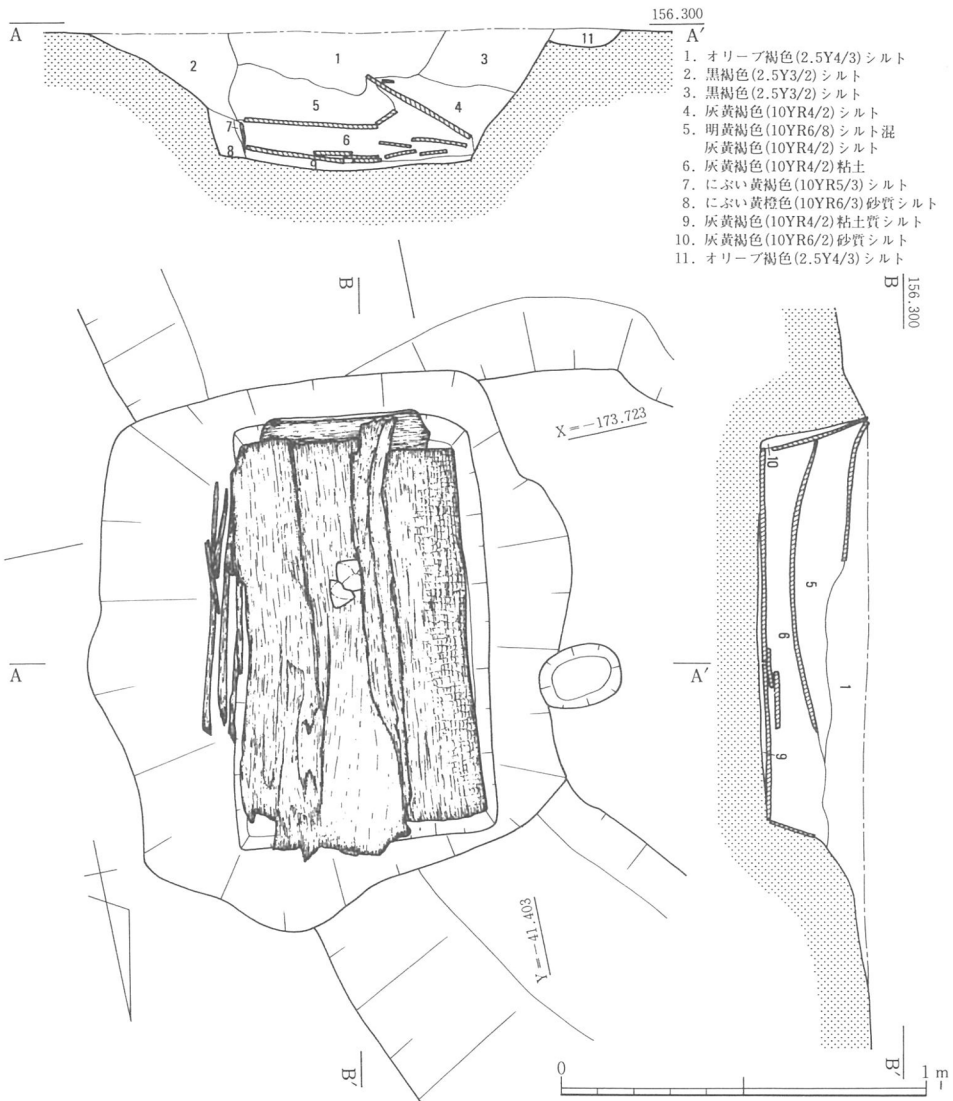
第73図 27-OW出土遺物実測図

27-OW出土遺物（第73図、図版四四）

出土した瓦器碗（273～276）はいずれも遺存状態が良好で、内外面に施された密なヘラミガキが観察できる。見込み部分のヘラミガキは、（273）のように放射状に施すものと、そうでないもの（274～276）とがある。またこれらは全体的に厚手で、口縁部が外反するもの（274～276）とそうでないもの（273）、その他体部や高台部の形態に若干の差異が認められ、他の時期の瓦器碗に比べて規格性に乏しい。また内面に十分炭素が吸着していないもの（274・275）もある。このほかに一部赤褐色を呈するが、内外面に丁寧なヘラミガキが施された瓦器皿（277）や、土師質小皿（278）も出土している。一方、井戸最下面から奈良時代の須恵器杯B（279）と土師器杯A（280）が出土した。（280）は内面に放射状暗文および刺突文が施され、外面底部はヘラケズリが施されている。

4 鎌倉時代

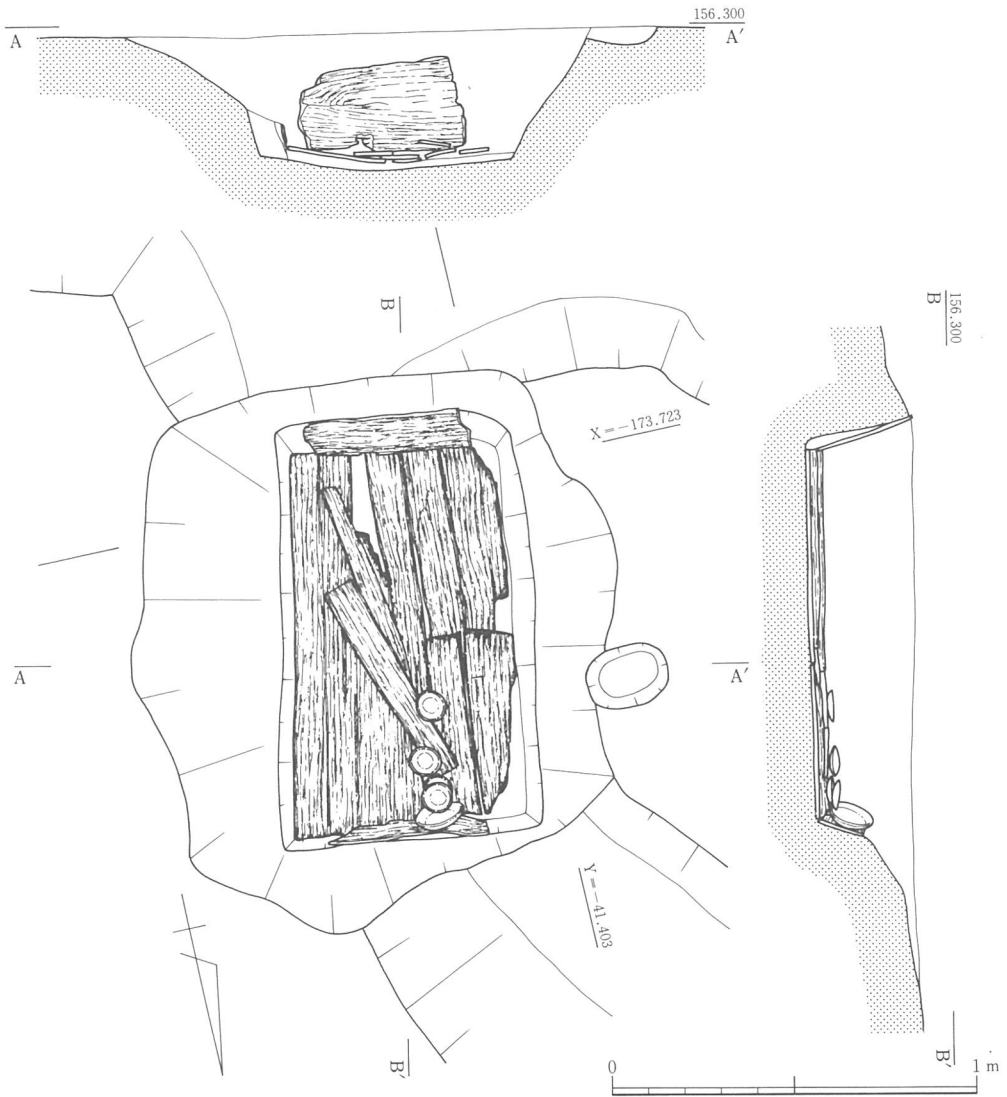
F区内で鎌倉時代と時期の特定できる遺構は、以下に述べる木棺墓のみで、他に当該期の遺構は全く確認できなかった。



第74図 28-O G検出状況平面図・断面図

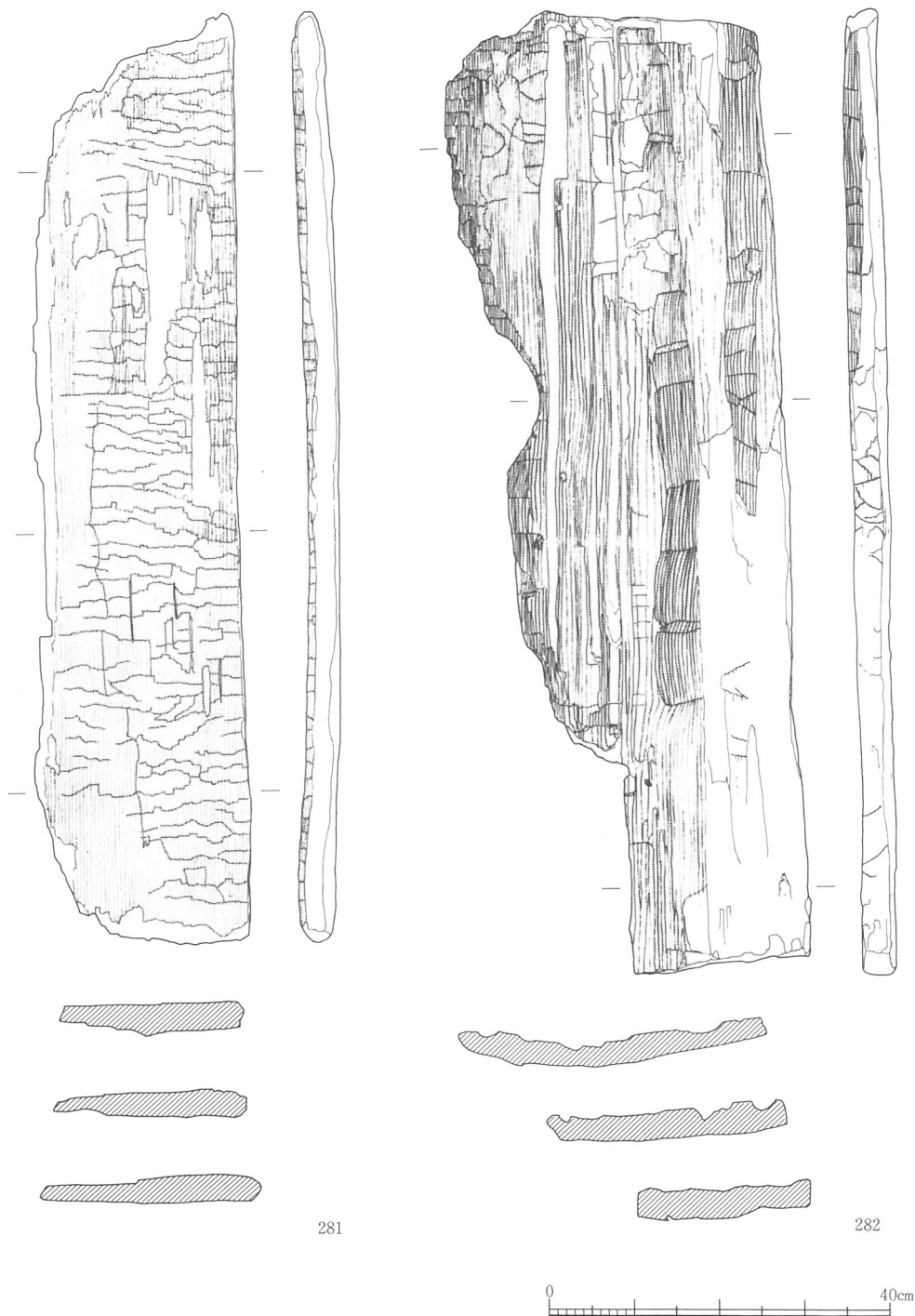
28-O G (第39・74・75図、図版一二・一三)

J11FYで検出した木棺墓で、24-OSを切り込んでいる。墓壇は長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.4mを測り、平面形は不整形を呈する。木棺は長方形の箱形に組み、法量は、長さ1m、幅0.6m、残存高0.3mを測る。木棺の主軸はN-7°-Eで、棺材は蓋板が土圧で陥没し、西側の側板が棺内に倒れ込んだ状態で検出された。この蓋板の上方に堆積しているオリーブ褐色(2.5Y4/3)シルトは、おそらく墓の盛土が残存したものである

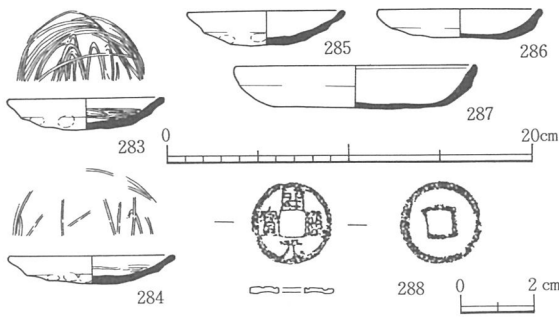


第75図 28-O G 遺物出土状況平面図・立面図

う。木棺の遺存状態は、東側の側板および北側の小口板を除き比較的良好で、小口板では内面、側板では外面、底板では内面もしくは外面の一部が火にかけられて炭化していた。また、棺材の結合は釘等で固定した痕跡がなく、底板は8枚の板を敷き延べたものであった。これらは、最大長の板材に規制され、他の板材はそれより短く、一部が重なるように敷かれていた。底板は墓壇底面より約1 cm浮いており、間には灰黄褐色 (10Y R4/2) 粘土質シルトが充填していた。またそれらは墓壇いっばいに敷かれ、ほとんどゆとりがなかつ



第76图 28-O G 棺材实测图



第77図 28-O G出土遺物実測図

た。これらのことから木棺墓の築造過程を推定すると以下ようになる。

①墓墳を掘る、②木棺の底板を敷きならべ、裏込めをしながら側板、小口板を置く、③遺体、副葬品を安置する、④蓋板を置いて、土盛りをする。棺内には、第74図で示したように灰黄褐色(10Y R4/2)粘土が充

満していた。この粘土はすべて水洗にかけたが、「開元通宝」1枚と瓦器碗の破片を検出したにとどまった。棺内北側の小口板付近で、底板に密着して瓦器小皿3枚、土師質小皿1枚、土師質皿1枚が副葬されていた。人体の痕跡は全く認められなかった。なお、底板の標高は南側に比して北側がやや高く、また遺物が北側に集中して検出されたことから、頭位を北にとっていた蓋然性が高い。

28-O G 棺材 (第76図、図版四五)

(281)は側板である。外面は激しく炭化しているが、全体の遺存状況は比較的良好である。手斧痕等は観察できない。(282)は底板の一部である。棺材の中では最大の面積および体積を持ち、内面は弱い炭化状態を示す部分がある。炭化部分は遺存状態が良好で、手斧痕が明瞭に観察できる。周辺の調整も手斧によっており、一部に弧状の抉り込み加工が施されている。

28-O G 出土遺物 (第77図、図版四五)

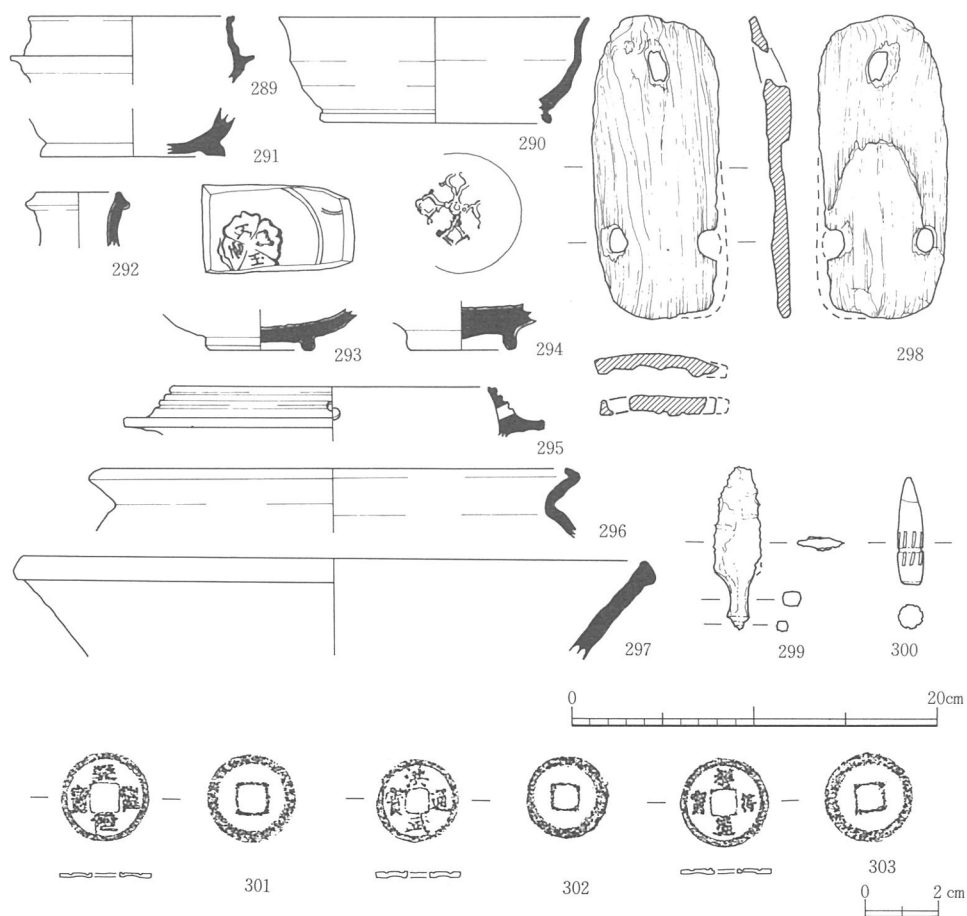
瓦器皿(283~285)は、いずれも十分炭素を吸着したものではなく、全体的に器面は赤褐色を呈する。このうち(283・284)の内面には、雑なヘラミガキ、暗文が施されている。土師質皿(287)は薄手で粗雑なつくりである。その他初鑄621年の「開元通宝」が1枚出土した。この「開元通宝」は棺内堆積土によって密封状態を保たれており、遺存状態は極めて良好であった。この他、瓦器細片が出土しているが、時期を判別するには至らない。瓦器皿の内面に施されたヘラミガキ、暗文によるかぎり、この木棺墓は13世紀後半頃に営まれたものと思われる。

第4節 G区の調査成果

G区では、調査区両端部で奈良時代および鎌倉時代の建物跡を各々4棟検出した。しかし第1節で詳しく触れたように、調査区中央部ではほとんど遺構が存在せず、粘土質シルトの地山（Ⅳ層）に亀甲状のヒビ割れが顕著にみられることから、奈良～鎌倉時代にかけて低湿地もしくは水田として利用されていたものと思われる。

1. 包含層出土遺物（第78～80図、図版二〇～二四・四一）

包含層から出土した遺物は全体的に須恵器が多く、特に奈良時代建物周辺および調査区西端部で顕著であったが、その大半が甕の体部片等で、図化できる破片は少なかった。



第78図 G区包含層出土遺物実測図（1）

1 土器

須恵器は5世紀代の杯(289)と佐波利椀を模倣した杯B(290)を図化した。(291)は灰釉陶器壺の底部破片である。その他の陶磁器類では、青白磁の梅瓶(292)や青磁碗(293・294)等が出土している。14～15世紀代の遺物としては瓦質土器(295・297)や紀伊型甕(296)がある。

2 その他

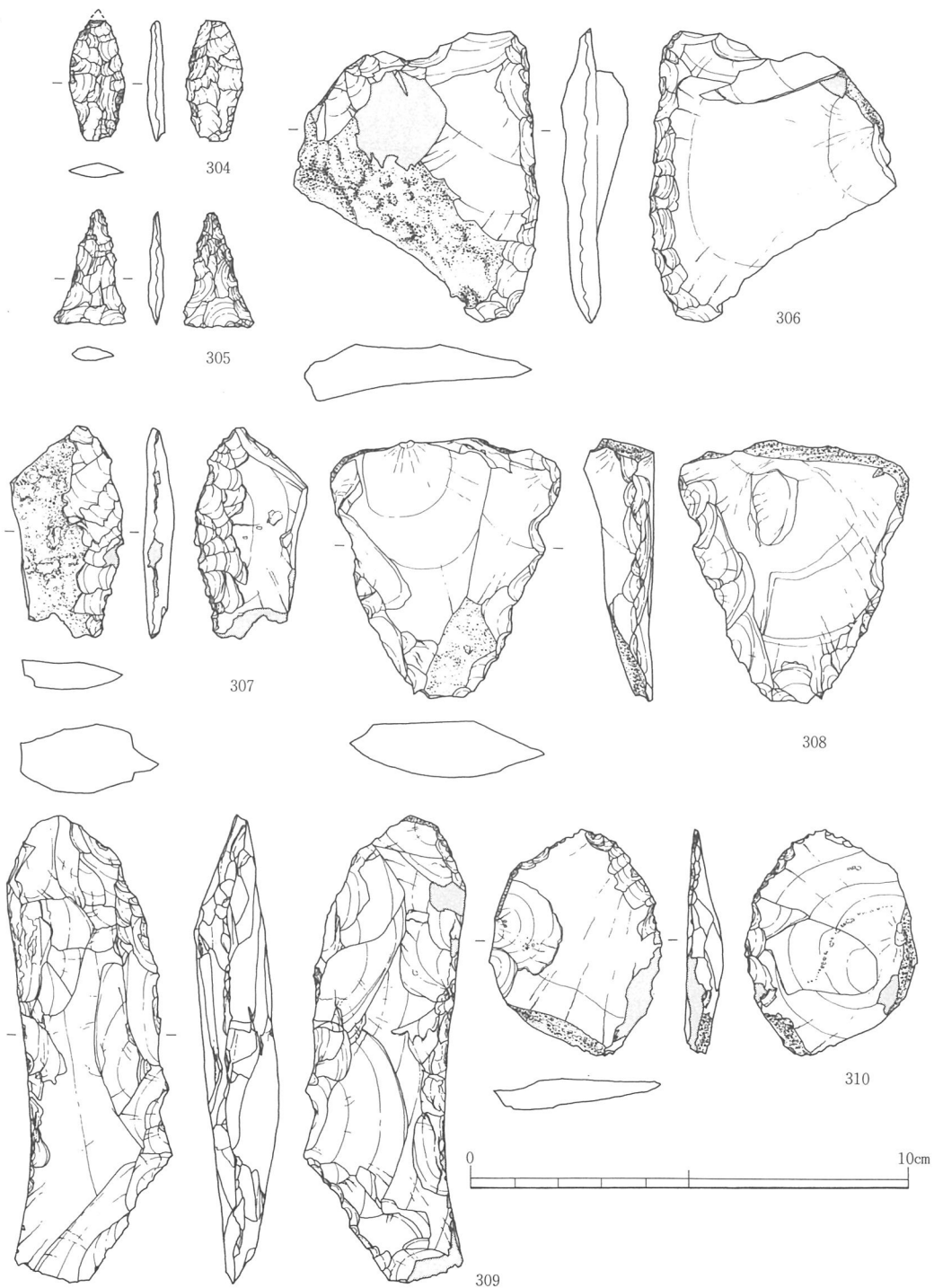
木製品では下駄(298)が、金属器では柳葉式の鉄鎌(299)、古銭(301～303)、機関銃弾丸(300)がある。古銭は「天聖元宝」「洪武通宝」「祥符元宝」の3種類である。弾丸は第二次世界大戦当時、アメリカ軍が使用した口径12.7mmのプロローニング機関銃の徹甲用銃弾で、ジュネーブ協定に基づいたフルメタル仕様になっている。この弾丸を検出した地点は、調査直前まで築後約50年の家屋があった所で、弾丸自身先端の変形も見られないことから、流れ弾が落下したものと思われる。

3 石器

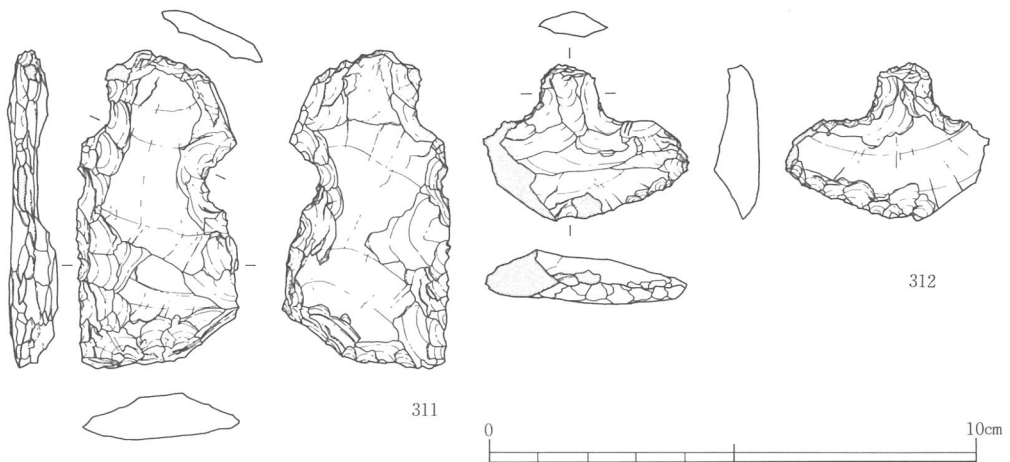
G区は、石器類が大量に出土するF区と隣接する地区であるため、その北端部のI層についてサンプル調査を行い石器類の出土状態を確認した。その方法として、1m×1m方眼のサンプル地区を任意に3箇所選定し、F区と同様に3mm方眼のフルイを用いた水洗選別法をとった。その結果、土量0.2m³についてサンプル1は破片41点、サンプル2は剥片2点と破片20点、サンプル3は破片21点を検出したにとどまった。つまり、G区でのサヌカイト製遺物は、F区とは比較にならないほどその総量を激減させているといえる。その結果、G区の調査方法はすべて人力掘削によることとした。

遺物としてII・III層から製品およびサヌカイトの廃棄物を合計138点検出した。遺物の平均分布密度は21.56m²につき1点の出土である。石器の器種は石鎌、刃器であり、他の地区と比べて種類がより減少している。刃器とした個体群は削器、石匙を総称した。その他、石器製作に伴い産出される廃棄物として剥片、破片、石核が出土している。出土点数は剥片103点、破片17点、石核は6点である。これらの遺物はF区と比較して数量が激減し、また分布が極めて希薄になるという大きな特徴がある。

石鎌(304・305)は2点出土している。尖基式(304)の個体は他の地区で出土している例と比較して、やや幅広で基部に短い平坦面を持っている。平基式(305)の個体は長



第79图 G区包含层出土物实测图(2)



第80図 G区包含層出土遺物実測図（3）

幅比がやや大きく、尖り気味の先端を持ち、基部付近で刃部が外湾して幅を広げている。

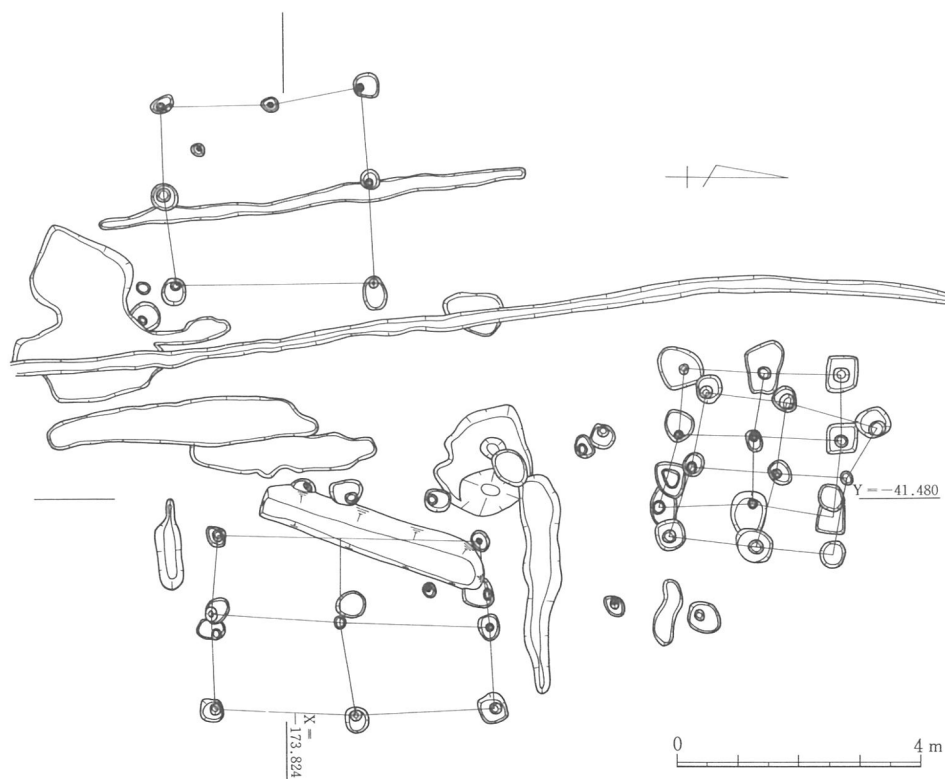
刃器は10点出土しているが、遺存状態の良好な7点を図化した。(306)は原礫面上の加撃で得られた打瘤が発達したやや横長の剥片を用い、辺縁に両面から刃部作出のための調整剥離が施されている。刃部はやや外湾している。(307)は横長剥片の打面部分に両面から刃部を作出する。背面には原礫面が残る。刃部はやや外湾している。(308)は原礫面上の加撃で得られた縦長剥片を用いており、辺縁にあたる二側縁には両面から粗い刃部調整が施されている。他の個体と形状が異なっている。また刃部の加工が粗く、未製品の可能性がある。(309)は腹面側の中央部に主要剥離面を残すが、面の大半は刃部調整と背面調整のための剥離作業が行われ、打面方向に刃部を付ける。刃部のための調整剥離は両面から行われている。やや大きな剥片を素材とし、背部は背面側から加撃された横方向の折り取りによって形成されている。また腹面、背面の背部周辺には、連続した細かいステップが観察される。刃部の調整は極めて粗く、未製品の可能性がある。(310)は原礫面上の加撃で得られた横長剥片を素材とし、剥片末端部に両面から刃部の調整剥離が行われている。(311・312)は石匙の範疇でとらえられる個体群である。(311)は素材剥片の形状は不明であるが、剥片の辺縁部と末端部に把持部と刃部の剥離調整を施す。打面周辺は剥離されており、細かいステップが認められる。把持部は幅広で、刃部を下に向けた場合、片側へ大きく寄っている。刃部は直線的で、両面調整である。(312)は横長剥片を素材としている。打点付近を頂点として両辺縁の打面寄りにノッチをつけて把持部を形成する。剥片末端部に両面から外湾した刃部を調整剥離によって作出している。

2. 遺構 (第39・81～96図、図版一四～一八・四七～四九)

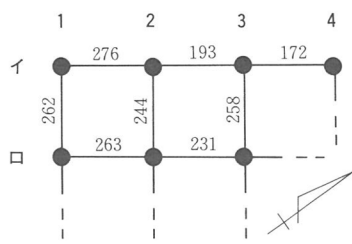
1 奈良時代

奈良時代の掘立柱建物跡は、調査区南端部で合計4棟検出した。これらは、丘陵縁辺部の裾を利用して建てられており、46-OXとした低地部分には全く居住の痕跡が認められなかった。今回の調査では4棟を確認したのみであったが、この丘陵裾に沿って居住域が調査区外に広がることも十分予想される。

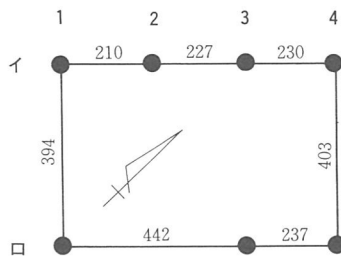
さてこれら建物跡の柱穴からは遺物がほとんど出土しなかったが、以下の理由から奈良時代の遺構と判断した。①31・32-OBの掘方は必ずしも方形ではないが、29-OBの掘方が方形を呈すること、②29・31・32-OBの主軸方向がいずれもほぼ真北であること、③周辺の包含層から出土した遺物は、大半が須恵器類であったこと、である。また、29・30-OB周辺では、鉄滓、フイゴ羽口、製塩土器、焼土などが出土しており、これらの建物の性格を考えるうえで興味深い資料である。



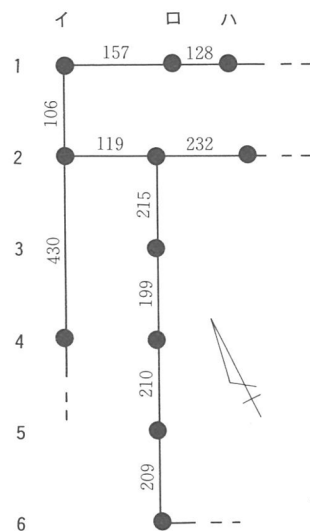
第81図 29・30・31・32-OB配置図



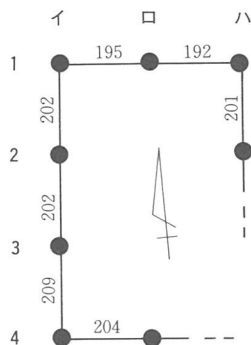
36-OB



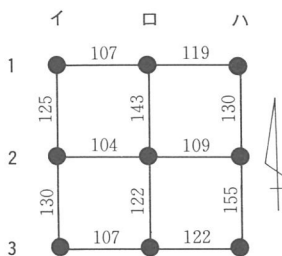
37-OB



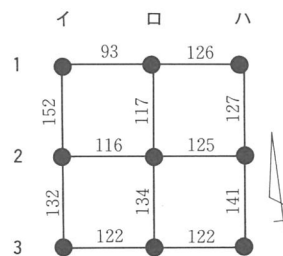
39-OB



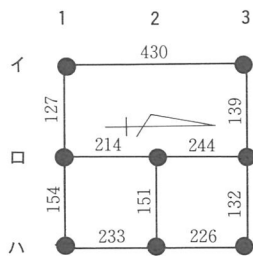
38-OB



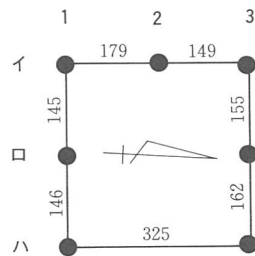
29-OB



30-OB

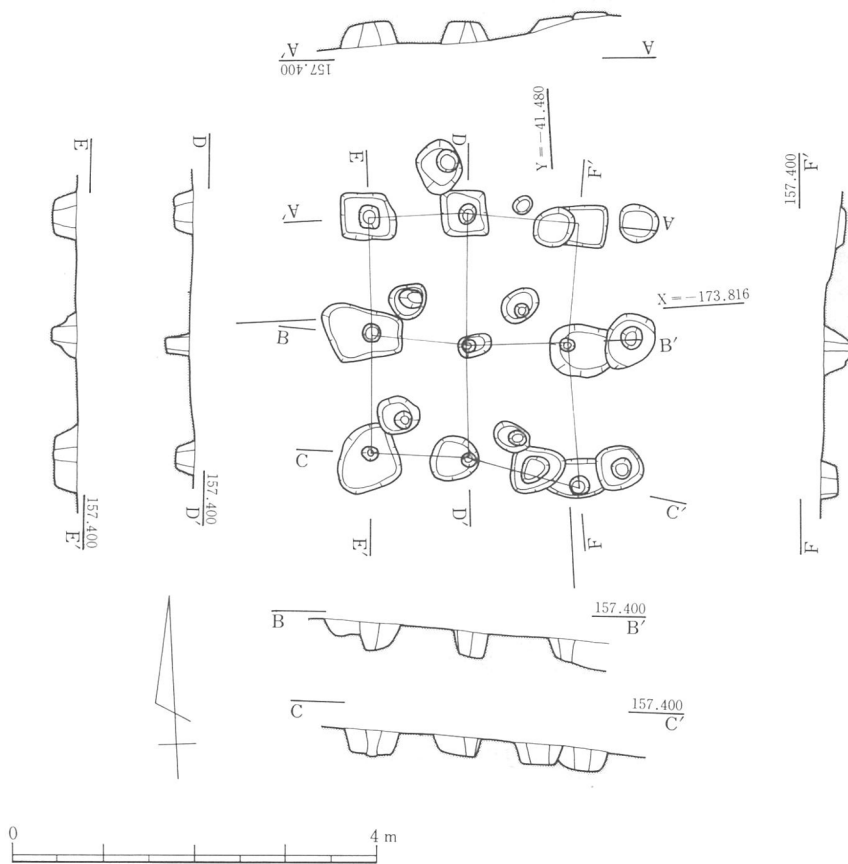


32-OB



31-OB

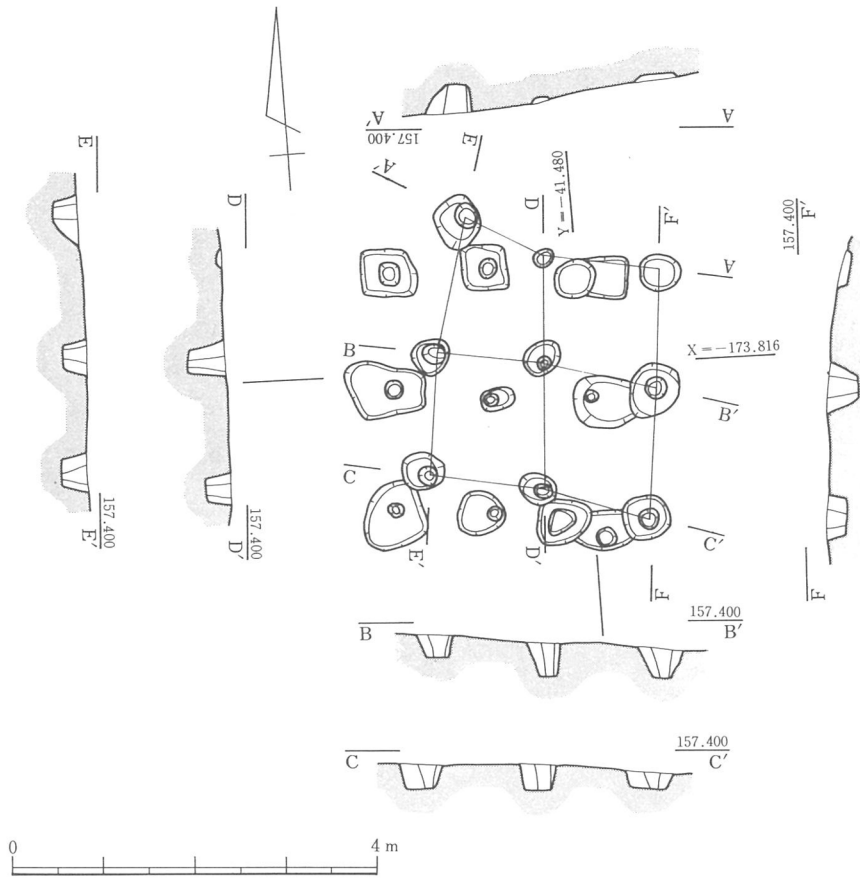
第82図 G区建物柱間模式図 (単位はcm)



第83図 29-O B平面図・断面図

29-O B (第39・81~83図、図版一四・一五)

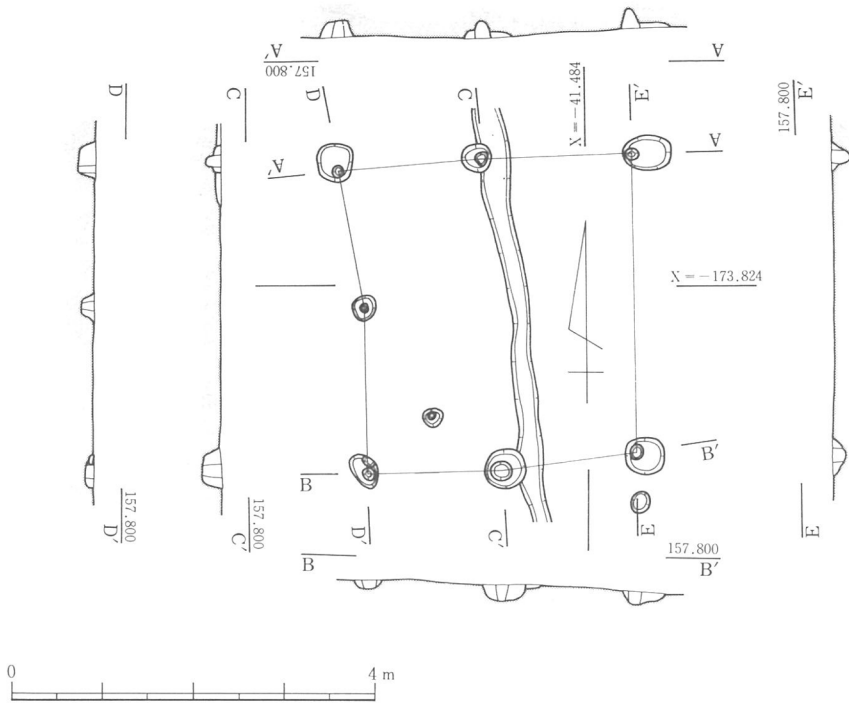
J 16 D E 付近で検出した 2 間× 2 間の総柱建物跡で、次に述べる 30-O B 同様、他の建物跡に比べ柱間が狭い。建物の主軸方向は $N-1^{\circ}-E$ で、平面積は約 6 m^2 を測る。また建物北東の丘陵縁辺部は後世の削平を受けており、掘方の底部をかりうじて検出した柱穴もあった。柱穴掘方の平面形は一辺 50 cm 程度の方形を呈し、柱芯は直径 20 cm 程度の円形である。柱穴内の出土遺物は全く検出されず、ただ柱穴イ 3 から焼土塊が出土しているにすぎない。柱穴埋土は概ねにぶい黄褐色 ($10 \text{ Y R } 5/4$) シルトである。なお総柱建物は、この建物と、その建て替えと思われる 30-O B およびこれらの南側に存在する 32-O B の 3 棟のみである。



第84図 30-OB平面図・断面図

30-OB (第39・81・82・84図、図版一四・一五)

J16DE付近で検出した2間×2間の総柱建物跡である。柱の切合い関係からみて29-OBを建て替えたものと考えられ、主軸方向がN-8°-Eとやや東側にふれる。柱穴掘方の平面形は29-OBとは若干異なり、円形に近づき、かつ小形化傾向にある(径40cm前後)。しかし柱芯の直径は約20cmを測り、29-OBとそれほど差異はない。また29-OB同様、丘陵縁辺部に位置する柱穴(口1・ハ1)は後世の削平を受けていたため、わずかに底部付近が残存しているにすぎなかった。平面積は約6m²を測る。建物を構成する柱穴柱芯、掘方から土師器片、須恵器片が出土しているが、細片のため図化できる資料はなかった。柱穴埋土は概ねにぶい黄褐色(10YR5/4)シルトである。



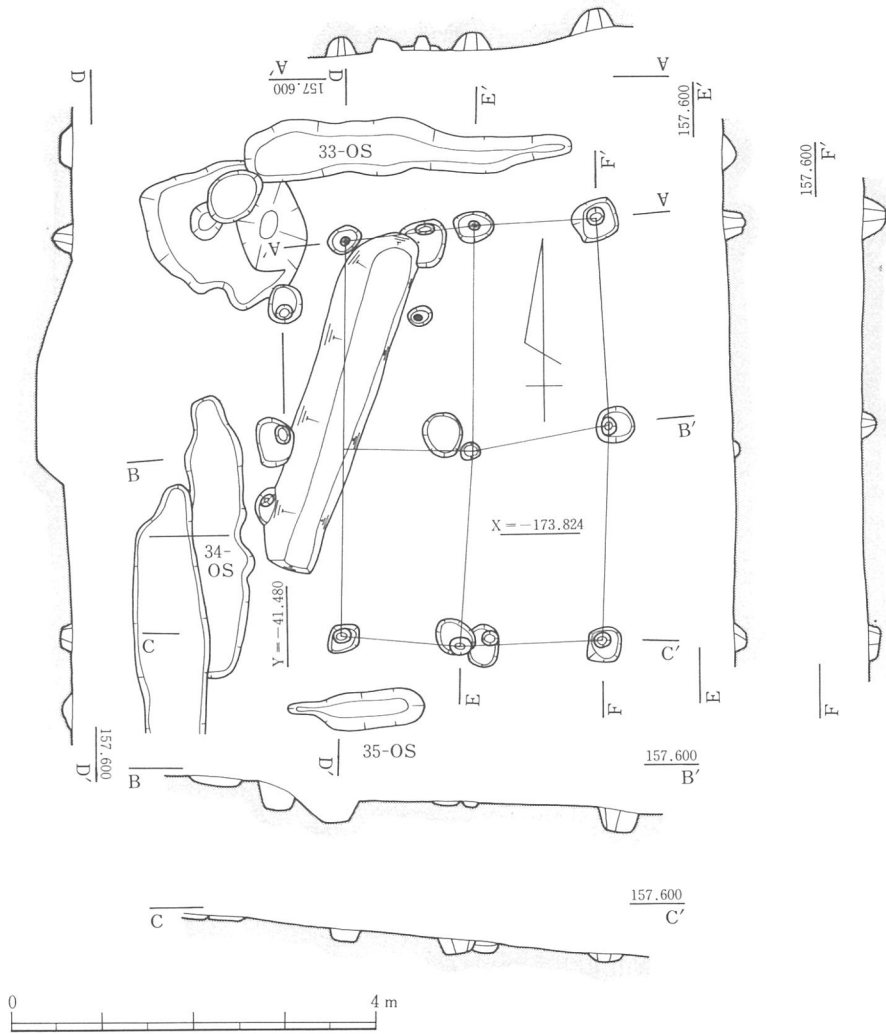
第85図 31-OB平面図・断面図

31-OB (第39・81・82・85図、図版一四・一五)

J16FD付近で検出した2間×2間の側柱建物跡で、主軸方向は $N-3^{\circ}-W$ である。この部分はちょうど水田面のカット部分にあっており、比較的大きな削平を受けていると思われる。そのため全体的に掘方の深さは平均10cmと非常に浅く、平面形も典型的な方形とは認め難い。平面積は約10 m^2 である。径40cm程度の柱穴内から出土した遺物は全くない。柱穴埋土は概ねにぶい黄橙色(10Y R6/3)シルトである。

32-OB (第39・81・82・86図、図版一四・一五)

J16EK付近で検出した2間×2間の総柱建物跡(主軸方向 $N-0.5^{\circ}-E$ 、平面積約12 m^2)であるが、建物平面形は他の建物と異なり長方形を呈する。また、本来は4面すべてに雨落ち溝が存在したと思われるが、建物東側の削平が著しいため、建物東側の溝は検出できなかった。径40cm程度の柱穴内から、遺物は全く出土していない。柱穴埋土は概ねにぶい黄褐色(10Y R4/3)シルトである。



第86図 32-O B平面図・断面図

2 鎌倉時代

鎌倉時代の遺構は、調査区北端部 J11 P P および J11 P S 付近で 4 棟の建物跡と井戸跡を検出した。これらの建物跡も柱穴内から遺物はほとんど出土しなかったが、井戸との位置関係等から当該期の遺構と判断した。

36-O B (第39・82・87図、図版一六・一七)

J11 P P付近で検出した1間×3間の総柱建物跡であるが、柱列が不揃いで、くわえて攪乱のため本来の規模は不明である。径30cm程度の柱穴から瓦器片や土師質土器片が出土したが、図示できる遺物はなかった。建物の主軸方向はN-35°-Eで、検出部分の平面積は約17m²である。柱穴埋土は概ねにぶい黄褐色(10Y R3/4)砂質シルトである。

37-O B (第39・82・88図、図版一六・一七)

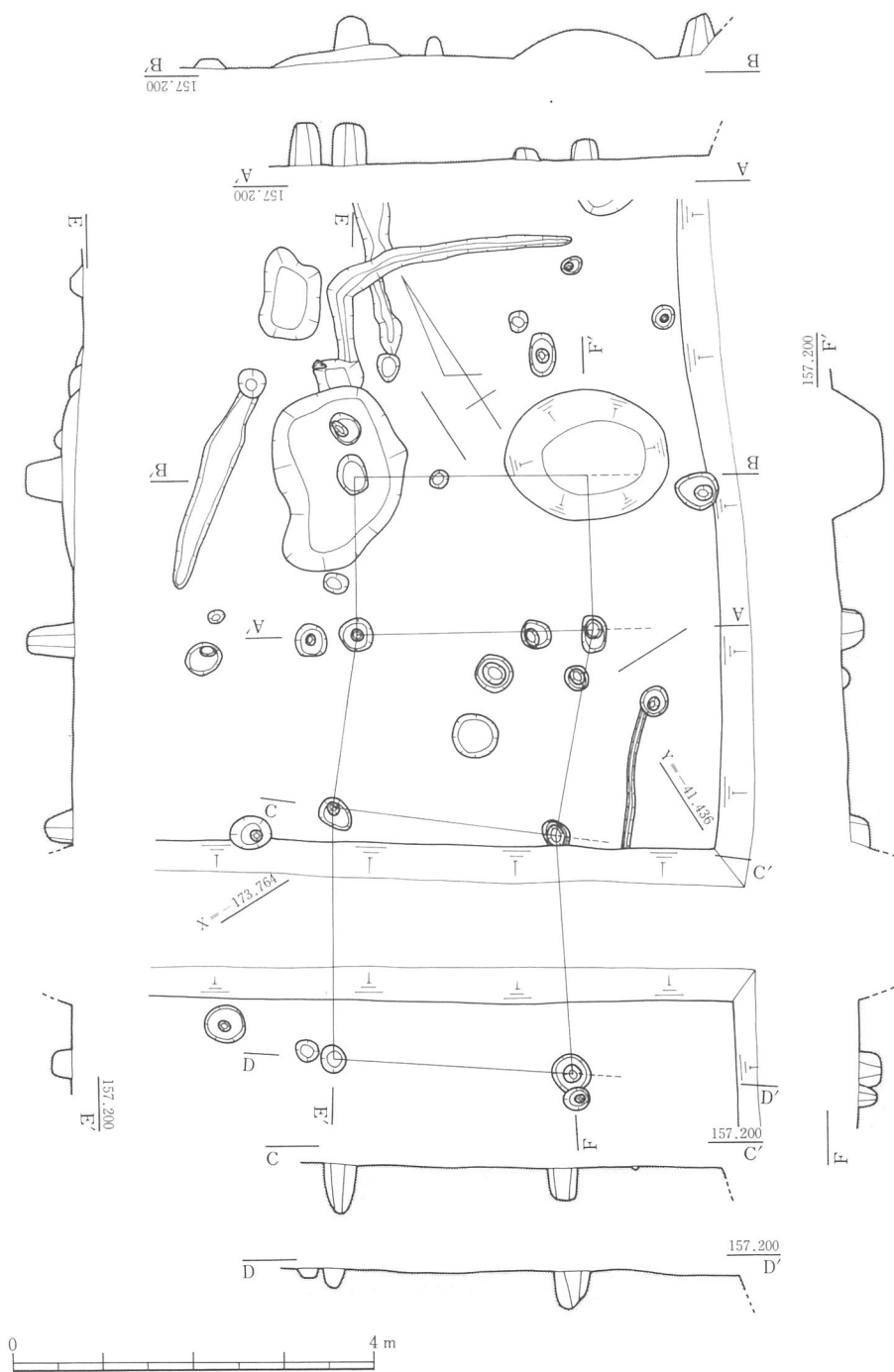
同じくJ11 P P付近で検出した1間×3間の側柱建物跡で、柱穴の切合い関係から36-O Bを建て替えたものと思われる。建物の主軸方向はN-44°-Eをとり、平面積約27m²を測る。また柱穴口3から延びる溝状の遺構は、壁の痕跡を示すものかもしれない。径30~40cmの柱穴から出土した遺物は土師質土器小片のみで、図示できるものはなかった。柱穴埋土は概ねにぶい黄橙色(10Y R4/6)砂質シルトである。

38-O B (第39・82・89図、図版一六・一七)

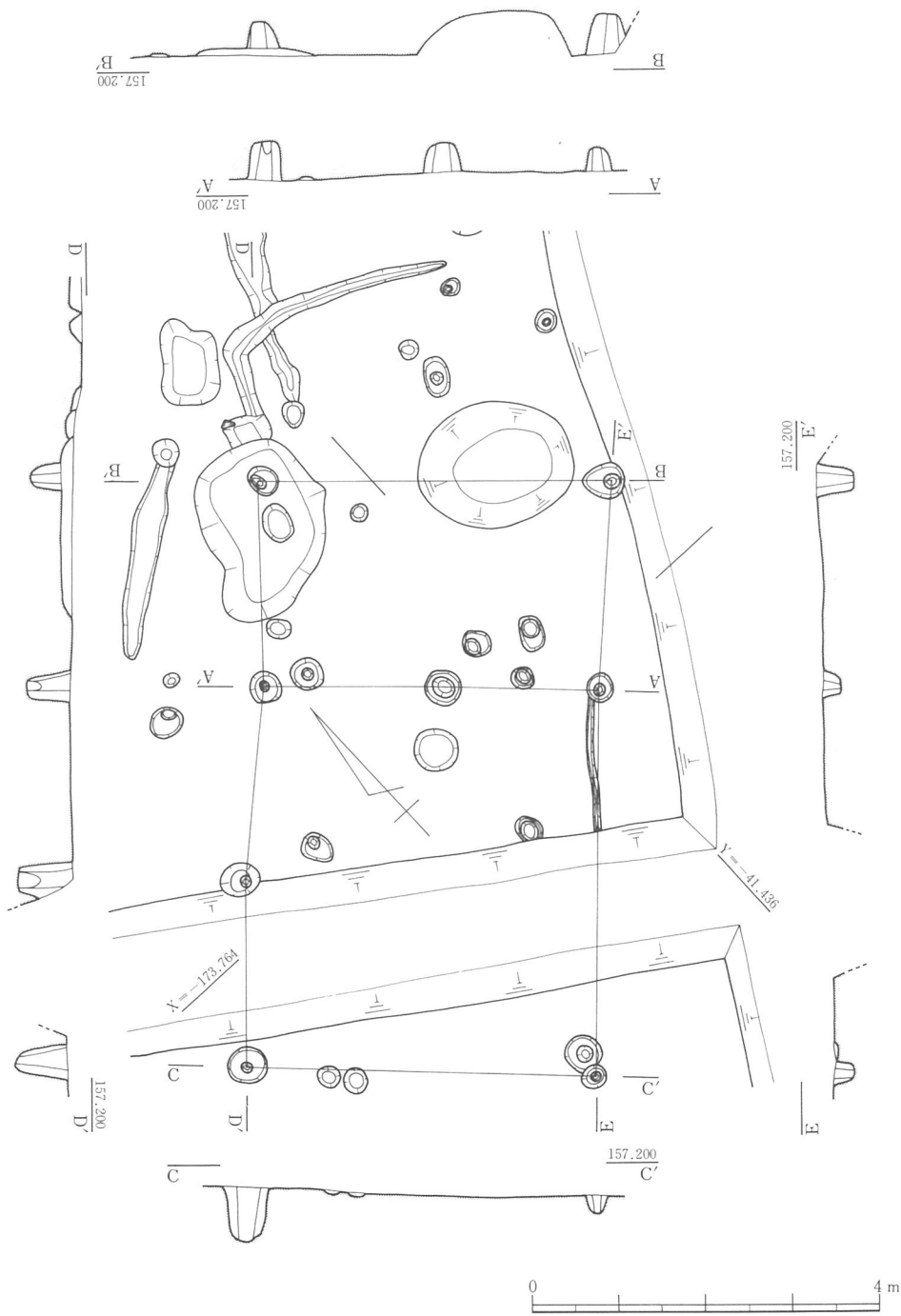
36・37-O Bの東側、J11 P S付近で検出した建物跡で、2間×3間の側柱建物跡と考えられ、一部は調査区外に広がる。38-O Bを構成する柱穴は40-O Oの検出面と同一面で確認したのに対し、この建物の柱穴は40-O O床面で検出したので、39-O Bに先行する建物であると考えられる。建物主軸はN-5°-Eで、検出部分の平面積は約24m²である。柱穴(径30cm前後)から出土した遺物は瓦器、土師質土器の細片で、図示できる遺物はなかった。柱穴埋土は概ね暗褐色(10Y R3/3)細礫混シルトである。

39-O B (第39・82・90図、図版一六・一七)

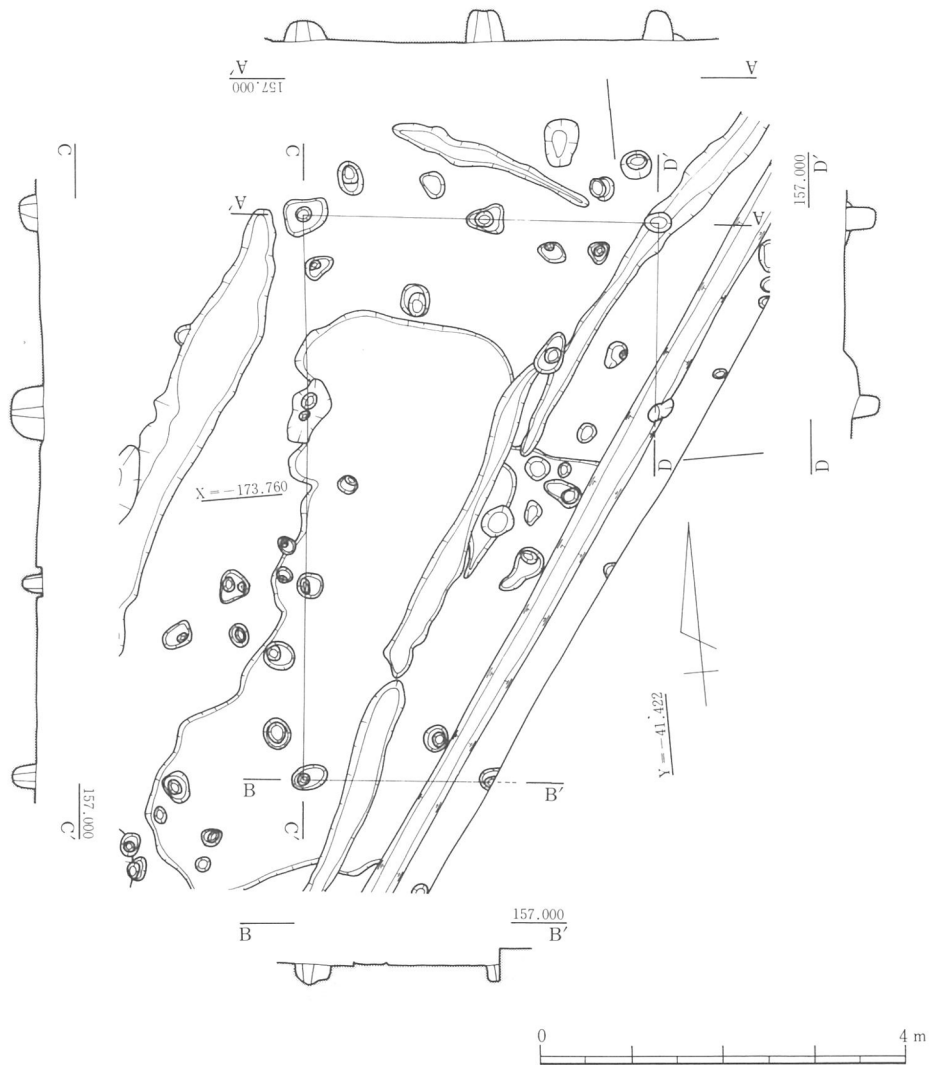
38-O Bと同じくJ11 P S付近で検出した側柱建物跡である。1間×4間分を検出したが、建物跡の南東側の一部が調査区外に広がるため正確な規模は判明しない。この建物跡は北・西側に庇を有し、それに伴う雨落ち溝(41・42-O S)も確認した。また建物南西端部には井戸(45-O W)が掘られているが、この部分に庇が取り付けいていたか否かについては、以下の解釈が可能であろう。①雨落ち溝42-O S延長上に井戸があることから、この部分にも庇が存在し、井戸水を確保するため、雨水を効果的に収集しようとした、②井戸が掘られているので、東側の44-O Sを雨落ち溝と解釈し、そこには庇が取り付けなかった。しかし、いずれの場合も現状では積極的に肯定することが困難である。庇部分を



第87图 36-O B平面图·断面图

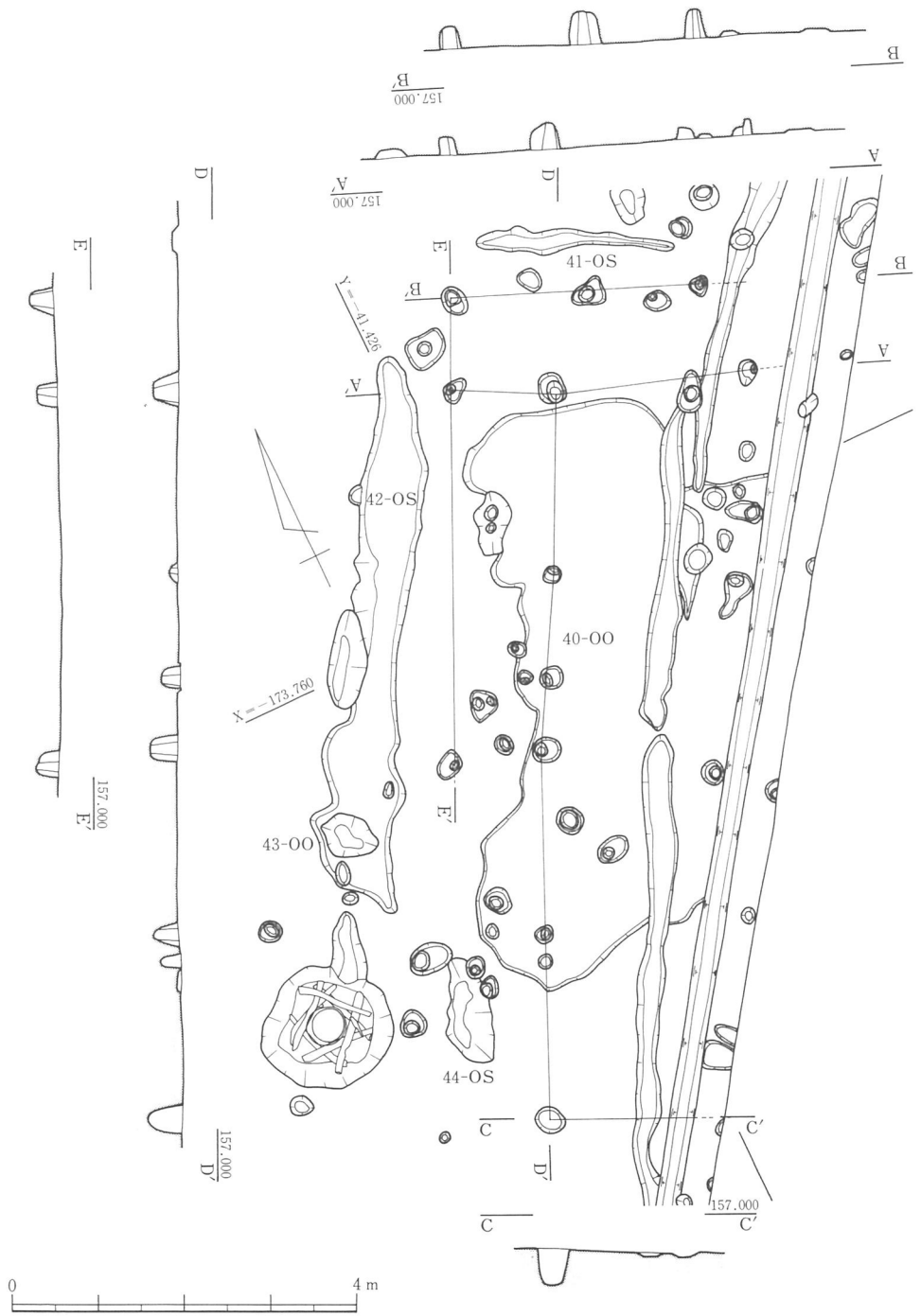


第88图 37-O B平面图·断面图



第89図 38-OB平面図・断面図

含めた検出部分の平面積は約27m²、主軸方向はN-26°-Eである。また42-OSに切られた43-OOを検出した。埋土には焼土が含まれるので、先述の38-OBに伴う「カマド屋」的な施設の可能性も想定される。柱穴内（径30cm前後）から土師質土器小片が出土している。なお40-OOは、この建物の身舎および庇の一部に不定形な形で存在し、輪郭がはっきりせず、緩やかに落ち込んでいる。これはこの建物が使用されていた時期の踏みかためと解釈することも可能である。柱穴埋土は概ね暗褐色（10Y R3/3）シルトである。



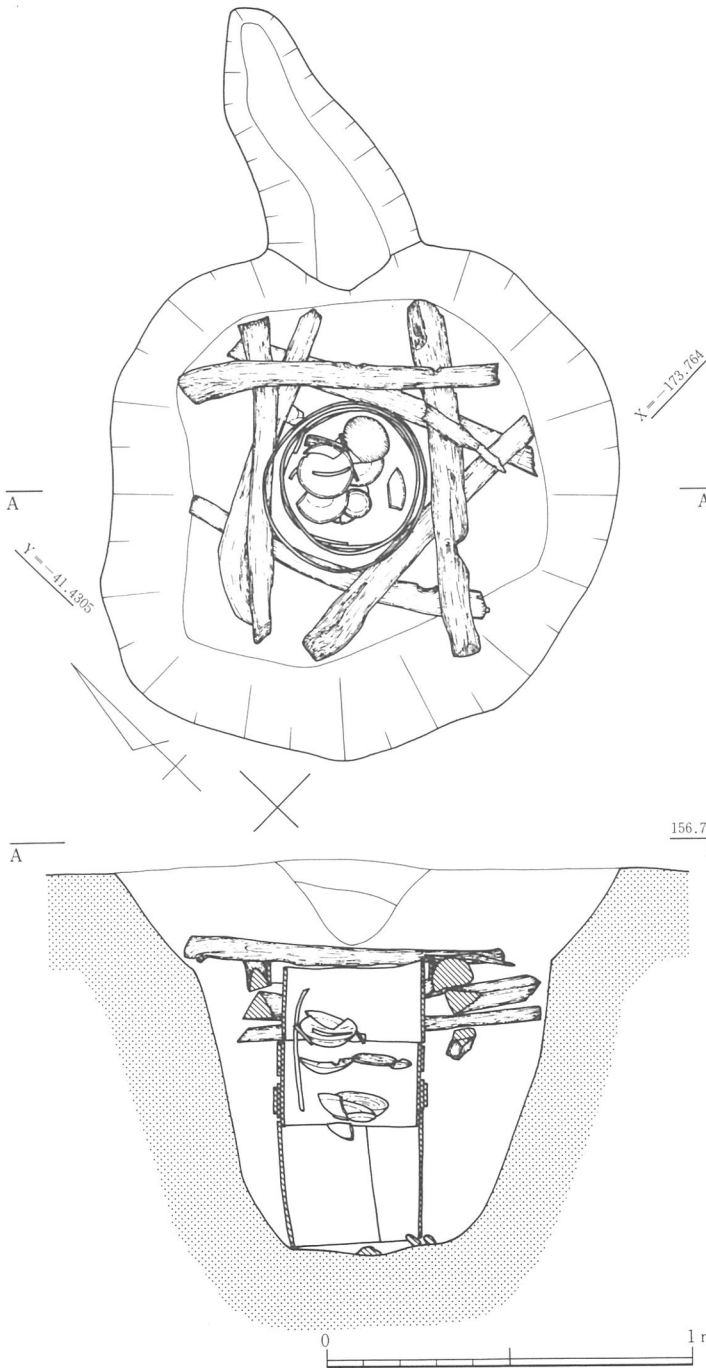
第90图 39-O B 平面图·断面图

45-OW (第39・91図、

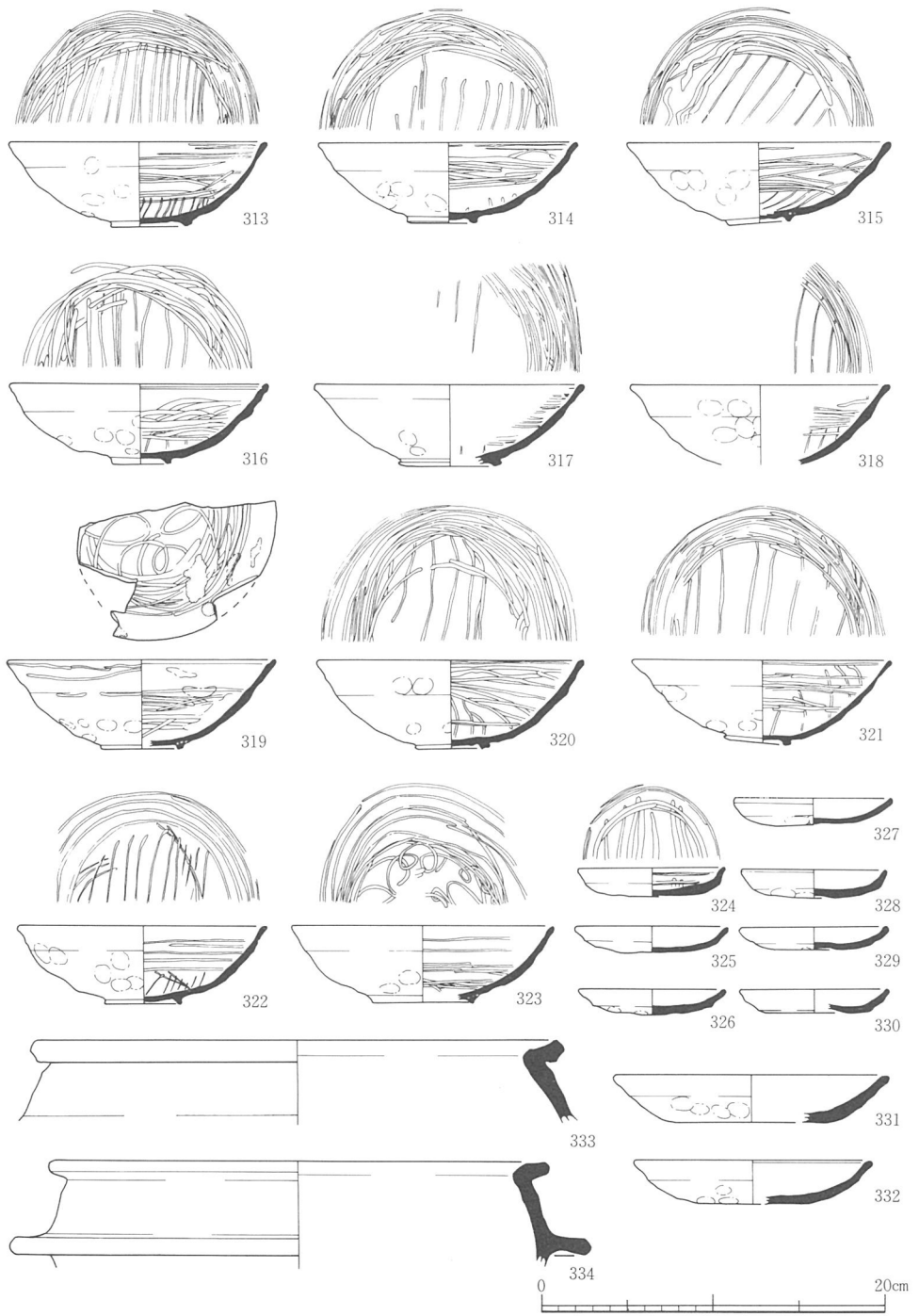
図版一六～一八)

J11PRに位置する。この井戸は掘方の中央底部から曲物井筒を据え、その上部周辺に固定材をわたした構造である。掘方の平面形は不整形円形を呈し、直径は約1.4mである。掘方の深さは検出面から1.1mで、下部ほど直径を縮めて直径0.5mの底面に至る。

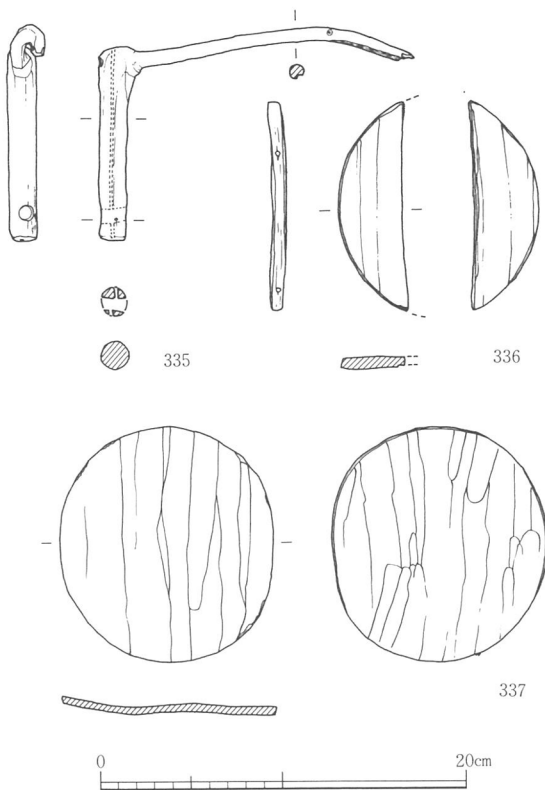
内部の構造物として、容器の底を抜いた曲物を井筒として転用していた。曲物は掘方底面から合計4段が筒状に積まれていた。しかし、最上段の曲物は大半が腐食して消滅しており、下端部を残すのみであった。このため、本来は4段以上に積まれていた可能性もある。なお、確認できない最上段を除き、他の個体は正立状態で設置されていた。上から2段目以上の曲物外面に沿って、長さ0.9m程度の木材を「井」の字状に方向を違えて組み、井筒の固定を図っていた。掘方埋土にはぶい黄褐色(10Y R4/3)細礫混シルト、粘土質シルト等である。



第91図 45-OW平面図・立面図



第92図 45-O W出土遺物実測図(1)



第93図 45-OW出土遺物実測図(2)

細片のため図示できなかった。

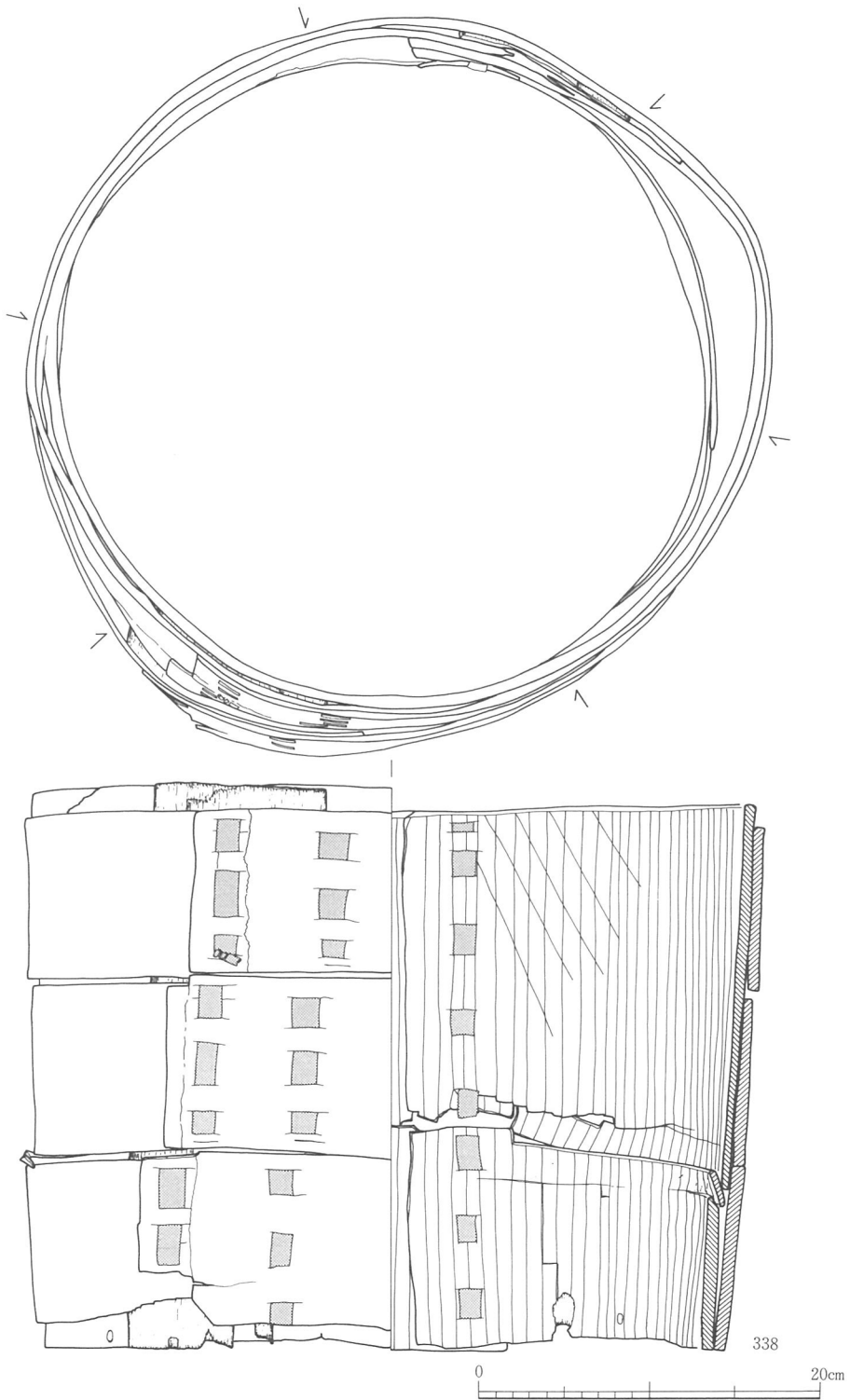
45-OW出土遺物(第92~96図、図版四六~四九)

出土遺物の大半は瓦器碗で、主に井筒3段目付近から集中的に出土した(313~320)。これらの大半は見込み部に平行状暗文を施し、その後に体部のヘラミガキを施す。これに対し(313・322)は、体部のミガキ調整の後、見込み部に平行状暗文を施している。また、見込みに連結輪状暗文を施す瓦器碗も2点出土した(319・323)。このうち(319)は、内面や断面に煤が付着している。他の出土遺物には、瓦器皿(324~326)や土師質皿(327~332)、土師質羽釜(333・334)がある。

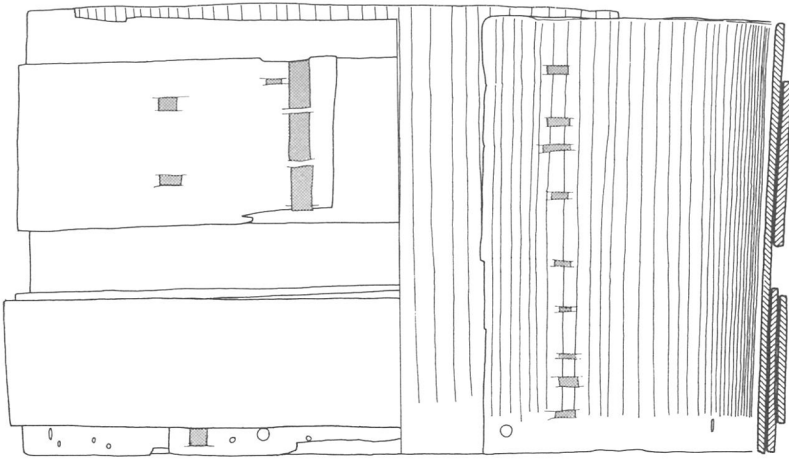
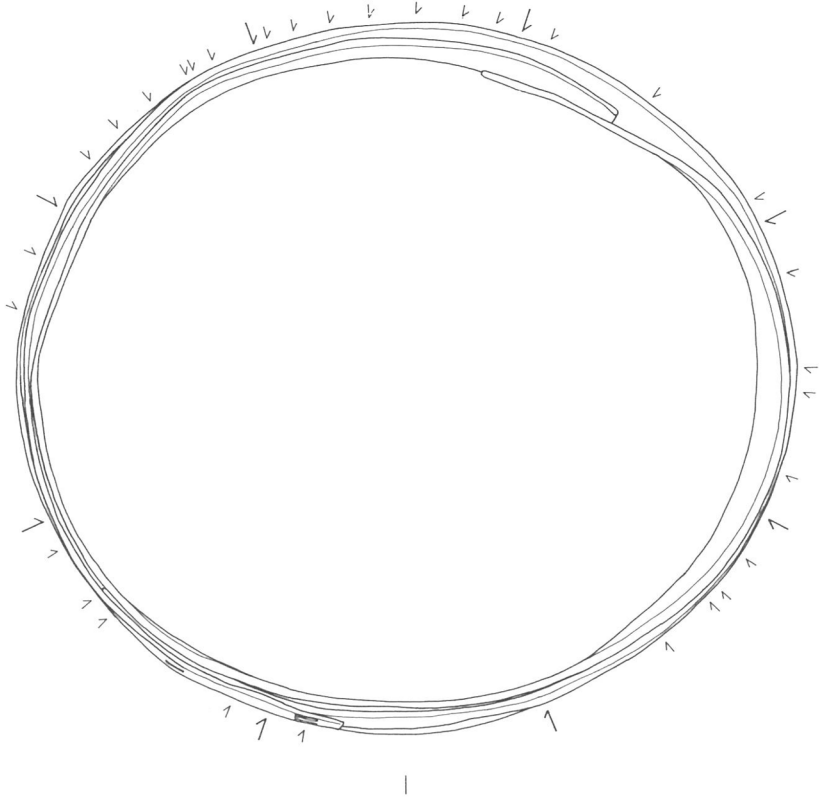
これらの瓦器碗の調整手法としては、内面体部にこそ比較的密なヘラミガキが施されているが、外面には指頭圧痕が著しく残り、口縁部付近にはほとんどヘラミガキ調整が認められない。一方高台部は断面形方形を呈するものの、粗雑で低く、高台径は3.2~5.8cmである。直径は14.8~15.8cm、器高は4.5~5.5cmにほぼ納まる。このような特徴を有する瓦器碗は、ほぼ13世紀初頭頃(尾上編年のⅢ-1期)の産物と考えられる。

またこれら裏込めになる土層は東側の残りがよく、検出面直下で井筒埋土と区別されたが、西側では崩壊していた。一方45-OW周辺に「覆い屋」の存在をうかがわせるような柱穴は確認できなかった。

遺物は主として3段目曲物から上、約40cmの範囲で出土している。埋土の褐灰色(10Y R4/1)シルト質粘土中に瓦器碗、土師質皿等が正立状態で一部は重なるようにして置かれ、木製品や木の枝も混じっていた。また埋土を水洗して植物遺体、昆虫遺体が得られた。植物遺体はクリ、シイ、カキ、モモ等の種子、昆虫遺体は甲虫類の羽根である。なお、井戸掘方からは瓦器片が出土しているが、



第94図 45-OW出土遺物実測図(3)



第95図 45-OW出土遺物実測図(4)

木器は土器類とほぼ同一層位で検出された。用途不明木器（335）と木製円板（336・337）とが出土している。（335）は木の枝を加工したもので、樹種は不明である。本体は棒状で上端に横方向に枝が伸び出し、また本体下端部には穿孔がある。（336）は円板の一部で破折した円弧状の破片である。縁面に釘穴が2箇所あいている。両面、縁部ともに黒色の漆を塗布する。（337）は完存している。直径12~13cm、厚さ0.5cmである。両面、縁部ともに黒褐色の漆が塗布してある。縁面には釘穴等は認められない。これら2点は容器もしくは蓋板の可能性はある。

井戸の構造物として、井筒を構成する曲物のうち、保存の良好な2点（338・339）および固定材（340）を図化した。平面図の矢印は釘穴の位置を示す。（338）は上から4段目の曲物で、側板に3枚の帯を巻いていた。側板の打ち合わせは右前、帯のそれは左前である。ともに打ち合わせ部分に縦方向にへぎ板をかませている。樺で縫い止められ、縫い始めは返し縫いされていた。下端には底板結合のための釘穴が6箇所認められた。（339）は上から3段目の曲物で、側板に2枚の帯を巻く。また下部の帯にはさらに補強のための帯を巻き、やや特異な形態である。下端には底板を結合する釘穴が8箇所ある（大矢印）。また下方の帯下端部には、より小形の釘穴多数が穿たれていた（小矢印）。後者は帯と側板との固定を図ったものらしく、側板内面までは穿孔が及ばない。

井筒の固定材は合計8点が検出された。最上部では腐食の激しい個体が認められたので、その上部では腐敗消滅していると考えられる。（340）は加工痕が明瞭なもので、一端は手斧で長さを調節し、また一部に抉り込みがある。材質はサクラである。材のうち数点は接合し、長さ約0.9~1.0m、直径約0.2mの素材となる原木を、いわゆる「みかん割り」にして割り取って組み合わせた工程が復原される。



第96図 45-OW出土遺物
実測図（5）

第Ⅳ章 まとめ —高向遺跡の石器—

高向遺跡の調査は石に始まり石に終わった。その他、弥生時代中期以降、鎌倉時代に至る遺構が検出されて多くの知見が得られたが、限られた枚数の中で全てを論じることはできない。従ってこの章では出土した石器類に絞りいくつかの問題点を整理しておこう。

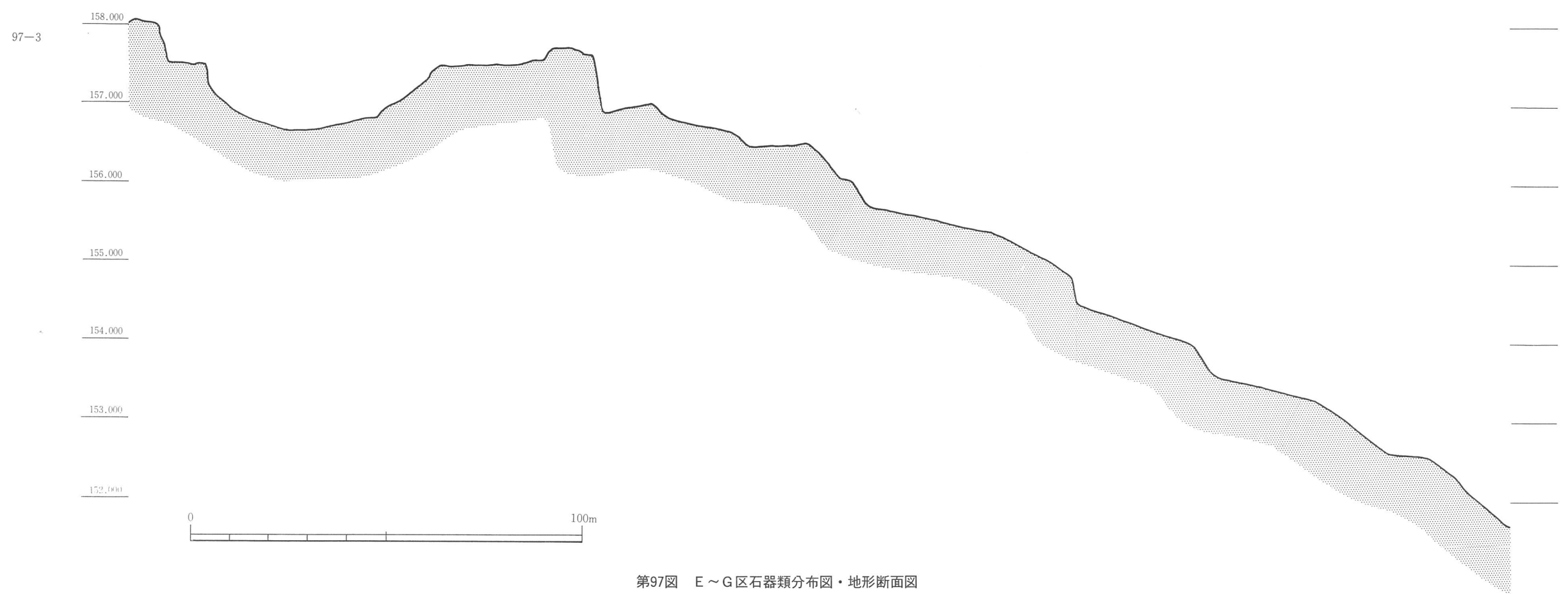
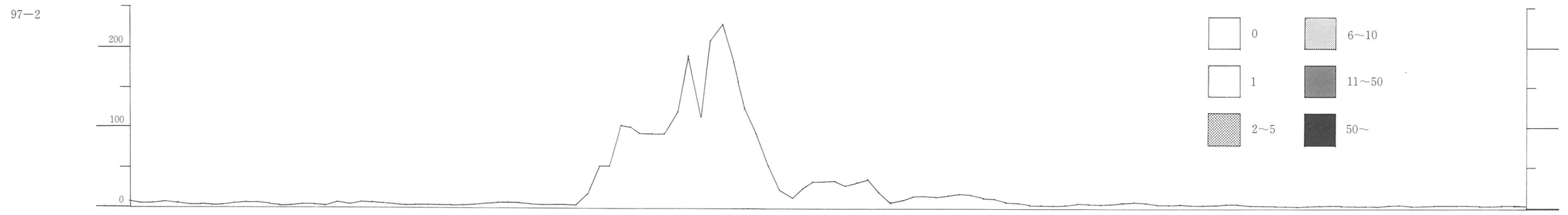
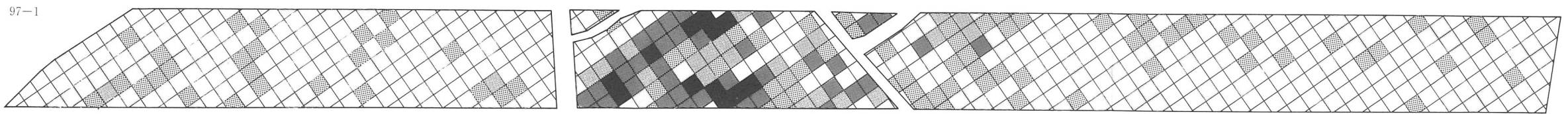
高向遺跡では、旧石器時代から縄文時代前期、弥生時代中期、古墳時代中期、奈良時代、平安時代、鎌倉時代と断続的に生活が営まれていた。このうち、旧石器時代と弥生時代を除いて古墳～鎌倉時代の遺構が、F・G区の標高の高い部分に集中している。この地区は段丘面最上流部で標高のひときわ高い位置を占めており、各時代を通じて生活しやすい条件が揃っていたのだろう。

以下、F区の調査で出土した石器を中心に据えて考察を加えていきたい。

1 遺跡の時代

F区の包含層にはⅠ～Ⅲ層までサヌカイト製、あるいはチャート製の石器、石器製作時に副産物として生じる石製廃棄物が包含されていた。Ⅲ層からは石器類のほか後世の土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器等の破片が検出され、Ⅰ・Ⅱ層ではそれに染付、ガラス、瓦等の破片が加わる。しかし、石器類が生産された当時の遺構は全く検出されなかった。すなわち、こうした遺物出土状況から、高向遺跡の石器類はすでに一括性が失われており、また接合資料の抽出が不可能に近いことなど、資料的に限界がある。

高向遺跡の石器類が帰属する時代は、北白川下層Ⅰ・Ⅱ式の縄文土器の出土から、縄文前期の時代を一応与えることができるが、石器にはわずかながらも弥生時代の個体が混入するので、縄文前期単純の遺跡と断定することはできない。石器自体については詳細な検討を加えることができず、形態や調整技法の特徴からの分析によって時代を特定することは現段階では行いえない。現時点で指摘できるのは、刃器（石匙）の中で縄文前期に特徴的な三角形状の個体が含まれていること⁽¹⁾、また二方向にノッチのある異形石器は、縄文前期以後の遺跡から発見されることである⁽²⁾。石鎌はその形状から時代を推定するのが困難ながら、その大きさから大半が縄文時代の産物であると考えられる。調整剥離については丁寧な個体と粗い個体とが混じっている。しかし、後述するように遺物の分布に特徴があり、数少ない縄文土器の分布が石器類のそれと重なるので、遺物の大半は土器が示す縄文前期に帰属する蓋然性が高いと考えられる。



第97图 E~G区石器類分布图・地形断面图

2 石材

石器の石材はサヌカイトを主体とし、チャートがごく一部を占める。サヌカイトについての産地同定は行っていない。質は緻密で色調は灰色から灰白色を呈している。風化の進んだ個体も稀に存在し、その中には細かい灰色の縞模様が生じた個体が含まれる。二上山とは地理的に近く、常識的には二上山系のサヌカイトが多いのではないかと考えられる。しかし、高向遺跡周辺にある家屋の石垣の一部にサヌカイト原石が用いられている例があり、市内にサヌカイトの産地が存在する可能性も、現段階では否定しえない。

チャートには赤色、緑灰色のものがある。当地では耕作土中に自然石としてチャートが少量包含されているが、いずれも粗質で小形の石が多い。製品に関しても個体数は少なく、粗質である。高向遺跡においてチャートが稀にしか用いられなかったのは、チャートの産地ではなく現地で良材に恵まれなかったからであろう⁽³⁾。また、その剥片が検出されなかったのは、石材の大きさに限度があり、石材を最大限に利用するために、細かい調整剝離を主とした加工が行われていたためと推察される。

3 分布

本遺跡では、石器のみならず石器製作の際に生じる石核、剥片、碎片が大量に検出された。この事実から、石器製作にかかわりのある遺跡であることは疑いえない。そしてF区の包含層が客土である可能性は、この地が耕地化される以前の遺構埋土に石器類が包含される事実によりすでに否定した。また現在の分布が、本来の状況をかなり正確に反映している可能性を指摘しておいた。以上の考えに立脚して遺跡の性格を推定すると、石器を集中的に製作していた、まさにその場所である蓋然性が極めて高い。石器類の分布に、集中部が明瞭に存在することがそれを証明するだろう。また石器類の分布調査で、サヌカイト類が分布する地域が当該区域以外には確認されなかったことも、F区周辺が中心地であったことを裏付けていよう。遺物集中部の平面形を復元的に考えると、位置はF区のほぼ中心部にあり、東西方向に幅約20mの帯状に連続して分布していたと推定される。

では、F区とそれに隣接するE・G区の石器類出土状況を連続して概観してみよう。F区の遺物出土量が突出しているのは、E～G区の連続した遺物分布図にも明瞭に表れている(第97図-1)。これはⅡ・Ⅲ層出土の石器類の分布を示しているが、分布の中心はF区にあって、E区の南端にも広がるがG区には及んでいない。さらに、石器類の出土点数を投影したグラフを作成した(第97図-2)。これは4mメッシュの対角線上を結ぶ交点

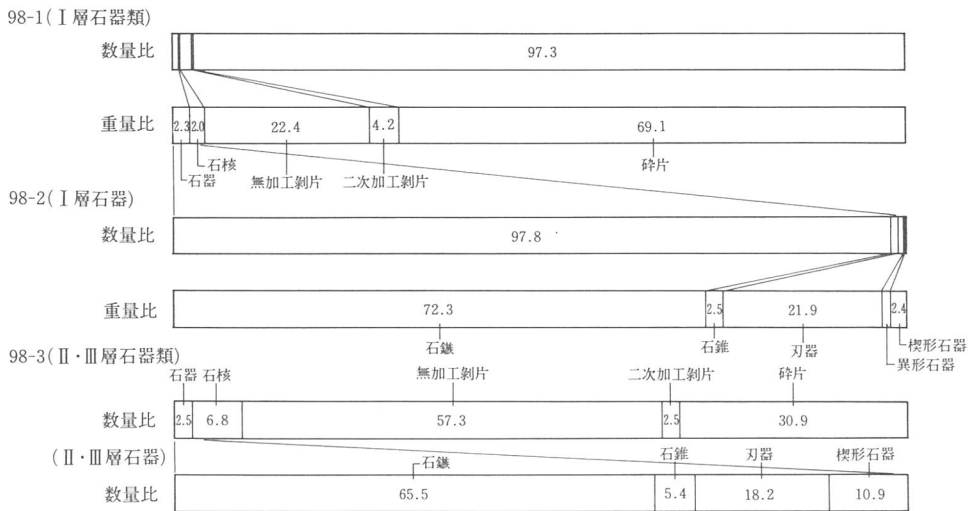
に、その周辺最大4区画の出土点数平均値を代入、東西方向に連続する交点の数値を合算して求めた数値に基づいている。つまり、幅約20mの範囲内で出土した遺物点数を圧縮し、垂直面に対して数値的に投影したといえる。これらと地形との関係を理解するため、平面分布図に対応する、調査区北西壁面におけるⅣ層上面の断面図を示した(第97図-3)。グラフではF区の出土量がE・G区と比較して桁の違うことが容易に理解されるであろう。しかし、それはF区の中心部であり、北端では出土量は減少してE区南端に及ぶ。E区から南西にかけてⅣ層は標高を上げ、F区南端とG区北端で最も高くなる。この地形的な最高点では遺物はかえって少なく、その北東斜面付近に中心を持っていることが分かる。G区では46-OXの埋土に石器類の混入が少ない。F区周辺には経時的变化に伴う遺物の拡散現象が認められるが、その拡散速度は極めて緩慢であったといえる。

4 組成

次に、石器類の組成について資料の呈示を行いたい。遺跡の性格が石器製作場とする推定が正しいならば、その場で製作された製品は保管や使用等の目的をもって、基本的に外へ持ち出されたと考えられる。たとえば石鏃は消耗品であり、遺跡の外で使用される性格の強い製品である。ゆえに製作場所で発見される遺物は、その場所が保管する機能を付与されている以外は、製作時の失敗、破損、紛失といった何らかのアクシデンタルな要因によって遺された蓋然性が高い。このため、出土点数を製作点数にそのまま結び付けるわけにはいかないが、少なくとも遺物の遺存する率が一定であると仮定すれば、それら製品の組成比についてはある程度信頼のおける結果が反映されているであろう。ただし本来、時期幅は考慮しなければならない条件であるが、本遺跡についてはこれを満たすことはかなわなかった。従って概ね北白川下層Ⅰ・Ⅱ式の遺物を中心としてはいるが、少量ながらも他の時代の遺物を併せて集計しているおそれがあることを断わっておかねばならない⁽⁴⁾。

Ⅰ層出土石器類の組成を、数量比、重量比についてそれぞれ示した(第98図-1)。数量比では総出土点数164134点に対して、碎片は97.3%と大多数を占めるが、石器は1.0%を占めるにすぎない。剥片は1.7%で、石核は極微量(0.04%)である。総重量36242.92gに対する重量比では剥片の比率が上がって26.5%、碎片は69.1%となる。この数値は使用石材の体積と関連する。

次にⅠ層から出土した個々の石器についての比率を求めた(第98図-2)。数量比では一見して、石鏃が97.8%と高い数値を占めていることがわかる。以下、石錐1.0%、刃器0.7



第98図 石器類組成図

％、異形石器0.4％、楔形石器0.1％の順に占有率が下がる。重量比では刃器が他の器種と比較して大形品であるため、21.9％を占めるようになる。

参考にII・III層出土石器類の数量についての比率を掲げた（第98図－3）。総点数2219点における割合をみると碎片が30.9％に減少し、剥片が59.8％と高率を占めている。石核は6.8％でこれも比率を上げている。石器は2.5％である。石器中の比率は石鏃65.5％、刃器18.2％、石錐5.4％、楔形石器10.9％で、石鏃に対して刃器の割合が高くなっている。

以上、II・III層の数量比の結果がI層のそれと異なっているのは、当然ながら一定以上の大きさを持つ遺物が主として採集されていることに起因する。微細遺物の数量が大幅に変動し、相対的に全体に影響していることがわかる。

5 器種構成

では、石器の器種構成についてみてみよう。高向遺跡における石器類の器種構成は、他の縄文前期遺跡と比べると相違があることに気付く。縄文時代前期の石器構成を、同時期の良好な資料がまとまって出土した福井県鳥浜貝塚をモデルとして考えると、石器、石製品について多くの器種を備えていることがわかる⁽⁵⁾。その構成内容は、石鏃、石錐、削器、石匙、円形撿器、異形石器、磨製石斧、礫器、石皿、磨石、敲石、凹石、石錘、楔形石器、尖頭器、軽石石器等であった。これらの器種構成を基準として他の縄文前期遺跡の石器類の構成を比較してみると、北白川下層I～III式の土器を出土した大阪府能勢郡中筋遺跡で

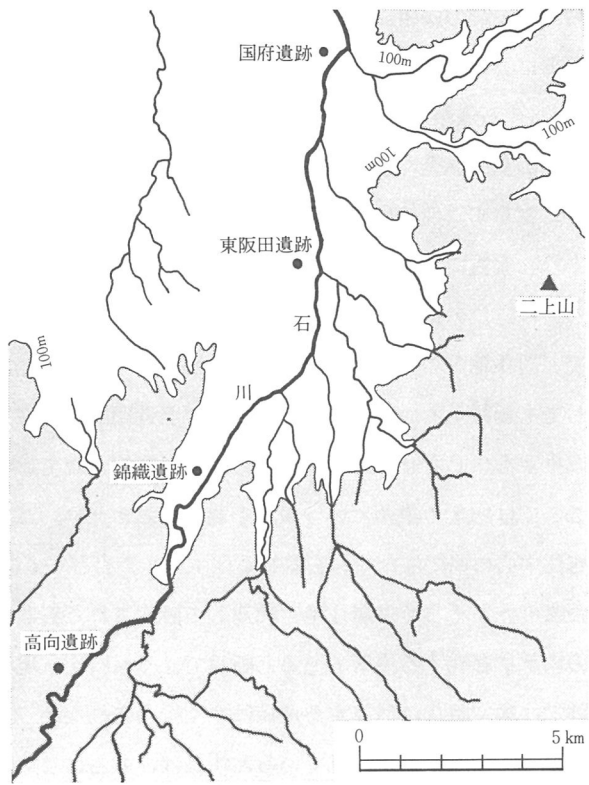
は石鏃、石錐、削器、異形石器、磨製石斧、礫器が出土しており⁽⁶⁾、また北白川下層Ⅰ・Ⅱ式にあたる奈良県吉野郡大淀桜ガ丘遺跡では石鏃、石錐、削器、石匙、磨石、敲石、石錘が出土している⁽⁷⁾。

高向遺跡では慎重を期するためF区出土石器に限定すると、その器種構成内容は石鏃、石錐、刃器（削器、搔器、石匙）、異形石器、楔形石器である。高向遺跡の石器構成と他の遺跡との大きな相違は、磨製石斧をはじめとする磨製石器、礫器等の出土をみないことである。この点は重要で、高向遺跡の性格をある程度理解する糸口が存在するであろう。磨製石斧、石皿、礫器等の遺物は、石材として砂岩、花崗岩、安山岩等が素材となるのに対して、高向遺跡出土の石器はすべてサヌカイト、チャート製である。上記の遺跡でも高向遺跡と同一器種の遺物素材は、同じ石材が主体で一部に黒曜石等が混じる。そして高向遺跡ではサヌカイト、チャート製石器としては、ほぼすべての器種を備えていることが分かる。これは当遺跡が、主たる素材のサヌカイトを集中的に加工するために設定された場であることを裏付けているのではないか。また、磨製石斧、石皿、その他材質の異なる遺物が出土しなかったのは、それらを加工する場でないのは当然のこととして、保管場所でもないことを示すのであろう。少なくとも住居は調査対象区域内にはなかったといえる。縄文土器が極めて少ないという事実も上記の推定を補強しよう。

6 遺跡分布

遺跡の周辺に目を向けると、石川流域には古くから縄文時代前期の遺跡の存在が知られている（第99図）。流域の下流から藤井寺市国府遺跡、羽曳野市東阪田遺跡、富田林市錦織遺跡が点在しており、北白川下層式を中心とした土器、もしくは縄文時代前期の蓋然性の高い石器を出土している。特に国府遺跡は旧石器時代の良好な資料を提供したことで良く知られ、また縄文時代に関しては前期初頭から晩期まで継続する大遺跡である⁽⁸⁾。縄文前期の遺物には北白川下層Ⅰ～Ⅲ式の土器と、石器、石製品として石鏃、石匙等が出土、埋葬遺構も検出されている。東阪田遺跡では、発掘調査によるものではないが、耕作土表面から縄文前期に属すると思われる石鏃、石錐、削器が採集されている⁽⁹⁾。また、錦織遺跡では北白川Ⅱ・Ⅲ式、大歳山式の縄文土器と、石器としては石鏃、石錐、石槍、打製石斧（サヌカイト製）、不定形刃器が出土している⁽¹⁰⁾。高向遺跡はこれらの最上流部に位置し、石川流域に点在する遺跡は、現在のところすべて流域の左岸の段丘面上に立地する点で共通している。右岸では前期遺跡は未発見である。東阪田遺跡は低位か中位かは明確でない

が、その他の遺跡はすべて中位段丘面上に存在する。少なくとも高向遺跡は、石川が形成した中位段丘面上では、最も奥地に立地する遺跡といえる。府下における縄文前期段階の遺跡の発見例がまだまだ少ない中において、石川水系中での前期の遺跡が新たに確認されたことは重要で、少なくとも段丘面上の遺跡としては、水系に沿った地理的上限と下限がおさえられたわけである。また位置関係からいえば、あくまでも現段階の知見であるが、それぞれの遺跡間距離は5～6 kmでほぼ等間隔に分布している。国府遺跡と錦織遺跡との関係は、地理的に近接



第99図 石川谷縄文前期遺跡分布図

していることや土器型式にわずかなずれが認められることから、国府から錦織への分村あるいは移住が説かれている。しかし、これらの遺跡間に何らかの緊密な関連が存在したであろうことは疑いえないにしても、それを確定するにはまだ余りにも資料が限られている。そうした中で高向遺跡では他とは遺物の構成が異なり、石器が主体であることも、同時期の他の遺跡からは得られなかった知識の空白部を補完する資料となるであろう。そして、縄文前期前半の段階から石川の最上流部まで人が遡っていたことが明らかになった点で、その存在意義は大きいといえよう。

7 遺跡の性格

最後に、高向遺跡の在り方について、ひとつの可能性を指摘して本稿を終えることにしよう。高向遺跡の調査結果と類似する例は乏しいが、その中で兵庫県三田市溝口遺跡は類例のひとつに数えてよいだろう。溝口遺跡は、旧石器時代から平安時代に至る複合遺跡で、特に石器遺物については水洗選別作業を含めた精密な調査が行われている。そのうち縄文

時代の遺跡の様相には、以下のような重要な諸特徴が指摘されている。土器の出土をみず、石器は石鏃、楔形石器、削器のみで器種が限定されている。また、剥片、碎片、石核が出土し、「石鏃製作址」、「楔形石器製作址」と推定される遺物集中部が検出されているにもかかわらず、全く遺構が検出されていない。土器の出土をみないため細かい時期決定はできておらず、性格付けが困難とされている。このような状況は高向遺跡と極めて類似性があり、ともに遺跡の在り方についてひとつの類型を呈示する可能性があるといえよう。

では、この共通する諸特徴をどのように解釈すべきだろうか。それにはまず、石器製作場と居住地との関係を考慮しなければならない。土器が全く出土しないか、あるいは出土しても極微量という状況は、住居跡が至近距離に存在しないことを示すのではないかという推定を生じさせる。また石器の組成が限定されている点についても然りである。ゆえにここではあえて集落という表現を避けておきたい。ここから引き出せるのは、あくまでも居住中心の場ではなく、石器を製作する作業場として機能していた区域ということである。つまり、おそらくは居住地と関連して設定された石器製作場ではあろうが、いわゆる集落の内部に存在する場所であると断言できる材料を、現段階では持たないのである。高向遺跡では縄文時代に帰属する遺構は全く検出されなかったが、石器製作場として居住区域と独立した場所が選定されているとすれば、もとより遺構が存在していなかった可能性もあながち否定はできない。すなわち端的にいえば、本来的に石器類が散布しているだけの様相を呈していたとも考えられるわけである。そして、本文中でも少し触れたが、高向遺跡では緩斜面の頂上部が削平の影響をあまり受けていないことを考慮すれば、遺物分布と地形から推して、石器製作活動の場として利用されたのは頂上というよりむしろ、頂上と緩斜面との傾斜変換点を含む東斜面であつたらしい。

以上のような遺跡の状況は報告例が稀で、現段階では特殊であるといえようが、視点を変えて調査することにより、今後類例が増加することも充分予想される。しかし同時に住居跡が未発見である点等、大きな今後の課題も残された。いずれにせよ、高向遺跡は縄文時代遺跡のひとつの在り方を示す資料となるであろう。

末筆ながら、高向遺跡の調査および整理に関連して多くの方々から御助言、ご協力を頂いたことを感謝する。しかし、寡黙な石をして語らしむには、調査者の力量があまりにも不足していたといわねばなるまい。

註

- (1) 北白川下層Ⅱ式以降、近畿地方に出現するとされ、また、北白川下層式、諸磯 a・b 式前後に集中し、分布が本州中央部に限定されるという指摘がある。
岡田茂弘「縄文文化の発展と地域性 7 近畿 二前期」『日本の考古学Ⅱ 縄文時代』
河出書房 1965
五味一郎「石器Ⅱ：石匙」『縄文時代の研究』9 雄山閣 1983
- (2) 異形石器の用途は不明であるが、岐阜県吉城郡村山遺跡ではホルンフェルス製異形石器のノッチ部分が摩滅していることが報告されている。
塩屋雅雄・大野政雄『村山遺跡』斐太中央印刷 1960
なお、四方向にノッチを持つ異形石器は類例が少ないようであるが、藤田正篤氏の御教示によれば、大阪府泉佐野市三軒屋遺跡から類似の個体が採集されている。
- (3) 中筋遺跡では、丹波山地をはじめチャートが遺跡周辺で産出し、チャート製品の比率が高い。
渡邊昌宏『中筋遺跡発掘調査概要－豊能郡能勢町山辺所在－』大阪府教育委員会 1981
- (4) 鳥浜貝塚では草創期から前期までの石器組成が集計され、北白川下層Ⅰ式からⅡ式にかけて石錘・磨石類の減少傾向、石鎌の漸増傾向が指摘されている。
前田精明「9. 石器群の構成」鳥浜貝塚研究グループ編『鳥浜貝塚 1980年度調査概報－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 2－』福井県教育委員会 1981
- (5) 鳥浜貝塚研究グループ編『鳥浜貝塚－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 1－』福井県教育委員会 1979
前掲書(4)
- (6) 広瀬和雄「中筋遺跡発掘調査概要」『節仙』第33号 大阪府教育委員会文化財保護課 1981
広瀬和雄「第2章 第1節 中筋遺跡」『能勢町史』第4巻 能勢町 1981
前掲書(3)
- (7) 小島俊次『大淀桜ガ丘遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査抄報第13輯 奈良県教育委員会 1960
- (8) 浜田耕作『河内国国府石器時代遺跡第二回発掘報告』京都帝国大学文学部考古学研究報告第4冊 京都帝国大学文学部 1920
- (9) 宮野淳一氏（大阪府教育委員会）の御教示による。
- (10) 北野耕平「錦織縄文遺跡について」『古代学研究』5 古代学研究会 1951
渡辺 誠「大阪府富田林市錦織出土の縄文土器」『古代文化』23-3 財団法人古代学協会 1971
小池史哲「第2節 市内の縄文遺跡各説 1. 錦織遺跡」『富田林市史』第1巻 富田林市 1985
- (11) 堀田啓一「第2章 第2節 3 縄文前期」『大阪府史』第1巻 大阪府 1978
前掲書(10)の『富田林市史』第1巻
- (12) 山下秀樹・南 博史他『兵庫県三田市 溝口遺跡－北摂工業地区－』財団法人古代学協会 1986
- (13) 調査、整理にあたって前記した方々の他に、阪田育功氏、広瀬和雄氏、渡邊昌宏氏（いずれも大阪府教育委員会）から資料提供および適切な御助言を頂いた。

第7表 遺物観察表

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法量 〔cm〕 g	胎 上	焼成	色 調	手 法	備 考
1	弥生土器 壺	F 23 Q P	Ⅲ a 層	底部の約 30%	残存高 1.6cm 底径(復) 7.7cm	白色砂粒を多く含む。	硬	(外) 明黄褐色 (10Y R7/6) (内) 明黄褐色 (2.5Y R7/6) (断) 灰白色 (2.5Y 7/1)	摩耗はげしく調整不明	
2	弥生土器 壺	G 01 J R	Ⅲ c 層	10%以下	残存高 3.45cm 底径(復) 7.0cm	砂粒を含む。	軟	(外) 赤褐色 (10R5/4) (内) にぶい赤褐色 (10R6/3) (断) 暗赤灰色 (10R4/1)	摩耗はげしく調整不明	
3	ハニワ	F 19 S L	側溝		残存長 2.7cm 厚 1.1cm	白色の砂粒を含む。	硬	(外) にぶい赤褐色 (2.5Y R4/3) (内) にぶい褐色 (2.5Y R6/3) (断) あわい赤褐色 (2.5Y R7/4)		
4	須恵器 杯身	J 02 S V	Ⅲ 層	17%	残存高 3.2cm 口径(復) 14.3cm	白色、黒色砂粒をわずかに含む。	硬	(外) 灰白色 (N7/0) (内) 明オリーブ灰色 (5G Y7/1) (断) 灰白色 (N8/0)		
5	須恵器	J 07 O L	Ⅲ b 層	10%	残存器高 7.8cm	1.0～2.0mm大の白色砂粒を含む。	硬	(外) 灰白色 (N7/0) (内) 灰白色 (N7/0) (断) 灰白色 (N7/0)		
6	須恵器 杯蓋	F 19 S H	Ⅲ a 層	90%	口径 14.1cm 器高 4.65cm	やや粗。2mm以下の灰色の砂粒、4mmの白色の小石粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N6/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰白色 (N7/0)	ロクロ回転右	
7	須恵器 杯身	J 07 F L	Ⅲ 層	5%	口径(復) 11.5cm 残存高 1.8cm	1mm以下の白色粒を少し含む。	硬	(外) 灰白色 (N7/0) (内) 灰白色 (N8/0) (断) 灰白色 (N8/0)		
8	須恵器 杯身	F 23 Y O	Ⅲ 層	10%	受部径 12.05cm 残存高 2.8cm	1.0～2.5mmの白色砂粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N6/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰色 (N6/0)		
9	須恵器 杯蓋	F 24 A D	Ⅲ a 層	25%	口径(復) 13.6cm 残存高 1.3cm	密。1mm以下の灰色の砂粒を含む。	硬	(外) 灰白色 (N7/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰色 (N6/0)	ロクロ回転左	転用硯
10	須恵器 杯身	J 03 P D	Ⅲ 層	20%	高台径(復) 11.0cm 高台高 0.8cm 残存高 2.3cm	やや密。2mm以下の白色の砂粒を含む。	硬	(外) 灰白色 (N7/0) (内) 灰白色 (N7/0) (断) 内外部 灰色 (N4/0) 中央部 褐灰色 (2.5Y R4/1)		
11	須恵器 壺	F 19 U F	Ⅲ b 層	10%以下	口径(復) 42.4cm 残存高 2.8cm	やや密。2mm以下の灰色の砂粒、黒色鉱物粒を含む。	中	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰色 (N6/0)		
12	土師器 壺	F 19 T E	Ⅲ a 層	5%	口径(復) 18.2cm 残存高 3.5cm	1～2mm大の灰白色砂粒を多く含む。	硬	(外) 褐色 (7.5Y R7/6) (内) 褐灰色 (7.5Y R4/1) (断) 灰色 (7.5Y R8/1)	摩耗はげしいがヨコナデ調整がみとめられる	
13	土師質 壺	J 03 F I	Ⅲ 層	10%	口径(復) 22.4cm 残存高 8.15cm	1.0～2.5mm大の白色砂粒を含む。	中	(外) 明黄褐色 (10Y R7/6) (内) 明黄褐色 (10Y R7/6) (断) にぶい黄橙 (10Y R7/4)		
14	土師質 壺	J 02 Y S	Ⅲ 層	5%	口径(復) 22.5cm 残存高 5.05cm	1.0～3.0mm大の白色砂粒、5.0mm大の黒色小石を含む。	中	(外) 明赤褐色 (5Y R5/6) (内) 明黄褐色 (10Y R6/6) (断) 暗褐色 (7.5Y R3/4)		
15	瓦器 小皿	J 07 D S	Ⅲ 層	35%	口径(復) 9.25cm 器高 1.5cm	0.5mm以下の白色砂粒を少し含む。	中	(外) 灰色 (7.5Y 4/1) (内) オリーブ黒 (7.5Y 3/1)		
16	白磁 碗	J 02 R W	Ⅲ 層	5%	口径(復) 15.9cm 残存高 2.9cm	密。	硬	(軸) 灰白色 (N8/0) (露胎) 灰白色 (7.5Y 8/1) (断) 灰白色 (10Y 8/1)		
17	白磁 碗	J 03 R A	Ⅲ 層	5%	口径(復) 13.6cm 残存高 3.55cm	密。	硬	(外) 灰白色 (2.5G Y8/1) (内) 灰白色 (2.5G Y8/1) (断) 灰白色 (N8/0)		
18	白磁 碗	J 02 M Y	Ⅲ 層	5%	口径(復) 10cm 残存高 1.9cm	密。	硬	(軸) 灰白色 (5Y 7/2) (断) 灰白色 (10Y 8/1)		
19	青磁 碗	F 19 W I	側溝	10%以下	口径(復) 15.6cm 残存高 3.2cm	密。	硬	(外) 明緑灰色 (5G 7/1) (内) 明緑灰色 (5G 7/1) (断) 灰白色 (N8/0)	施軸	
20	青磁 碗	J 07 A S	Ⅲ c 層	10%	口径(復) 14.2cm 残存高 4.2cm	密。	硬	(軸) オリーブ灰色 (10Y 6/2) (断) 灰白色 (10Y 8/1)		
21	常滑 壺	F 19 J O	Ⅲ a 層	10%以下	口径(復) 35.6cm 残存高 4.7cm	密。1mm以下の灰色の砂粒を含む。	硬	(外) 灰赤色 (2.5Y R4/2) (内) 暗赤褐色 (5Y R3/2) (断) 灰白色 (N8/0)		
22	瀬戸 おろし皿	F 10 Y P	Ⅲ 層	50%	底径(復) 8.1cm 残存高 2.0cm	1～2mm大の白色砂粒をわずかに含む。	硬	(軸調) 明緑灰色 (7.5G Y7/1) (露胎部) 灰白色 (7.5Y 8/1) (断) 灰白色 (7.5Y 8/1)		
23	平瓦	J 07 F Q	Ⅲ c 層	25%	残存長 10.0cm 幅 14.3cm 厚 2.5cm	1～3mm大の白色、黒色砂粒をわずかに含む。	中	(凸面) 明オリーブ灰色(2.5G Y7/1) (凹面) 明オリーブ灰色(2.5G Y7/1) (断) 明オリーブ灰色(2.5G Y7/1)	1枚作り	

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法 量 〔 cm g 〕	胎 土	焼成	色 調	手 法	備 考
24	鮎尾 簾	G 01 N R	III b 層	95%	残存長 13.15cm 残存幅 3.56cm 重量 28.17g					
25	土 錘	G 06 C F	II 層	100%	最大長 3.6cm 最大径 1.5cm			(外) 浅黄色 (2.5Y7/3) (内) 浅黄色 (2.5Y7/3) (断) 浅黄色 (2.5Y7/3)		
26	砥 石	F 19 L N	II 層		残存長 4.0cm 残存幅 3.3cm 厚 1.85cm			(外) 灰色 (N4/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰色 (N6/0)		
27	砥 石	F 19 W H	III a 層		残存長 4.1cm 残存幅 3.6cm 厚 0.6cm					
28	砥 石	試 掘 23トレンチ	III 層		残存長 3.6cm 残存幅 2.4cm 厚 0.6cm					
29	砥 石	G 06 L A	III 層		残存長 4.7cm 残存幅 3.8cm 厚 1.0cm					
30	須 恵 質 鉢	G 01 T I	III a 層	5%	口径(復) 25.6cm 残存高 3.6cm	石粒をわずかに含む。 白色、黒色砂粒をわず かに含む。	硬	(外) 明青灰色 (5 B7/1) (内) 灰白色 (N7/0) (断) 灰白色 (N7/0)		
31	須 恵 質 鉢	J 03 F G	III 層	5%	口径(復) 29.6cm 残存高 4.7cm	1.0mm大の白色、灰色 砂粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N7/0) (内) 灰色 (N7/0) (断) 灰色 (N7/0)		
32	須 恵 質 鉢	G 01 O I	III a 層	5%	口径(復) 29.8cm 残存高 5.1cm	石粒をわずかに含む。 白色砂粒をわずかに含 む。	硬	(外) 明青灰色 (5 B7/1) (内) 明青灰色 (5 B7/1) (断) 明青灰色 (5 B7/1)		
33	須 恵 質 鉢	J 07 N I	III 層	5%	口径(復) 27.2cm 残存高 3.7cm	1mm大の白色砂粒を多 く含む。	中	(外) 灰白色 (N8/0) 灰色 (7.5Y5/1) (内) 灰色 (7.5Y5/1) (断) 灰色 (7.5Y5/1)		
34	須 恵 質 鉢	J 02 R W	III 層	5%	口径(復) 26cm 残存高 5.3cm	1.0mm大の白色砂粒を 含む。	硬	(外) 灰白色 (N8/0) 灰色 (N6/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰色 (N6/0)		
35	須 恵 質 鉢	J 02 R Y	III 層	5%	口径(復) 23.5cm 残存高 4.9cm	2mm以下の白色砂粒を 少し含む。	硬	(外) 灰色 (10Y4/1) 灰白色 (N7/0) (内) 黒褐色 (2.5Y3/1) (断) 灰白色 (N7/0)		
36	須 恵 質 鉢	F 19 V H	III b 層	5%	口径(復) 30.0cm 残存高 4.7cm	1mm大の白色砂粒をわ ずかに含む。	硬	(外) 明青灰色 (5 B7/1) (内) 明青灰色 (5 B7/1) (断) 明青灰色 (5 B7/1)		
37	須 恵 質 鉢	G 01 M J	II 層	5%	口径(復) 26.5cm 残存高 7.0cm	1~2mm大の白色、黒 色砂粒を多く含む。	硬	(外) 灰白色 (N8/0) (内) 灰色 (5 Y6/1) (断) 灰白色 (N8/0)		
38	瓦 質 羽 釜	G 01 R N	III 層	5%	口径(復) 14.5cm 残存高 3.7cm	1mm未満の黒色、白色 砂粒をわずかに含む。	硬	(外) 灰色 (7.5Y5/1) 明オリブ灰色 (2.5Y7/1) (内) オリブ灰色 (5 GY6/1) (断) 灰白色 (7.5Y7/1)		
39	瓦 質 羽 釜	J 07 H L	III 層	5%	口径(復) 20.0cm 残存高 4.49cm	1.0~3.0mm大の白色 砂粒を含む。	中	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (N8/0)		
40	瓦 質 羽 釜	F 19 W I	III a 層	10%以下	口径(復) 25.2cm 残存高 5.4cm	やや粗。灰色の砂粒、 小石粒を含む。	中	(外) 灰褐色 (7.5Y R4/2) (内) 灰褐色 (7.5Y R4/2) (断) 灰褐色 (7.5Y R4/2) にぶい褐色(7.5Y R6/4)		
41	瓦 質 羽 釜	J 07 F R	III 層	10%	口径(復) 14.8cm 残存高 4.65cm	1mm大の白色砂粒を含 む。	硬	(外) 灰色 (N5/0) (内) 灰色 (N5/0) (断) 灰白色 (N8/0)		
42	瓦 質 羽 釜	J 07 L N	III 層	5%	口径(復) 29cm 残存高 3.9cm	—	中	(外) 灰色 (5 Y4/1) (内) 灰色 (5 Y4/1) (断) 灰白色 (5 Y8/1)		
43	瓦 質 甕	F 10 F Y	III a 層	5%	口径(復) 38.0cm 残存高 4.0cm	4mm大の黒色砂粒、1 mm未満の黒、白色砂粒 をわずかに含む。	中	(外) 灰色 (N4/0) (内) 灰色 (10Y4/1) (断) 灰白色 (10Y8/2)		
44	瓦 質 甕	J 03 K A	III 層	2%	口径(復) 24.4cm 残存高 5.05cm	1mm以下の白、灰色砂 粒を多く含む。	中	(外) オリブ褐色 (2.5Y4/3) (内) 灰白色 (2.5Y8/2) (断) 淡黄色 (2.5Y8/3)		
45	瓦 質 鉢	J 07 C S	III 層	5%	口径(復) 23.8cm 残存高 4.2cm	1mm以下の白色砂粒。	中	(外) 灰色 (10Y6/1) (内) 灰色 (10Y4/1) (断) 灰白色 (10Y8/1)		

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法量 (cm) g	胎土	焼成	色調	手法	備考
46	瓦質鉢	F10MW	II層	5%	口径(復) 33.5cm 残存高 6.7cm	1mm大の白色砂粒をわずかに含む。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 緑褐色 (5G17/1) (断) 灰白色 (N8/0)		
47	瓦質鉢	J02RW	III層	5%	口径 36.2cm 残存高 5.05cm	2mm以下の白色、灰色砂粒を含む。	中	(外) 灰色 (10Y4/1) (内) 黒色 (N2/0) (断) 灰白色 (7.5Y8/1)		
102	弥生土器 高杯	F10TP	1-00	20%	口径(復) 17.6cm 残存高 1.8cm	やや粗。2mm以下の灰白色の砂粒、4~5mmの灰白色の小石粒を含む。	軟	(外) 淡赤褐色 (2.5YR7/4) (内) 褐色 (2.5YR7/6) (断) 淡赤褐色 (2.5YR7/4)		河内産
103	弥生土器 壺	F10TP	1-00	40%	口径(復) 15.4cm 残存高 17.45cm	粗。2mm以下の灰白色の砂粒、2~3mmの灰白色の小石粒を含む。	中	(外) 灰色 (10Y4/1) (内) 灰色 (10Y4/1) (断) 灰色 (10Y4/1)		河内産
104	弥生土器 壺	F15EG	2-00	30%	口径(復) 17.0cm 底径(復) 5.0cm 残存高 2.753.15cm	粗。灰色の砂粒、灰白色の小石粒を含む。	軟	(外) にぶい黄褐色 (10YR6/3) (内) にぶい黄褐色 (10YR5/3) (断) にぶい黄褐色 (10YR5/3)		河内産
107	道標	F10XL	暗渠内		残存長 35.3cm 残存幅 27.8cm 厚 10.0cm					
108	縄文土器	J11CV	側溝		残存長 3.7cm 残存厚 5.5cm	粗。2mm以下の白色の砂粒を含む。	軟	(外) 黒褐色 (5YR3/1) (内) 黒褐色 (5YR3/1) (断) 黒褐色 (5YR3/1)		
109	縄文土器	J11LW	IIIa層		残存長 3.4cm 残存厚 4.5cm	粗。2mm以下の灰白色の砂粒、3mmの白色の小石粒を含む。	軟	(外) 黒褐色 (7.5YR3/2) (内) 黒褐色 (7.5YR3/2) (断) 黒褐色 (7.5YR3/2)		
110	縄文土器	J11BW	IIIa層		残存長 3.5cm 残存幅 3.5cm 残存厚 0.6cm	1~2mm大の白色砂粒を多く含む。	硬	(外) オリーブ褐色 (2.5Y4/3) (内) 黄灰色 (2.5Y6/1) (断) 黄灰色 (2.5Y6/1)		
111	縄文土器	J11DW	IIIa層		残存長 2.4cm 残存幅 3.1cm 残存厚 0.4cm	1mm未満~1mm大の白色砂粒を多く含む。	硬	(外) 褐色 (10YR4/6) (内) にぶい褐色 (10YR5/3) (断) にぶい褐色 (10YR5/3)		
112	須恵器 蓋	J11IU	IIIa層	10%	口径(復) 14.3cm 残存高 3.2cm	1~2mm大の白色砂粒をわずかに含む。	硬	(外) 灰白色 (5Y7/1) (内) 灰白色 (7.5Y7/1) (断) 灰白色 (7.5Y8/1)		
113	須恵器 円面硯	J11IY	側溝	10%	残存高 4.5cm	2mm以下の白色の砂粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N4/0) (内) 灰色 (N4/0) (断) にぶい赤褐色 (2.5YR5/3)		ロクロ回転右
114	土師器 小皿	J12FA	IIIa層	80%	口径 9.0cm 器高 1.9cm	砂粒を含む。5mm前後の小礫を含む。	軟	(外) 褐色 (2.5Y3/6) (内) にぶい黄褐色 (10YR7/3) 部分的に褐色 (2.5YR6/6) (断) にぶい黄褐色 (10YR6/4)		摩擦のため調整不明
115	土師器 小皿	J11EW	IIIa層	75%	口径(復) 9.0cm 残存高 1.7cm	1mm以下の白色の砂粒を含む。密。	中	(外) 褐色 (5YR6/6) (内) にぶい褐色 (5YR6/3) (断) 明赤褐色 (5YR5/8)		
116	土師器 小皿	J12FA	IIIa層	90%	口径 8.9cm 器高 1.7cm	2mm以下の灰色の砂粒を含む。	中	(外) 褐色 (7.5YR7/6) (内) にぶい褐色 (7.5YR5/4) (断) 褐色		
117	土師質 皿	J11GY	IIIb層	50%	口径(復) 8.2cm 器高 1.5cm	1~2mm大の白色砂粒を多く含む。	硬	(外) にぶい黄褐色 (10YR7/4) (内) にぶい黄褐色 (10YR6/4) (断) にぶい黄褐色 (10YR7/3)		
118	製塩土器	J11IW	IIIb層	10%	口径(復) 13.0cm 残存高 3.8cm	1~3mm大の白色砂粒を多く含む。	硬	(外) にぶい褐色 (7.5YR7/4) (内) 灰白色 (N8/0) (断) 灰白色 (N8/0)		
119	須恵器 鉢	J11IV	IIIa層	5%	口径(復) 21.7cm 残存高 3.5cm	砂粒を含む。	硬	(外) 明青灰色 (5PB7/1) (内) 明青灰色 (5PB7/1) (断) 灰白色 (N7/1)		ロクロ回転 反時計方向
120	土師質 羽釜	J11GY	IIIb層	5%	口径(復) 18.2cm 残存高 5.1cm	砂粒をわずかに含む。	硬	(外) にぶい褐色 (7.5YR6/3) (内) にぶい褐色 (7.5YR7/4) (断) 灰白色 (7.5YR8/2)		
257	土師器 高杯	J11LV	16-OB 柱穴4	30%	口径(復) 26.2cm 残存高 3.9cm	やや粗。2mm以下の灰色の砂粒を含む。	中	(外) にぶい褐色 (5YR6/4) (内) にぶい褐色 (5YR6/3) (断) 赤褐色 (5YR4/6)		
258	須恵器 杯身	J11DV	17-OS	30%	口径(復) 15.2cm 器高 3.8cm 高台径(復) 11.0cm	密。1mm以下の灰白色の砂粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N6/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 灰色 (N5/0)		
259	須恵器 杯身	J11DV	17-OS	50%	口径(復) 15.6cm 器高 4.0cm 高台径(復) 11.4cm	やや粗。2mm以下の灰色の砂粒、3mmの白色の小石粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N5/0) (内) 灰色 (N5/0) (断) にぶい赤褐色 (5YR4/2) 灰色 (N6/0)		
260	須恵器 甕	J11DU	17-OS	5%	口径(復) 15.6cm 残存高 3.4cm	粗。2mm以下の灰色の砂粒、3mmの灰白色の小石粒を含む。	硬	(外) 灰赤色 (7.5R4/2) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰赤色 (7.5R4/2) 灰色 (N5/0)		自然釉 灰オリーブ (7.5Y4/2)

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法量 (cm) g	胎上	焼成	色調	手法	備考
261	須恵器 甕	J 11 D V	17-O S	10%	口径(復) 23.0cm 残存高 7.8cm	やや粗。2mm以下の灰 白色の砂粒、2~5mm の白色の小石粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N5/0) (内) 灰色 (N5/0) (断) 灰色 (N4/0)		
262	土師器 甕	J 11 D U	17-O S	20%	口径(復) 14.4cm 残存高 11.8cm	やや粗。灰色の砂粒、 白色の小石粒を含む。	中	(外) 灰褐色 (7.5Y R4/2) (内) にぶい褐色 (7.5Y R7/4) (断) 灰白色 (7.5Y R8/2)		
263	柱根	J 11 G V	22-O B 柱穴口2							
264	黒色土器B 碗	J 11 G W	23-O B 柱穴口3	30%	口径(復) 15.0cm 器高 6.1cm 高台径(復) 5.6cm	密。	硬	(外) 黒褐色 (7.5Y R3/1) (内) 黒色 (7.5Y R1.7/1) (断) にぶい褐色 (7.5Y R5/3)		
265	瓦器 碗	J 11 G X	23-O B 柱穴ニ3	40%	口径(復) 15.2cm 残存高 4.0cm	密。	中	(外) 灰色 (N4/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (N7/0)		
266	土師器 小皿	J 11 F W	23-O B 柱穴口4	70%	口径(復) 9.6cm 残存高 1.5cm	密。	中	(外) にぶい褐色 (7.5Y R7/4) (内) にぶい褐色 (7.5Y R7/4) (断) にぶい褐色 (7.5Y R7/4)		
267	土師器 小皿	J 11 H W	23-O B 柱穴ニ1	40%	口径(復) 7.4cm 残存高 1.85cm	密。1mm以下の灰色の 砂粒を含む。	中	(外) にぶい褐色 (5 Y R7/3) (内) にぶい褐色 (5 Y R7/3) (断) 灰白色 (5 Y R8/2)		
268	瓦器 碗	J 11 E X	24-O S	30%	口径(復) 14.2cm 器高 5.65cm 高台径(復) 5.6cm	密。1mm以下の灰色の 砂粒を含む。	中	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) にぶい黄褐色 (10Y R7/3)		
269	土師器 耳皿	J 11 E X	24-O S	90%	口径(復) 長 7.4cm 短 5.0cm 器高 2.0cm 高台径(復) 3.7cm	やや粗。灰白色の砂 粒、暗灰色の小石粒を 含む。	中	(外) 浅黄褐色 (10Y R8/3) 黒褐色 (10Y R3/1) (内) 黒褐色 (10Y R3/1) (断) にぶい黄褐色 (10Y R7/4)		
270	黒色土器B 碗	J 11 F X	25-O O	70%	口径 15.0cm 器高 6.0cm 高台径 6.4cm	やや粗。2mm以下の灰 色の砂粒を含む。	硬	(外) 黒色 (N2/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 黒褐色 (10Y R3/1)		
271	黒色土器B 碗	J 11 F X	25-O O	60%	口径 10.8cm 器高 4.05cm 高台径 4.7cm	やや密。2mm以下の灰 色の砂粒を含む。	中	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰色 (N6/0)		
272	土師器 小皿	J 11 F X	25-O O	80%	口径 18.8cm 器高 1.45cm	密。1mm以下の灰色の 砂粒を含む。	硬	(外) にぶい黄褐色 (10Y R7/4) (内) 灰白色 (10Y R8/2) (断) 灰白色 (10Y R8/2)		
273	瓦器 碗	J 11 H Y	27-O W	100%	口径 15.5cm 器高 5.9cm 高台径 1.2cm	密。	硬	(外) 黒色 (N2/0) (内) 黒色 (N2/0) (断) 灰白色 (7.5Y 8/1)		
274	瓦器 碗	J 11 H Y	27-O W	100%	口径 15.6cm 器高 6.05cm 高台径 6.55cm	密。	硬	(外) 黒色 (2.5Y 2/1) (内) 黒褐色 (2.5Y 3/1) (断) 灰白色 (2.5Y 8/2)		
275	瓦器 碗	J 11 H Y	27-O W	90%	口径 15.2cm 器高 5.5cm 高台径 6.2cm	密。	硬	(外) 黒色 (N2/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (7.5Y 8/1)		
276	瓦器 碗	J 11 H Y	27-O W	100%	口径 15.4cm 器高 6.1cm 高台径 5.8cm	密。	硬	(外) 黒色 (N2/0) (内) 黒色 (N2/0) (断) 灰白色 (10Y 8/1)		
277	瓦器 小皿	J 11 G Y	27-O W	80%	口径(復) 10.2cm 器高 2.7cm	やや密。1mm以下の砂 粒を含む。	中	(外) 黒色 (7.5Y R1.7/1) (内) 黒褐色 (7.5Y R3/1) (断) 褐色 (2.5Y R6/6)		
278	土師器 小皿	J 11 H Y	27-O W	95%	口径 9.2cm 器高 1.7cm	粗。灰色の砂粒、灰白 色の小石粒を含む。	中	(外) 褐色 (7.5Y R7/6) (内) 褐色 (7.5Y R7/6) (断) 褐色 (7.5Y R7/6)		
279	須恵器 杯身	J 11 H Y	27-O W	20%	口径(復) 15.8cm 器高 4.0cm 高台径(復) 10.8cm	密。1mm以下の灰色の 砂粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N6/0) (内) 灰色 (N6/0) (断) 明青灰色 (5 P B7/1)		
280	土師器 杯	J 11 H Y	27-O W	40%	口径(復) 17.2cm 残存高 3.3cm	やや密。灰白色の砂 粒、小石粒を含む。	中	(外) にぶい黄褐色 (10Y R7/3) (内) にぶい黄褐色 (10Y R7/3) (断) にぶい黄褐色 (10Y R7/3)		
281	棺材	J 11 F Y	28-O G		残存長 109.4cm 残存幅 24.8cm 厚 3.5cm					
282	棺材	J 11 F Y	28-O G		残存長 110.5cm 残存幅 36.8cm 厚 3.5cm					
283	瓦器 小皿	J 11 F Y	28-O G	98%	口径 8.4cm 器高 1.75cm	やや粗。白色の砂粒、 灰色の小石粒を含む。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 灰色 (N4/0) (断) にぶい黄褐色 (10Y R7/3)		

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法量 〔cm〕 g	胎土	焼成	色調	手法	備考
284	瓦器 小皿	J 11 F Y	28-O G	98%	口径 8.8cm 器高 1.55cm	粗。白色の砂粒、灰色の砂粒を含む。	中	(外) にぶい橙色 (5 Y R 7/4) (内) にぶい橙色 (5 Y R 7/4) (断) 淡橙色 (5 Y R 8/4)		
285	瓦器 小皿	J 11 F Y	28-O G	98%	口径(復) 8.4cm 器高 1.85cm	やや粗。2mm以下の灰白色の砂粒を含む。	中	(外) 灰色 (N 6/0) (内) 淡赤橙色 (2.5 Y R 7/4) (断) 淡赤橙色 (2.5 Y R 7/4)		
286	土師器 小皿	J 11 F Y	28-O G	90%	口径 8.6cm 器高 1.55cm	やや粗。2mm以下の白色の砂粒を含む。	中	(外) にぶい橙色 (5 Y R 7/4) (内) 灰褐色 (5 Y R 5/2) (断) 褐色 (5 Y R 5/1)		
287	土師器 皿	J 11 F Y	28-O G	100%	口径 13.0cm 器高 2.2cm	やや密。2mm以下の灰色の砂粒を含む。	中	(外) にぶい橙色 (2.5 Y R 6/4) (内) にぶい橙色 (2.5 Y R 6/4)		
288	古銭	J 11 F Y	28-O G	100%	重量 2.62g					開元通寶
289	須恵器 杯身	J 16 I F	Ⅲ 層	10%以下	口径(復) 11.0cm 残存高 3.6cm	やや密。1mm以下の灰色の砂粒を含む。	硬	(外) 灰色 (N 5/0) (内) 灰色 (N 6/0) (断) 灰色 (N 5/0)		
290	須恵器 杯	J 16 F F	Ⅲ b 層	10%	口径(復) 17.1cm 器高 5.9cm	1mm以下の灰色砂粒をわずかに含む。	硬	(外) 灰色 (N 6/0) (内) 灰色 (N 6/0) (断) 灰褐色 (5 Y R 5/2)	ロクロ回転 時計回り	
291	灰釉陶器 壺	J 11 U N	Ⅲ a 層	10%	高台径(復) 10.0cm 残存高 2.6cm	砂粒は含まず。	硬	(釉) 明緑灰色 (7.5 G Y 7/1) (露胎) 灰白色 (N 8/0) (内) 明緑灰色 (10 G Y 7/1)	ロクロ回転 時計回り	
292	青白磁 梅瓶	J 16 B F	Ⅲ a 層	10%以下	口径(復) 4.4cm 残存高 2.9cm	密。	硬	(釉) 灰白色 (10 Y 7/2) (露胎) 灰白色 (N 7/0) (内) 灰白色 (10 Y 8/1)		
293	青磁 碗	J 11 T O	Ⅲ b 層	20%	高台径 5.4cm 高台高 0.7cm 残存高 2.25cm	密。	硬	(釉) 灰オリーブ色 (5 Y 5/3) (露胎) 灰褐色 (7.5 Y R 5/2) (内) 灰白色 (5 Y 7/1)		
294	青磁 碗	J 11 W K	Ⅲ b 層	25%	高台径 5.4cm 高台高 1.1cm 残存高 2.5cm	やや密。1.5mm以下の灰白色の砂粒を含む。	硬	(釉) オリーブ灰色 (10 Y 5/2) (露胎) 灰白色 (10 Y 7/1) (内) 灰白色 (N 8/0)		
295	瓦質 羽釜	J 16 B K	Ⅲ b 層	10%以下	口径(復) 17.0cm 残存高 2.5cm	密。1mm以下の灰色の砂粒を含む。	中	(外) 黒褐色 (10 Y R 3/1) (内) 黒褐色 (10 Y R 3/1) (断) 灰白色 (10 Y R 7/1)		
296	土師質 甕	J 11 X M	Ⅲ b 層	10%	口径(復) 25.6cm 残存高 3.9cm	1～2mm大の褐色、黒色砂粒を多く含む。	硬	(外) にぶい褐色 (7.5 Y R 5/3) (内) 灰褐色 (7.5 Y R 5/2) (断) にぶい橙色 (7.5 Y R 7/3)		紀伊型
297	須恵質 鉢	J 11 U L	Ⅲ b 層	10%	口径(復) 30.4cm 残存高 6.4cm	石粒をわずかに含み、黒色、白色砂粒を少し含む。	硬	(外) 明青灰色 (5 P B 7/1) (内) 明青灰色 (5 P B 7/1) (断) 灰白色 (N 7/0)		
298	木製品 下駄	J 16 D K	Ⅲ a 層							
299	鉄鎌	J 16 E I	Ⅱ 層	90%	全長 8.58cm 幅 2.46cm 重量 20.22g					
300	機関銃弾丸	J 11 O S	Ⅲ a 層	100%	最大長 5.85cm 最大幅 1.3cm 重量 41.89g					
301	古銭	J 16 C H	Ⅲ b 層	100%	重量 2.69g					天型元寶
302	古銭	J 11 X K	Ⅱ 層	100%	重量 3.27g					洪武通寶
303	古銭	J 11 W I	Ⅲ a 層	100%	重量 2.63g					祥符通寶
313	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	100%	口径 14.8cm 器高 4.9cm	密。	硬	(外) 黒褐色 (5 Y R 2/1) (内) 黒色 (5 Y R 7/1) (断) 灰色 (N 6/0)		
314	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	80%	口径 15.2cm 器高 4.75cm	密。	硬	(外) 黒色 (5 Y 2/1) (内) オリーブ黒色 (5 Y 3/1) (断) 灰色 (5 Y 6/1)		
315	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	95%	口径 15.2cm 器高 4.8cm	密。	中	(外) 暗オリーブ灰色 (2.5 G Y 4/1) (内) 暗灰色 (N 3/0) (断) 灰白色 (N 8/0)		
316	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	90%	口径 14.8cm 器高 4.6cm	密。	硬	(外) 暗灰色 (N 3/0) (内) 暗灰色 (N 3/0) (断) 灰白色 (N 7/0)		

No	種類	出土地点	層位遺構	残存率	法量 ($\left[\begin{array}{l} \text{cm} \\ \text{g} \end{array} \right]$)	胎土	焼成	色調	手法	備考
317	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	20%	口径 15.4cm 器高 4.7cm 高台径 5.0cm	密。2mm以下の灰色の砂粒を含む。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (7.5Y8/1)		
318	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	30%	口径(復) 15.2cm 残存高 4.7cm	やや密。2mm以下の灰色の砂粒を含む。	中	(外) 灰色 (7.5Y4/1) (内) 灰色 (7.5Y4/1) (断) 灰白色 (N8/0)		
319	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	30%	口径(復) 15.8cm 器高 5.25cm 高台径(復) 4.3cm	密。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (2.5Y7/1)		
320	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	100%	口径 15.3cm 器高 5.1cm 高台径 3.6cm	密。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 黒褐色 (2.5Y3/1) (断) 灰白色 (10Y7/1)		
321	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	95%	口径 15.2cm 器高 4.9cm 高台径 3.2cm	密。2mm以下の灰色の砂粒を含む。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 灰色 (N4/0) (断) 灰白色 (7.5Y8/1)		
322	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	95%	口径 14.6×13.3cm 器高 4.6cm 高台径 4.3cm	密。砂粒を含まない。	中	(外) 灰色 (N5/0) (内) 灰色 (N5/0) (断) 灰白色 (7.5Y8/1)		
323	瓦器 椀	J 11 P R	45-O W	50%	口径 15.4cm 器高 4.55cm 高台径 5.8cm	密。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (10Y8/1)		
324	瓦器 小皿	J 11 P R	45-O W	100%	口径 8.3cm 器高 1.7cm	密。	硬	(外) 暗灰色 (N3/0) (内) 暗灰色 (N3/0) (断) 灰白色 (10Y8/1)		
325	瓦器 小皿	J 11 P R	45-O W	100%	口径 8.6cm 器高 1.5cm	やや密。白色の砂粒、暗灰色の小石粒を含む。	硬	(外) にぶい黄褐色 (10Y R7/3) (内) 灰色 (N5/0) (断) 灰色 (N6/0)		
326	瓦器 小皿	J 11 P R	45-O W	70%	口径(復) 8.3cm 器高 1.5cm	粗。2.5mm以下の灰色砂粒を含む。	中	(外) 暗赤灰色 (2.5Y R3/1) (内) にぶい黄褐色 (2.5Y R6/4) (断) 灰褐色 (5 Y R4/2)		
327	土師器 小皿	J 11 P R	45-O W	100%	口径 9.0cm 器高 1.6cm	密。1mm大の黒色、褐色粒をわずかに含む。	中	(外) 灰白色 (2.5Y8/1) (内) 灰白色 (2.5Y8/1) (断) 灰白色 (2.5Y8/1)		
328	土師器 小皿	J 11 P R	45-O W	100%	口径 8.3×8.6cm 器高 1.7cm	粗。1mmの砂粒を多く含む。	中	(外) 灰白色 (2.5Y7/1) (内) 灰白色 (5 Y8/1) (断) 灰白色 (2.5Y7/1)		
329	土師器 小皿	J 11 P R	45-O W	40%	口径(復) 8.4cm 器高 1.35cm	密。1mm以下の灰色砂粒を含む。	中	(外) 灰白色 (2.5Y8/2) (内) 灰白色 (2.5Y8/2) (断) 灰白色 (2.5Y8/2)		
330	土師器 小皿	J 11 P R	45-O W	40%	口径(復) 8.4cm 器高 1.35cm	密。	硬	(外) 灰白色 (2.5Y7/1) (内) 灰白色 (2.5Y7/1) (断) にぶい黄褐色 (10Y R7/3)		
331	土師器 皿	J 11 P R	45-O W	17%	口径(復) 15.6cm 器高 2.7cm	粗。砂粒を多く含む。(最大径4mm)	中	(外) にぶい黄褐色 (10Y R7/3) (内) にぶい黄褐色 (10Y R7/3) (断) にぶい褐色 (7.5 Y R6/4)		
332	土師器 皿	J 11 P R	45-O W	30%	口径(復) 13.6cm 器高 2.5cm	密。1mm以下の暗灰色の砂粒を含む。	中	(外) 褐褐色 (7.5 Y R6/1) (内) 明褐褐色 (7.5 Y R7/2) (断) にぶい褐色 (7.5 Y R7/3)		
333	土師質 羽釜	J 11 P R	45-O W	10%以下	口径(復) 30.0cm	粗。灰色の砂粒、暗灰色の小石粒を含む。	中	(外) 灰褐色 (7.5 Y R4/2) (内) 灰褐色 (7.5 Y R4/2) (断) にぶい褐色 (7.5 Y R5/3)		
334	土師質 羽釜	J 11 P R	45-O W	10%以下	口径(復) 28.4cm 残存高 6.15cm	粗。灰色の砂粒、暗灰色の小石粒を含む。	中	(外) 黒褐色 (7.5 Y R3/1) (内) 黒褐色 (7.5 Y R3/1) (断) にぶい褐色 (2.5 Y R6/4)		
335	木製品 不明	J 11 P R	45-O W							
336	曲物容器 底板	J 11 P R	45-O W		底径(復) 10.9cm クギ穴径 0.2cm					両面漆塗り
337	曲物容器 底板	J 11 P R	45-O W		底径(長) 13.1cm 底径(短) 11.95cm 厚さ 0.45cm					片面漆塗り
338	曲物井筒	J 11 P R	45-O W							
339	曲物井筒	J 11 P R	45-O W							
340	井筒固定材	J 11 P R	45-O W							

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法 量 〔 $\begin{matrix} \text{cm} \\ \text{g} \end{matrix}$ 〕	胎 土	焼成	色 調	手 法	備 考
341	縄文土器	J 11 B W	Ⅲ a 層		残存長 3.1cm 残存幅 3.5cm 厚 0.4cm	1mm大の白、黒色の砂粒をわずかに含む。	硬	(外) 黒色 (7.5Y R2/1) (内) 褐色 (7.5Y R4/3) (断) 黒褐色 (7.5Y R3/2)		
342	瓦 器 小 皿	J 02 W W	Ⅲ 層	25%	口径(復) 10.4cm 残存高 2.35cm	1mm以下の灰白色砂粒を多く含む。	軟	(外) 灰白色 (5 Y8/1) (内) 灰白色 (7.5Y8/1) (断) 灰白色 (7.5Y8/1)		
343	土 師 器 皿	J 11 G Y	Ⅲ b 層	50%	口径(復) 8.2cm 器高 1.5cm	1~2mm大の白色砂粒を多く含む。	硬	(外) にぶい黄褐色 (10Y R7/4) (内) にぶい黄褐色 (10Y R6/4) (断) にぶい黄褐色 (10Y R7/3)		
344	平 瓦	F 15 P F	側溝			1mm大の白、黒色の砂粒をわずかに含む。			1枚作り	
345	火 縄 銃 弾 丸	J 03 C L	Ⅲ 層	100%	径 1.15cm 重量 8.80g					
346	火 縄 銃 弾 丸	J 11 I R	I 層	100%	径 1.05cm 重量 5.61g					
347	火 縄 銃 弾 丸	J 11 W B	I 層	100%	径 1.1cm 重量 6.24g					
348	古 銭	J 03 D L	Ⅲ 層	100%	重量 1.98g					元豊通寶
349	古 銭	J 07 U C		100%	重量 2.48g					□□通寶
350	古 銭	J 02 N Y	Ⅲ 層	100%	重量 3.10g					洪武通寶
351	古 銭	J 11 U O	Ⅱ 層	100%	重量 2.82g					皇宋通寶
352	古 銭			100%	重量 2.82g					?
353	古 銭			100%	重量 1.93g					熙寧元寶
354	古 銭	J 16 C J	Ⅲ b 層	100%	重量 2.50g					淳化元寶
355	古 銭	F 10 V O	Ⅲ 層	100%	重量 2.57g					嘉祐元寶?
356	古 銭	F 10 P S	Ⅱ 層	100%	重量 2.29g					寛永通寶
357	棺 材	J 11 F Y	28-OG							
358	棺 材	J 11 F Y	28-OG							
359	棺 材	J 11 F Y	28-OG							
360	井 筒 固 定 材	J 11 P R	45-OW							
361	井 筒 固 定 材	J 11 P R	45-OW							
362	井 筒 固 定 材	J 11 P R	45-OW							
363	井 筒 固 定 材	J 11 P R	45-OW							
364	井 筒 固 定 材	J 11 P R	45-OW							

No	種類	出土地点	層位 遺構	残存率	法量 ($\begin{matrix} \text{cm} \\ \text{g} \end{matrix}$)	胎土	焼成	色調	手法	備考
365	井筒 固定材	J 11 P R	45-OW							
366	井筒 固定材	J 11 P R	45-OW							

第8表 A～E区ナイフ形石器・石錐・尖頭器計測表

番号	器種	地区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	番号	器種	地区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
48	ナイフ形石器	F19BV	Ⅲ層	6.19	1.62	0.94	9.22	62	尖頭器	J03FI	Ⅲ層	(3.15)	(2.05)	0.88	4.62
56	石錐	J02TX	Ⅲ層	7.01	2.87	1.45	26.34	63	"	C22NA	Ⅱ層	(4.38)	(2.07)	0.91	8.38
57	"	G06DE	Ⅱ層	4.17	2.05	1.10	7.96	64	"	B区	側溝	(3.27)	2.53	0.52	4.84
58	尖頭器	G01RL	Ⅲ層	(2.99)	2.43	0.62	5.19	65	"	J03OF	側溝	5.48	2.32	0.80	7.22
59	"	J02QY	Ⅲc層	(4.02)	(1.92)	0.60	5.43	66	"	J03LA	Ⅲ層	(4.61)	(2.64)	0.99	15.34
60	"	F19KL	Ⅲb層	(3.10)	(0.95)	0.65	2.26	67	"	F19JN	Ⅱ層	(4.57)	(3.10)	1.17	16.97
61	"	F24DA	Ⅱ層	(4.32)	(2.15)	0.63	6.41	68	"	J07UC	Ⅲ層	(7.92)	2.89	1.25	29.63

第9表 F区石錐・異形石器・二次加工剥片計測表

番号	器種	地区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	番号	器種	地区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
192	石錐	J07XD	Ⅰ層	(3.65)	1.30	0.62	2.68	243	石錐	J07XE	遺構	(1.84)	(1.13)	(0.36)	0.70
193	"	J11CX	Ⅰ層	(2.79)	2.11	0.76	4.42	198	異形石器	J11AX	Ⅰ層	1.62	1.12	0.37	0.70
194	"	J11DW	Ⅰ層	(3.02)	1.68	0.65	3.65	199	"	J11EV	Ⅰ層	2.65	1.32	0.39	1.46
195	"	J07WE	Ⅰ層	2.51	0.52	0.24	0.45	200	"	J11HS	Ⅰ層	(1.24)	1.26	0.47	0.73
196	"	J11AY	Ⅰ層	3.02	0.73	0.46	1.20	201	"	J11AX	Ⅰ層	(1.17)	1.17	0.44	0.57
197	"	J11HT	Ⅰ層	2.19	(1.40)	0.25	0.74	202	"	J11DY	Ⅰ層	2.80	1.12	0.32	0.97
448	"	J11FT	Ⅰ層	(2.03)	1.32	0.56	1.34	203	"	J11IR	Ⅰ層	(2.26)	1.52	0.44	1.38
449	"	J11DY	Ⅰ層	(1.57)	(1.66)	0.40	1.06	204	"	J11DW	Ⅰ層	2.38	1.45	0.62	1.95
450	"	J07DV	Ⅰ層	(2.64)	(0.98)	(0.69)	1.83	212	二次加工剥片	J07WE	Ⅰ層	1.92	1.44	0.30	1.05
241	"	J12EB	Ⅲa層	(3.29)	2.26	0.74	4.36	213	"	J11DX	Ⅰ層	2.02	1.21	0.51	1.40
242	"	J11BW	側溝	(2.37)	2.07	0.62	2.28								

第10表 楔形石器計測表

番号	地区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	素材	番号	地区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	素材
220	J06XX	Ⅰ層	3.17	2.78	1.05	11.14	剥片	224	J11EB	Ⅲa層	3.23	2.20	1.08	7.88	剥片
221	J07VC	Ⅰ層	2.31	3.08	1.01	9.85	剥片	225	J12DB	Ⅲa層	2.93	3.22	0.97	10.87	剥片
222	J11DV	Ⅰ7-OS	2.32	2.95	1.10	8.75	剥片	226	J12BB	表採	2.60	2.28	0.92	5.99	剥片
223	J11EA	Ⅲa層	3.97	2.81	1.04	11.46	剥片	227	J11GU	Ⅱ層	3.83	2.57	0.87	9.66	剥片

第11表 A～E・G区石鏃計測表

番号	地区	層位	分類	長(cm)	缺入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質	番号	地区	層位	分類	長(cm)	缺入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質
49	J07TI	Ⅲ層	Ⅳ	(2.42)	—	0.90	0.52	1.16	ササカイト	54	J07PE	Ⅲ層	Ⅱ	3.76	—	3.02	0.88	10.41	ササカイト
50	F14XY	遺構	Ic	2.04	0.15	1.55	0.31	0.83	"	55	G01OJ	Ⅲb層	"	3.01	—	2.47	0.75	5.01	"
51	J07SC	Ⅲ層	"	2.13	0.47	1.32	0.64	1.14	"	304	J16KE	Ⅲa層	Ⅳ	(2.73)	—	1.27	0.37	1.41	"
52	F23XN	Ⅲa層	Ib	1.51	0.32	(1.52)	0.31	0.49	"	305	J16LB	Ⅱ層	Ⅱ	2.58	—	1.60	0.33	1.01	"
53	G06AI	Ⅱ層	Ia	3.07	0.22	2.13	0.45	2.16	"										

第12表 F区Ⅱ・Ⅲ層石鏃計測表

番号	地区	層位	分類	長(cm)	缺入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質	番号	地区	層位	分類	長(cm)	缺入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質
228	J12AE	Ⅱ層	Ib	4.06	0.73	2.05	0.44	4.25	ササカイト	235	J11DU	Ⅰ7-OS	Ⅳ	3.22	—	1.10	0.56	1.85	ササカイト
229	J11BW	Ⅱ層	Ⅲ	3.85	—	(1.68)	0.79	6.19	"	236	J12DB	Ⅲa層	Ic	2.57	0.46	1.67	0.52	2.21	チャート
230	J12CB	Ⅱ層	Ⅱ	1.92	—	1.95	0.41	1.30	"	237	J11CV	Ⅲa層	Ⅱ	3.70	—	2.92	1.36	12.38	ササカイト
231	J11EB	Ⅲa層	"	1.94	—	1.91	0.35	1.24	"	238	J11IT	Ⅱ層	"	2.68	—	2.43	0.65	4.93	"
232	J11DU	Ⅰ7-OS	"	2.09	—	1.87	0.44	1.65	"	239	J11DV	Ⅰ7-OS	"	3.18	—	2.39	0.73	6.01	"
233	J11FY	遺構	Ⅳ	(2.14)	—	0.75	0.31	0.47	"	240	J11GU	Ⅲa層	Ⅲ	3.38	—	2.43	0.87	6.52	"
234	J11EU	Ⅲa層	"	3.45	—	1.21	0.56	2.29	"										

第13表 F区I層石鏝計測表(1)

番号	地区	分類	長(cm)	挟入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質	番号	地区	分類	長(cm)	挟入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質
121	J11DW	I a	1.91	0.08	2.08	0.54	2.11	サヌカイト	162	J07YB	II	1.40	-	1.38	0.35	0.72	サヌカイト
122	J12BA	"	1.83	0.11	1.83	0.53	1.57	"	163	J11AX	"	1.51	-	1.36	0.29	0.63	"
123	J12CA	"	(1.60)	0.08	1.71	0.27	0.71	"	164	J12AA	"	1.98	-	1.59	0.35	0.96	"
124	J07YC	"	1.95	0.25	1.61	0.34	0.92	"	165	J11DX	"	1.79	-	1.40	0.26	0.61	"
125	J11DY	"	2.15	0.19	1.70	0.25	0.71	"	166	J11EW	"	2.04	-	1.78	0.35	1.01	"
126	J07WC	"	2.10	0.27	2.26	0.46	1.36	"	167	J11CY	"	1.56	-	1.27	0.24	0.46	"
127	J11JU	"	2.53	0.18	(2.04)	0.27	1.40	"	168	J07XA	"	1.97	-	1.08	0.32	0.68	"
128	J06XY	"	2.55	0.15	1.62	0.67	2.11	"	169	J11EW	III	1.90	-	1.46	0.35	0.79	"
129	J07YA	"	1.93	0.15	1.01	0.23	0.49	"	170	J07WA	"	2.22	-	1.55	0.56	1.50	"
130	J07XC	"	1.61	0.17	1.14	0.24	0.40	"	171	試掘	"	2.14	-	1.76	0.30	1.16	"
131	J11HT	"	1.40	0.08	1.19	0.25	0.39	"	172	J11BW	"	2.14	-	1.05	0.25	0.55	"
132	J11BX	"	1.54	0.04	1.15	0.16	0.37	"	173	J12AC	"	1.77	-	1.03	0.32	0.54	"
133	J07YY	"	1.20	0.09	1.01	0.19	0.32	"	174	J12CA	"	1.34	-	0.90	0.27	0.35	"
134	J11KT	I b	(2.23)	0.68	(1.64)	0.33	0.87	"	175	J11DY	"	1.52	-	0.99	0.19	0.30	"
135	J07WF	"	1.74	0.38	1.54	0.32	0.54	"	176	J11AY	IV	3.67	-	1.32	0.62	2.91	"
136	J07WD	"	(1.67)	0.72	1.61	0.23	0.42	"	177	J07XC	"	(3.58)	-	1.26	0.67	3.04	"
137	J07VC	"	2.09	0.29	1.30	0.29	0.70	"	178	J11AW	"	3.24	-	1.04	0.67	2.04	"
138	J11DY	"	1.44	0.58	1.59	0.23	0.40	"	179	J11EW	"	2.20	-	0.93	0.28	0.57	"
139	J07YB	"	1.30	0.23	1.29	0.20	0.31	"	180	J12BC	"	2.33	-	0.83	0.44	0.82	"
140	J11DU	"	1.10	0.26	1.09	0.17	0.19	"	181	J11DW	"	1.85	-	0.74	0.31	0.50	"
141	J11CY	"	0.89	0.28	0.94	0.17	0.10	"	182	J12AA	"	1.97	-	0.82	0.23	0.37	"
142	J07WE	"	1.37	0.33	1.23	0.31	0.41	"	183	J07XA	"	2.19	-	0.73	0.25	0.45	"
143	J07YB	"	1.27	0.29	1.27	0.30	0.32	"	184	J07XC	"	2.18	-	0.69	0.31	0.47	"
144	J11CV	"	1.26	0.34	1.17	0.18	0.19	"	185	J12AA	"	4.25	-	1.44	0.44	2.98	"
145	J07YY	"	0.76	0.16	0.67	0.16	0.07	"	186	J11AW	I b	0.71	0.16	0.92	0.20	0.10	チャート
146	J11EW	I c	(2.36)	0.66	(1.38)	0.34	0.78	"	187	J11BY	I a	1.39	0.10	1.00	0.22	0.27	"
147	J11HS	"	1.78	0.56	(1.25)	0.33	0.43	"	188	J07XC	II	1.42	-	1.65	0.23	0.55	"
148	J12AE	"	(1.18)	0.25	0.96	0.19	0.21	"	189	J07WB	"	(1.23)	-	(1.89)	0.39	1.07	"
149	J06XX	"	2.03	0.75	1.42	0.28	0.94	"	190	J11DW	I b	1.29	0.11	1.13	0.27	0.36	"
150	J11HS	"	1.79	0.46	(1.63)	0.39	0.93	"	191	J11JT	III	2.10	-	1.55	0.36	1.21	"
151	J07YA	"	1.30	0.42	1.14	0.29	0.40	"	205	J11CX	II	3.10	-	2.66	0.84	7.42	サヌカイト
152	J11AW	"	1.41	0.43	1.50	0.25	0.40	"	206	J07XC	"	2.33	-	1.87	0.82	2.99	"
153	J07WC	"	1.40	0.58	1.92	0.27	0.50	"	207	J11AY	"	2.54	-	2.05	0.67	3.06	"
154	J07WD	"	0.98	0.20	1.29	0.29	0.26	"	208	J07WD	"	2.70	-	2.23	0.88	4.24	"
155	J07WC	"	2.13	0.15	1.88	0.34	1.28	"	209	J11AY	"	2.63	-	2.48	0.47	3.02	"
156	J07XD	"	1.44	0.23	1.46	0.24	0.48	"	210	J11FV	"	2.20	0.15	2.01	0.63	2.64	"
157	J11CX	"	2.38	0.44	(1.96)	0.53	2.02	"	211	J11BY	"	(3.18)	-	2.77	0.53	4.60	"
158	J11CW	II	2.40	-	2.40	1.55	2.57	"	367	J11BW	I a	2.00	0.29	(1.98)	0.40	1.42	"
159	J11BY	"	1.98	-	1.99	0.36	1.34	"	368	J11HS	"	1.62	0.29	2.03	0.22	0.79	"
160	J11AW	"	2.12	-	1.72	0.38	1.12	"	369	J11CV	"	2.36	0.08	1.60	0.42	1.43	"
161	J11DX	"	1.70	-	1.59	0.45	0.95	"	370	J11KU	"	1.75	0.14	1.27	0.24	0.64	"

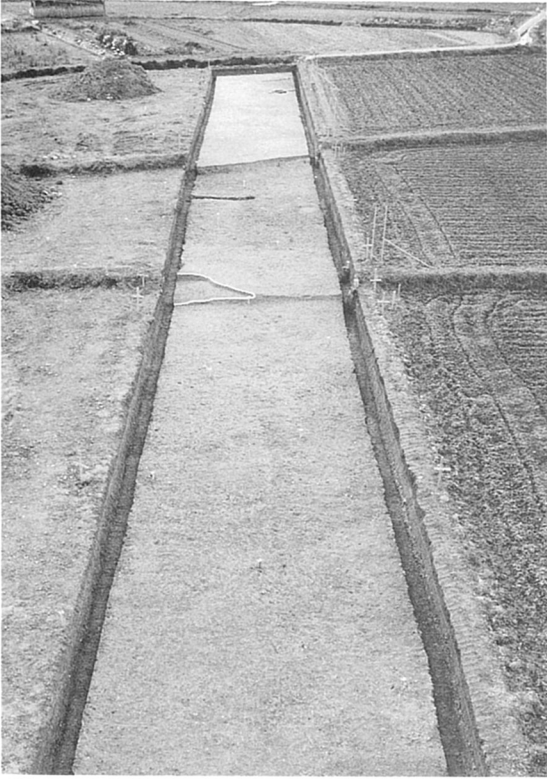
第14表 F区I層石鑛計測表(2)

番号	地区	分類	長(cm)	挟入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質	番号	地区	分類	長(cm)	挟入(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	材質
371	J12CA	I a	1.60	0.09	1.26	0.26	0.57	サヌカイト	412	J07WD	II	1.86	—	1.58	0.34	0.93	サヌカイト
372	J11HS	"	1.63	0.26	1.24	0.37	0.77	"	413	J11DU	"	(1.90)	—	(1.64)	0.24	0.78	"
373	J07XD	"	1.40	0.09	1.30	0.32	0.54	"	414	J07YB	"	1.97	—	1.67	0.25	0.77	"
374	J07XC	"	(1.80)	0.10	1.81	0.29	0.95	"	415	J11DX	"	1.70	—	1.59	0.45	0.95	"
375	J11DW	"	2.24	0.23	1.67	0.44	1.13	"	416	J11DW	"	2.16	—	1.76	0.32	0.96	"
376	J11BW	"	(1.22)	0.20	1.68	0.25	0.44	"	417	J06YY	"	1.57	—	1.43	0.34	0.69	"
377	J11DY	"	(1.54)	0.26	1.76	0.24	0.59	"	418	J11CW	"	(1.55)	—	(1.43)	0.25	0.56	"
378	J11EW	"	1.69	0.16	1.53	0.28	0.69	"	419	J11AW	"	(1.62)	—	(1.37)	0.35	0.75	"
379	J11BW	"	1.57	0.10	1.59	0.39	0.67	"	420	J11GW	"	1.67	—	1.35	0.32	0.59	"
380	J11DW	"	1.76	0.25	1.48	0.35	0.77	"	421	J07WD	"	(1.72)	—	1.87	0.33	1.00	"
381	J11BW	"	1.34	0.18	1.11	0.23	0.31	"	422	J07XC	"	1.28	—	1.00	0.24	0.29	"
382	J12DB	"	1.60	0.34	1.26	0.29	0.48	"	423	J07YB	III	1.82	—	1.31	0.23	0.49	"
383	J11FT	"	1.41	0.18	1.26	0.29	0.48	"	424	J11BY	"	2.13	—	1.69	0.33	1.01	"
384	J11EW	"	(1.18)	0.19	1.55	0.24	0.50	"	425	J06YX	"	2.27	—	1.75	0.38	1.51	"
385	J07YA	"	1.69	0.25	1.14	0.30	0.43	"	426	J11FU	"	1.70	—	1.24	0.35	0.73	"
386	J11CV	I b	1.67	0.64	1.80	0.26	0.56	"	427	J11DY	"	1.98	—	1.39	0.43	1.28	"
387	J07YB	"	(1.32)	0.47	(1.34)	0.21	0.24	"	428	J11DY	"	2.30	—	1.38	0.41	1.17	"
388	J11DW	"	1.32	0.29	1.55	0.27	0.45	"	429	J11AW	"	2.12	—	1.74	0.25	0.97	"
389	J11CX	"	(1.46)	0.42	1.17	0.22	0.32	"	430	J11AW	"	1.75	—	1.36	0.30	0.70	"
390	J07WA	"	1.34	0.19	1.14	0.22	0.35	"	431	J11CW	"	1.92	—	1.23	0.23	0.51	"
391	J12CD	"	1.28	0.48	1.26	0.19	0.22	"	432	J07XD	I	(1.38)	—	1.00	0.18	0.26	"
392	J12CA	"	1.59	0.29	1.55	0.27	0.55	"	433	J07YA	IV	3.13	—	0.94	0.69	1.60	"
393	J11CV	"	(1.51)	0.55	(1.10)	0.28	0.38	"	434	J06XY	"	(2.75)	—	1.02	0.41	1.40	"
394	J11HS	"	1.35	0.28	1.36	0.27	0.37	"	435	J06XY	"	2.95	—	1.00	0.54	1.27	"
395	J07YA	"	1.17	0.29	1.08	0.18	0.21	"	436	J12BB	"	3.17	—	1.03	0.62	1.88	"
396	J11HS	"	(1.20)	0.52	1.02	0.19	0.20	"	437	J07XC	"	3.14	—	0.84	0.45	1.26	"
397	J11DX	"	(1.25)	0.58	(1.07)	0.19	0.17	"	438	J06YY	"	2.55	—	0.93	0.48	1.20	"
398	J07XC	"	(1.36)	0.64	0.90	0.20	0.17	"	439	J06YX	"	(2.32)	—	0.98	0.44	1.21	"
399	J11BW	"	(2.18)	0.56	(1.53)	0.31	0.62	"	440	J07WA	"	2.71	—	0.88	0.29	0.80	"
400	J12AA	"	(2.30)	0.57	(1.38)	0.30	0.63	"	441	J11JR	"	2.85	—	1.07	0.49	1.64	"
401	J07VC	"	1.81	0.46	1.51	0.28	0.54	"	442	J12AA	"	2.07	—	0.69	0.20	0.40	"
402	J11CW	"	(1.66)	0.71	(1.33)	0.16	0.22	"	443	J06XX	"	2.50	—	0.63	0.35	0.55	"
403	J11DX	"	(1.64)	0.52	1.27	0.24	0.34	"	444	J11HS	"	2.31	—	0.85	0.34	0.64	"
404	J11CV	"	1.88	0.33	1.37	0.32	0.47	"	445	J11GT	"	2.38	—	0.79	0.43	0.77	"
405	J11CV	I a	(1.78)	0.29	1.71	0.28	0.84	"	446	J11DY	"	2.57	—	0.77	0.36	0.78	"
406	J11DX	"	(2.15)	0.44	1.56	0.29	0.85	"	447	J11EU	"	2.07	—	0.89	0.30	0.59	"
407	J12BB	II	2.30	—	1.82	0.52	1.84	"	451	J11CW	III	2.73	—	2.55	0.80	4.28	"
408	J12BB	"	2.38	—	1.94	0.38	1.57	"	452	J11DW	"	2.66	—	1.94	0.56	2.86	"
409	J11FU	"	2.03	—	1.69	0.46	1.60	"	453	J11BW	II	(1.92)	—	2.32	0.40	2.42	"
410	J12BB	"	2.18	—	1.75	0.42	1.37	"	454	J07WB	"	2.02	—	1.81	0.59	2.54	"
411	J07VA	"	1.98	—	1.73	0.32	1.00	"									

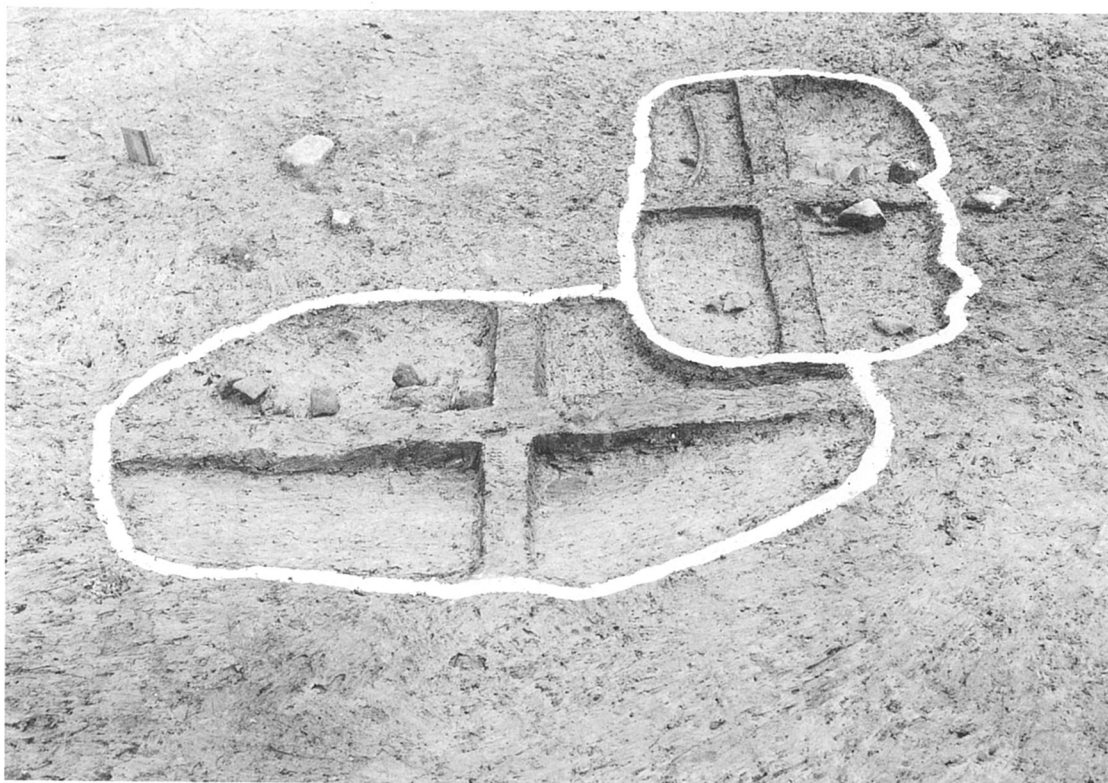
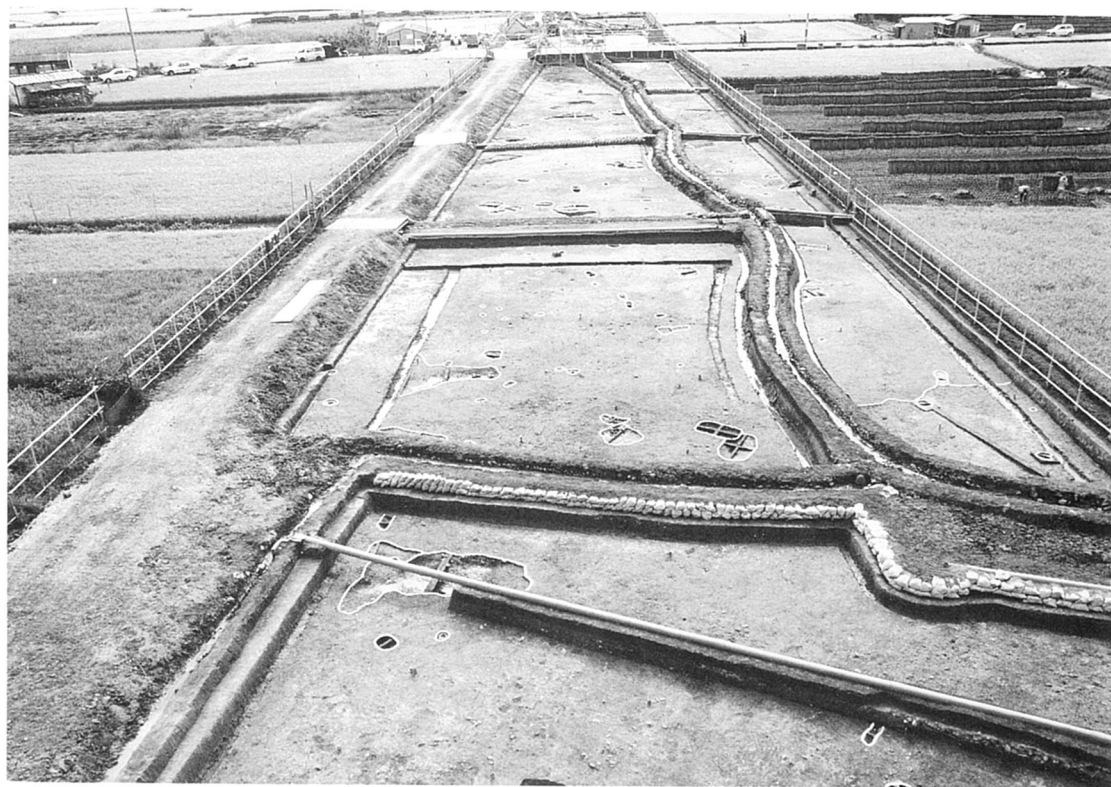
第15表 刃器観察表

番号	地 区	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	剥片形状	腹面調整	刃部調整	刃部位置	原 礫 面
69	C22MA	側溝	8.11	5.19	1.73	55.06	斜 軸	なし	両 面	右辺縁	左辺縁
70	C02QX	側溝	5.94	3.21	0.86	13.97	縦 長	あり	両 面	左辺縁	右辺縁
71	C22LB	Ⅲ層	5.22	3.16	1.11	22.13	縦 長	あり	両 面	右辺縁	なし
72	G06BB	Ⅲa層	5.48	2.83	1.05	24.03	斜 軸	なし	両 面	右辺縁	左辺縁・末端
73	G01SJ	Ⅲ層	10.07	3.98	2.17	69.90	縦 長	なし	両 面	左辺縁	打面・右辺縁
74	F10QQ	Ⅲc層	6.96	4.04	0.96	21.10	横 長	なし	両 面	左辺縁	背 面
75	G01NM	Ⅲb層	6.42	3.31	1.40	31.03	横 長	なし	背 面	末 端	打面・左辺縁
76	F15CH	Ⅱ層	6.46	4.25	0.87	28.95	横 長	なし	両 面	末 端	打面・背面
77	F15SB	Ⅱ層	4.43	3.38	0.85	15.93	斜 軸	なし	両 面	左辺縁	なし
78	F14YT	Ⅲ層	3.17	2.54	0.91	8.14	縦 長	なし	両 面	末 端	なし
79	F10WL	Ⅲ層	6.57	4.03	1.07	32.08	斜 軸	あり	両 面	末 端	右辺縁
80	F14OY	Ⅲ層	5.67	3.45	0.51	8.83	横 長	なし	両 面	末 端	左辺縁
81	F23YN	Ⅲ層	6.81	3.46	0.86	22.78	横 長	なし	両 面	末 端	打面・右辺縁
82	F19KK	Ⅱ層	5.09	3.29	0.69	12.12	縦 長	なし	両 面	右辺縁	背 面
83	J03FH	Ⅲ層	5.69	3.79	0.95	18.19	横 長	あり	両 面	末 端	なし
84	F19NJ	遺構埋土	6.95	2.74	0.89	21.42	横 長	なし	両 面	末 端	なし
85	J03HI	Ⅲ層	5.80	3.86	1.17	19.59	横 長	なし	両 面	末 端	打面・背面
86	J03AL	Ⅲ層	5.75	2.92	1.08	18.19	縦 長	あり	両 面	左辺縁	右辺縁
87	J03AI	Ⅲ層	6.67	4.99	1.95	45.88	縦 長	あり	両 面	左辺縁	打 面
88	J03CH	Ⅲc層	(6.18)	5.18	0.79	27.54	横 長	なし	両 面	末 端	なし
89	J03HG	Ⅲ層	5.71	3.32	1.54	26.01	縦 長	あり	両 面	右辺縁	打面・末端
90	J07ER	側溝	7.15	3.35	0.70	28.76	縦 長	あり	両面・腹面	左右辺縁	背 面
91	F19SF	遺構埋土	4.90	3.00	1.20	19.70	横 長	なし	両 面	右辺縁・末端	なし
92	F19MP	Ⅱ層	6.27	2.87	0.87	19.81	縦 長	あり	背 面	左辺縁	背面・右辺縁
93	J07JN	Ⅲ層	6.79	4.40	1.26	44.53	縦 長	あり	両 面	左右辺縁・末端	打面・背面
94	J07BP	Ⅲ層	5.02	2.49	0.59	8.19	斜 軸	なし	両 面	右辺縁・末端	なし
95	J02NY	Ⅲ層	7.40	6.79	2.10	91.88	斜 軸	あり	両 面	末 端	なし
96	F23IT	Ⅲa層	7.51	4.15	0.95	29.43	横 長	あり	両 面	末 端	左右辺縁
97	J02PY	Ⅲc層	5.46	3.91	0.67	13.63	斜 軸	あり	両 面	左右辺縁・末端	右辺縁
98	F15CA	Ⅱ層	11.85	9.42	2.47	181.26	横 長	あり	両 面	末 端	右辺縁
214	J11FV	I層	7.23	6.73	1.35	77.61	斜 軸	あり	両面・背面	左辺縁・末端	末 端
215	J11CX	I層	4.90	(2.06)	0.57	4.90	斜 軸	なし	腹 面	右辺縁	打 面
216	J11CX	I層	5.32	(5.12)	1.20	33.40	横 長	あり	両 面	末 端	左辺縁
217	J11DY	I層	6.88	4.06	1.24	35.61	横 長	なし	背 面	末 端	打 面
218	J11BW	I層	(3.38)	(1.97)	0.36	2.81	斜 軸	あり	腹 面	右辺縁	なし
219	J11FX	I層	5.02	3.39	0.96	10.82	横 長	あり	背 面	末 端	なし
244	J12DA	Ⅲa層	7.64	5.32	2.08	71.66	横 長	あり	両 面	末 端	右辺縁・背面
245	J12DB	Ⅲa層	5.22	3.22	0.99	16.17	横 長	なし	背 面	末 端	打 面
246	J11GU	Ⅱ層	6.50	3.75	1.08	29.39	横 長	なし	両 面	末 端	なし
247	J11FV	Ⅲa層	3.80	2.05	0.85	8.25	横 長	あり	両面・腹面	打面・末端	背 面
248	J11GV	Ⅲa層	4.18	3.23	0.65	5.88	横 長	あり	背 面	末 端	なし
249	J11DV	Ⅱ層	3.01	2.79	0.56	3.98	横 長	あり	背 面	末 端	なし
250	J11DV	17-OS	5.18	2.92	0.73	9.08	不 明	あり	腹 面	末 端	なし
306	J16KD	Ⅲb層	6.62	5.46	1.39	36.94	横 長	あり	両 面	末 端	打面・背面
307	J11YH	Ⅲb層	4.81	2.57	0.68	9.56	横 長	なし	両 面	打 面	背 面
308	J16FG	Ⅲb層	5.98	5.22	1.28	42.77	縦 長	なし	両 面	左右辺縁	打面・背面
309	J11QN	Ⅲb層	10.62	3.36	1.58	66.21	横 長	あり	両 面	打 面	左辺縁
310	J16LD	Ⅲb層	5.13	3.91	0.66	14.73	横 長	なし	両 面	末 端	打面・末端・背面
311	J16KE	Ⅲa層	6.52	3.30	0.95	22.11	斜 軸	あり	両 面	右辺縁	なし
312	J16AL	Ⅱ層	4.16	(3.16)	0.99	10.56	横 長	あり	両 面	末 端	なし

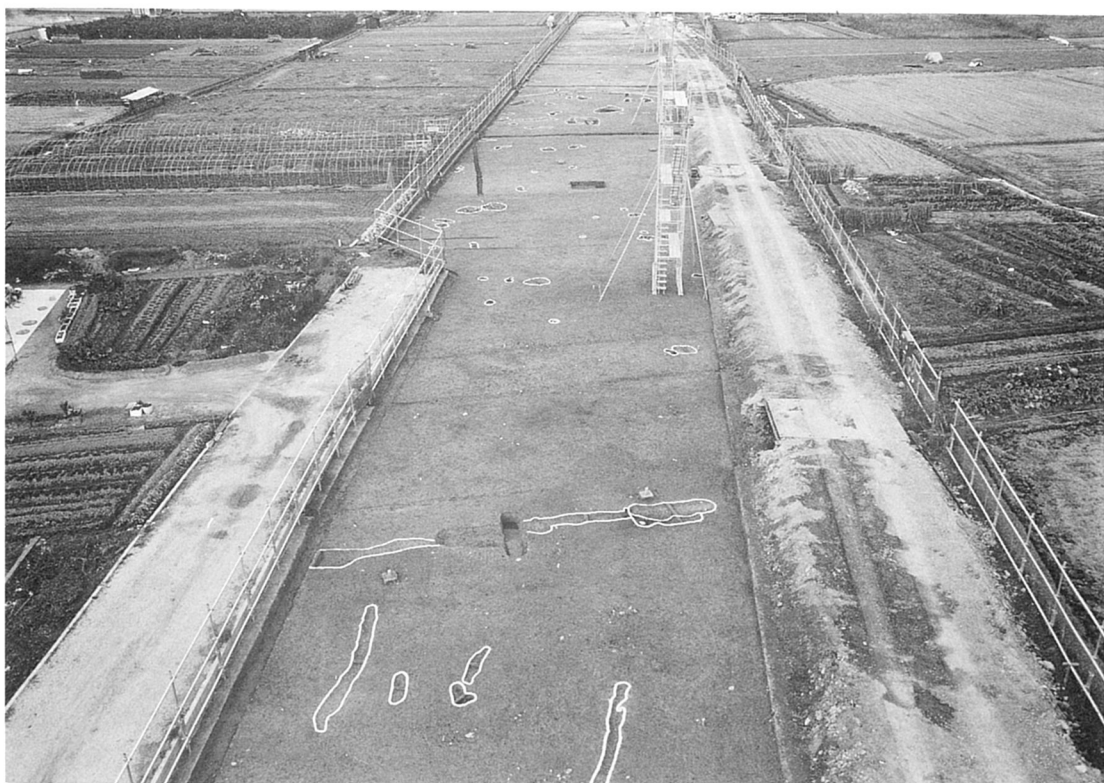
図 版



図版二 B区全景・遺構

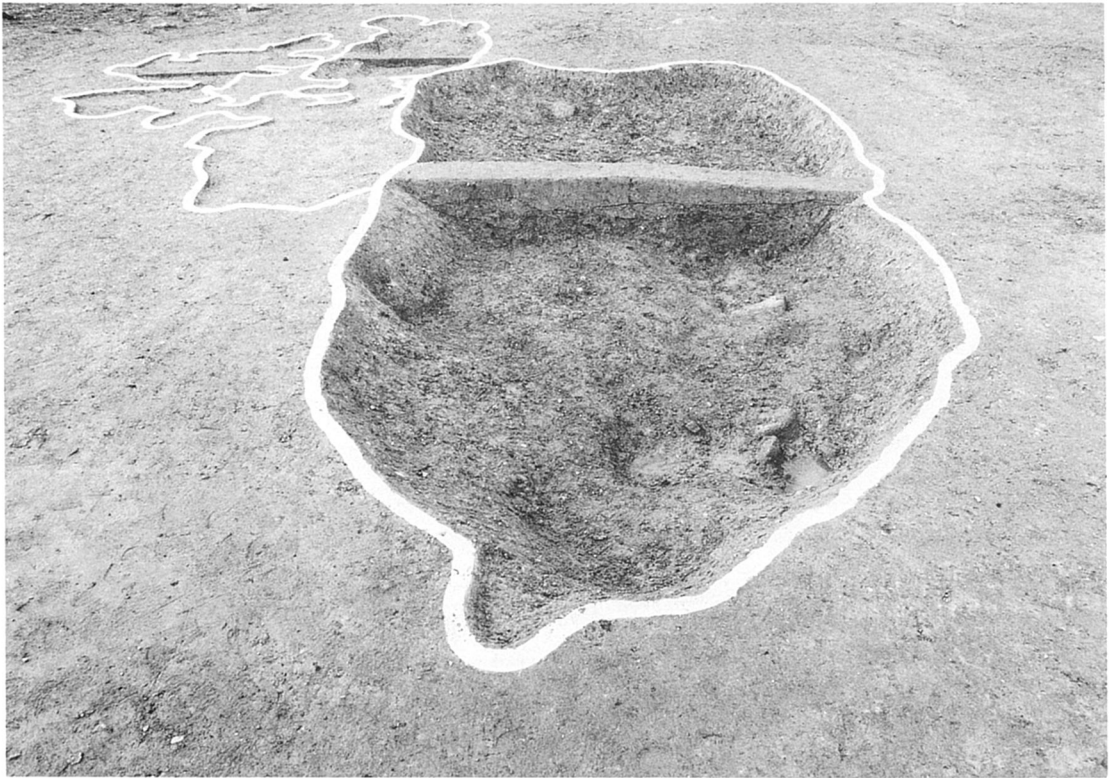


図版三 C区全景・遺構

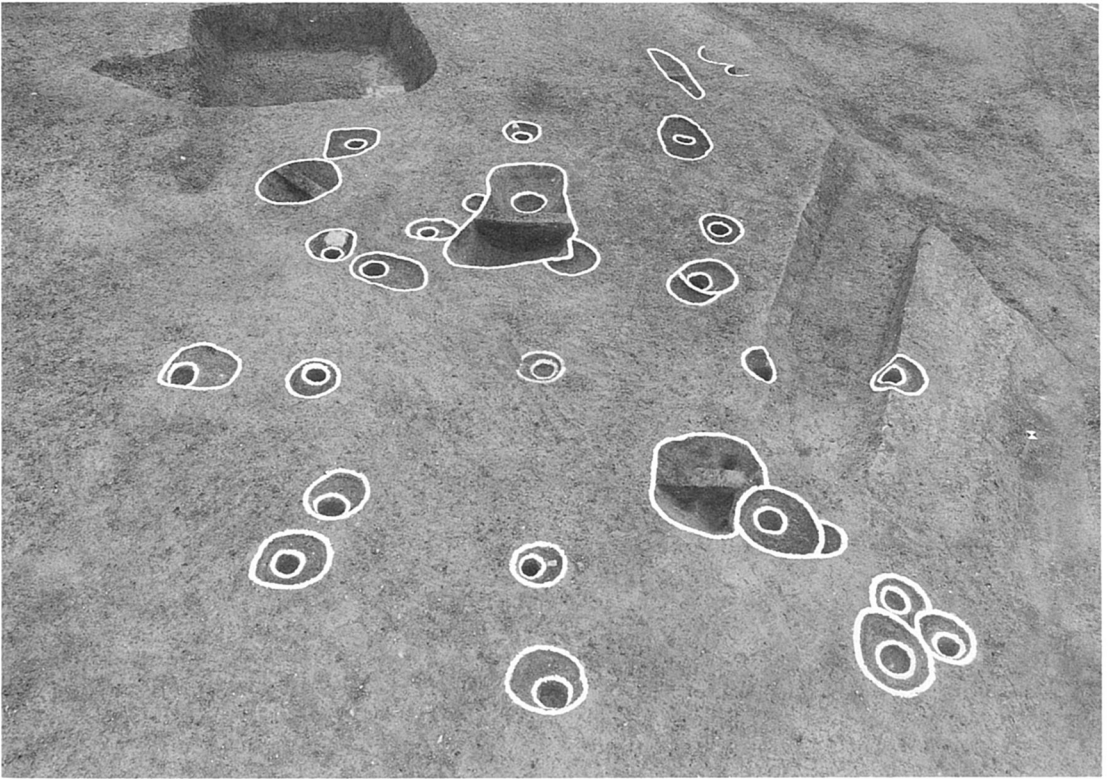




図版六
E区遺構



図版七 F区遺構(13・14—OB、16—OB)



図版八 F区遺構（航空写真）



図版九 F区遺構（平安時代建物跡群、18—OB）

